EPSON

# ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-NH ・ User's Manual

オフィスシリーズ
Type-NH

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。
必ずお読みください。
標準装備されている装置や機能と、
取り付け可能な装置について説明しています。
添付されているソフトウエアの使用方法や
インストール方法について説明しています。

## ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

# 安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

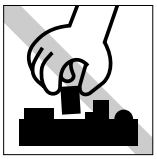
**⚠警 告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**⚠注 意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

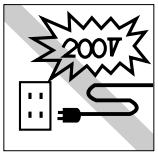
## ⚠警 告

**煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。**
**感電・火災の原因となります。**
**すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。**
**お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。**

**マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。**
**けがや感電・火災の原因となります。**

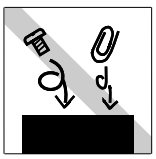


**電源は、交流100V以外では使用しないでください。**
**交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。**

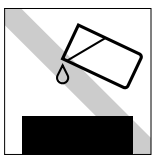



**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**
**感電の原因となります。**

**通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。**
**感電・火災の原因となります。**



**異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。**
**感電・火災の原因となります。**
**すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。**

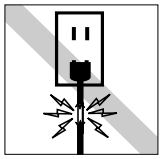


# ⚠警 告

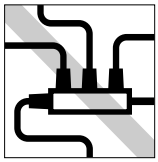
破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- 電源コードの上に重いものを載せない。
- 発熱器具の近くに配線しない。

電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

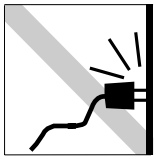


電源コードのたこ足配線はしないでください。
発熱し、火災の原因となります。
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。
取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



本体や付属のバッテリパック類を火中に入れたり、加熱しないでください。
破裂などで火傷の原因となります。

バッテリパックの端子をショートさせないでください。
火傷の原因となります。

付属のACアダプタやバッテリパックを分解しないでください。
火傷や、化学物質による被害の原因となります。

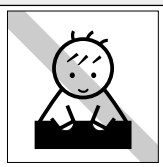
小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま本製品を分解しないでください。感電や火傷の原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。
感電の原因となります。

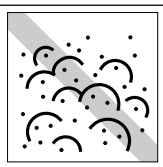
# ⚠注 意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



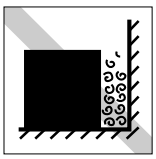
不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

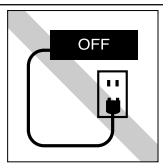


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

- 押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
- じゅうたんや布団の上には設置しない。
- 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

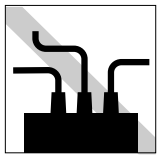


連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。




各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



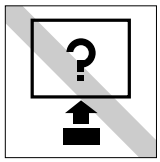
FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

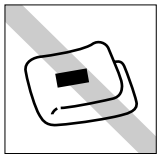
バッテリパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
破損すると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

# ⚠注 意

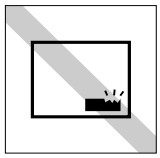
**ACアダプタやバッテリパックは、本製品以外には使用しないでください。**
**火傷・火災の危険があります。**



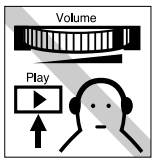
**ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。**
**火傷・火災の危険があります。**



**破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。**
**火傷・火災の危険があります。**



**ヘッドフォンやスピーカは､ボリュームを最小に調節してから接続し､接続後に音量を調節してください。**
**ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。**




**長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。**
**肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。**

**メモリの交換は本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。**

**液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。**
**火傷や化学物質による被害の原因となります。**
**万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。**

**ひざの上で長時間使用しないでくだい。本体底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。**

### ● 使い始めるまでの準備

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方／切り方などについて説明します。

### ● コンピュータの基本操作

本機の各部の名称や使い方について説明します。

### ● システムの拡張

メモリの増設や、コンピュータに接続できる装置について説明します。

### ● BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

### ● こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法について説明します。

### ● 付録

お手入れ方法、ハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法や仕様などについて説明します。

# 目　次


マニュアル中の表記について　(10)

製品保護上の注意　(13)

使用・保管時の注意 ..... (13)
記録メディア ..... (14)

## 使い始めるまでの準備

ご使用の前に　2

コンピュータを使い始めるまでの手順 .. 2
ご使用の前の確認事項 ..... 3
本機の特長 ..... 4
添付ソフトウェアの概要 ..... 5

各部の名称と働き　7

正面・左側面 ..... 7
右側面 ..... 10
背面 ..... 11
底面 ..... 12

ハードウェアをセットアップしましょう　13

電源の入れ方とWindowsのセットアップ　18

Windowsを使用できるようになるまでの作業 .. 18
電源を入れる前に ..... 19
電源の入れ方とWindowsの起動 ..... 20
Windowsのセットアップ ..... 21

セットアップ終了後の作業　25

バックアップディスクの作成 ..... 25
セットアップブートディスクの作成
（Windows2000のみ） ..... 27
ネットワークに接続する ..... 28
FAXモデムの設定 ..... 28
メールユーティリティのインストール ... 28
Power Gear（パワーギア）
ユーティリティのインストール ..... 28
赤外線通信の設定 ..... 29
VirusScan for Windowsのインストール .. 29
S/P DIFの設定（Windows2000のみ） .. 29

Windows使用時の確認事項　30

2回目以降に電源を入れる ..... 30
音量の調節 ..... 30
省電力機能 ..... 31
デバイスドライバを
インストールするときは ..... 31
インタラクティブトレーニング
（WindowsXPのみ） ..... 31
デスクトップクリーンアップ ..... 32
JAVA VMのインストール
（WindowsXPのみ） ..... 33

電源の切り方　34

Windows2000の終了と電源の切り方 .. 34
WindowsXPの終了と電源の切り方 .. 35
リセット ..... 36

## コンピュータの基本操作

ACアダプタ/バッテリパックを使う　40

バッテリパックを使う ..... 41
バッテリ残量の確認 ..... 42
バッテリ残量が少なくなったら ..... 43
バッテリの充電 ..... 45
バッテリ残量が正しく
表示されないときは ..... 46
バッテリの交換 ..... 47
バッテリ保管上の注意 ..... 49
使用済みバッテリの取り扱い ..... 49

タッチパッドを使う　50

タッチパッドの操作 ..... 50
タッチパッドユーティリティを使う .. 52

マウスの接続 ..... 53

**キーボードを使う 54**

キーの種類と役割 ..... 54
文字を入力するには ..... 55
日本語を入力するには ..... 55
記号や数値の入力 ..... 56
Fnキーと組み合わせて使うキー ..... 57
Windowsキー ..... 58
インスタントキー ..... 59
外付けキーボードの接続 ..... 59

**FDD（フロッピーディスクドライブ）を使う 60**

FDのセットと取り出し ..... 60
FDのフォーマット ..... 61
データのバックアップ ..... 62
ライトプロテクト（書き込み禁止） .. 62
コンピュータ持ち運び時の注意 ..... 62

**HDD（ハードディスクドライブ）を使う 63**

データのバックアップ ..... 63
購入時のHDD領域について ..... 63

**CD-ROMドライブを使う 64**

CD-ROMのセットと取り出し ..... 64
強制的なメディアの取り出し ..... 66

**PCカードを使う 67**

PCカードのセットと取り外し ..... 68

**赤外線通信を使う 71**

通信モードの設定 ..... 71
赤外線デバイスの設定 ..... 72
赤外線通信の実行 ..... 73

**表示装置を使う 75**

LCDユニット ..... 75
CRTディスプレイ ..... 77
テレビ ..... 80

**解像度や表示色を変更する 81**

解像度や表示色の変更方法 ..... 81
表示できる解像度と表示色 ..... 83

**サウンド機能を使う 84**

外部オーディオ機器などの接続 ..... 85

**FAXモデムを使う 87**

お使いになる前に ..... 87

**インターネットに接続するには 89**

ダイヤルするための準備 ..... 92
手動でダイヤルアップ接続の設定をする .. 92
回線接続前の設定（WindowsXP） .... 97

**Internet Explorerと Outlook Expressの使い方 99**

起動方法 ..... 99
終了方法 ..... 101
Internet Explorerの使い方 ..... 102
Outlook Expressの使い方 ..... 103
メールユーティリティを使う ..... 105

**省電力機能を使う 106**

省電力機能の種類 ..... 106
省電力機能使用時の制限 ..... 107
実行方法 ..... 108
復帰方法 ..... 110

**CPU速度を調整する 111**

スピードステップ機能 ..... 111
Power Gear（パワーギア）機能 ... 112

**そのほかの機能 114**

ネットワーク機能を使う ..... 114
パラレルコネクタを使う ..... 114
シリアルコネクタを使う ..... 115

USBコネクタを使う ..... 115
IEEE1394コネクタを使う ..... 116
コンピュータウィルスの検索・駆除 ... 116

## システムの拡張

**拡張できる装置 118**

**メモリモジュールの増設 119**

作業時の注意 ..... 119
メモリの増設 ..... 120

**外付け可能な周辺機器 124**

## BIOSの設定

**BIOSの設定を始める前に 126**

**BIOS Setupユーティリティの操作 127**

BIOS Setupユーティリティの起動 .. 127
BIOS Setupユーティリティの操作 .. 128
設定値をもとに戻すには ..... 130
BIOS Setupユーティリティの終了 .. 131

**BIOS Setupユーティリティの設定項目 132**

Mainメニュー画面 ..... 132
Advancedメニュー画面 ..... 134
Securityメニュー画面 ..... 135
Powerメニュー画面 ..... 137
Bootメニュー画面 ..... 138
Exitメニュー画面 ..... 138
BIOS Setupユーティリティの設定値 .. 139

## こんなときは

**困ったときに 142**

コンピュータ本体の不具合 ..... 142
省電力機能に関する不具合 ..... 145
バッテリパック使用時の不具合 .... 146
キーボードの不具合 ..... 147
タッチパッドの不具合 ..... 148
LCDの不具合 ..... 148
FDDの不具合 ..... 151
HDDの不具合 ..... 152
CD-ROMドライブの不具合 ..... 153
アプリケーションソフトの不具合 .... 154
メモリの不具合 ..... 155
PCカードの不具合 ..... 155
プリンタの不具合 ..... 156
内蔵スピーカの不具合 ..... 156
インストール時の不具合 ..... 157
FAXモデムの不具合 ..... 158

**警告メッセージが表示されたら 160**

## 付録

**お手入れ 164**

本機のお手入れ ..... 164

**リチウム電池の交換 165**

**ATコマンドの使用 166**

**HDDを購入時の状態に戻す 168**

必要なメディア ..... 168
HDDを購入時の状態に戻す順番 ... 169
HDDを購入時の状態に
戻す場合の注意 ..... 170
リカバリの実行 ..... 172
ディスプレイの設定 ..... 174
各種ドライバのインストール ..... 176

**HDD領域の変更 178**

MS-DOS領域の種類 ..... 178
HDD領域変更の手順 ..... 179
FDISKコマンド ..... 181
コンピュータの起動 ..... 182
HDD領域の変更（Windows2000） .. 183
HDD領域の変更（WindowsXP） .. 187

**機能仕様一覧 192**

**用語集 193**

**索引 200**

# マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

### 安全に関する記号

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 一般情報に関する記号

**制限事項です。**
機能または操作上の制限事項を記載しています。

**参考事項です。**
覚えておくと便利なことを記載しています。

**説明文が次ページに続くことを示します。**

**参照ページを示します。**

**1 2**

**操作手順です。**
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

**で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。**
↵はEnterキーを表します。また、N は Nみ のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

Ctrl + Z

**＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。**
この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

### 名称の表記

本書ではコンピュータに関連する製品の名称を次のように略して表記します。

| | |
|---|---|
| **HDD** | **ハードディスクドライブ** |
| **FD** | **フロッピーディスク** |
| **FDD** | **フロッピーディスクドライブ** |

### オペレーティングシステムに関する表記

本書ではオペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

| | |
|---|---|
| **Windows2000** | **Microsoft® Windows® 2000 Professional** |
| **WindowsXP** | **Microsoft® Windows® XP Professional**<br>**Microsoft® Windows® XP Home Edition** |
| **MS-DOS** | **Microsoft® MS-DOS® Operating system** |

### Windowsの画面表示に関する記載方法（Windows２０００）

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

**デスクトップ**
Windowsが起動して、ディスプレイに表示される画面。

**タブ**

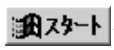
**ボタン**

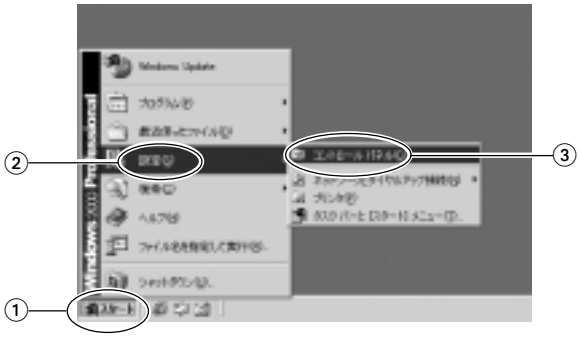
**タスクバー**
起動中のアプリケーションが表示されたり、画面の設定、音量の設定ができるアイコンが表示されるバー。

**アイコン**
デスクトップやタスクバー上の小さなイラスト。
機能などをイラストで表示しています。

### Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

●記載例　：［スタート］をクリックします。
実際の操作　：  をクリックします。




●記載例　：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。
実際の操作　：① **［スタート］**をクリックします。
② 表示されたメニューから**「設定」**をクリックします。
③ 横に表示されるサブメニューから**「コントロールパネル」**をクリックします。

### Windowsの画面表示に関する記載方法（WindowsXP）

本書では、WindowsXP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

※ マニュアル中で使用している画面は、おもにWindows2000のものです。

WindowsXPで表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。

**デスクトップ**
Windowsが起動して、ディスプレイに表示される画面。

**タブ**

**ボタン**

**アイコン**
デスクトップやタスクバー上の小さなイラスト。機能などをイラストで表示しています。

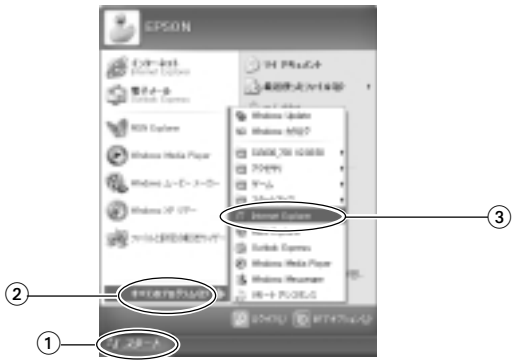
**タスクバー**
起動中のアプリケーションが表示されたり、画面の設定ができるアイコンが表示されるバー。

### Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

●記載例　　：［スタート］をクリックします。

実際の操作　： をクリックします。




●記載例　　：［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作　：① **［スタート］**をクリックします。

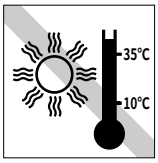
② 表示されたメニューから**「すべてのプログラム」**をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから**「Internet Explorer」**をクリックします。

# 製品保護上の注意

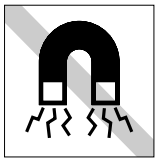
## 使用・保管時の注意

コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。

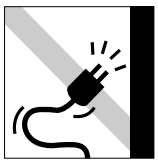



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

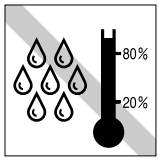
直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



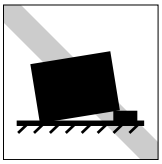
電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



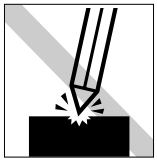

湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20%～80%です。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。



LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

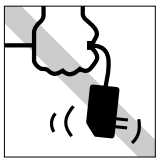
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。

本製品を長期間使わないときは、バッテリパックを本機にセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

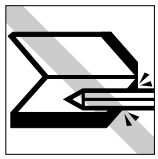
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、LCDやバックライトが割れることがあります。

本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。



ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

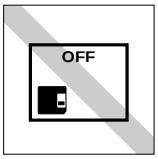
カバーを強く押さえないでください。カバーの中には、液晶ディスプレイ用の蛍光管があります。部分的に強く力を加えると、この蛍光管が破損することがあります。また、液晶ディスプレイのガラスが破損したり表示不良になることがあります。



キーボードの上などに、物(ボールペンなど)を挟んだまま、カバー(液晶ディスプレイ)を閉じないでください。

コンピュータ・バッテリパックは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。

本製品のカバー(液晶ディスプレイ)を開けた状態で、カバー部分を持って移動しないでください。




本製品を持ち運ぶときはFDを抜いてください。FDDイジェクトボタンに無理な力がかかり破損の原因になります。

## 記録メディア

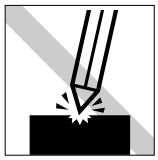
以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

- FD **FD**
- CD-ROM・DVD-ROMなど **CD**

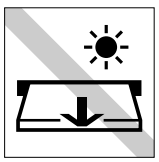
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

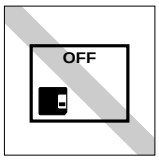
上に物を載せないでください。



キズを付けないでください。



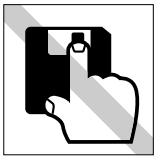
アクセスLEDが点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を押したり、リセットをしないでください。




使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

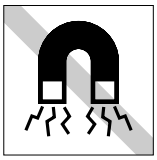
ゴミやホコリの多いところでは使用しないでください。また、そのような場所に記録メディアを保管しないでください。

クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。**FD**

磁性面にホコリや水を付けないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。**FD**



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。**FD**

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。**FD**

信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。**CD**

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。**CD**

信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。**CD**

CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。**CD**

レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。**CD**

シールを貼らないでください。**CD**

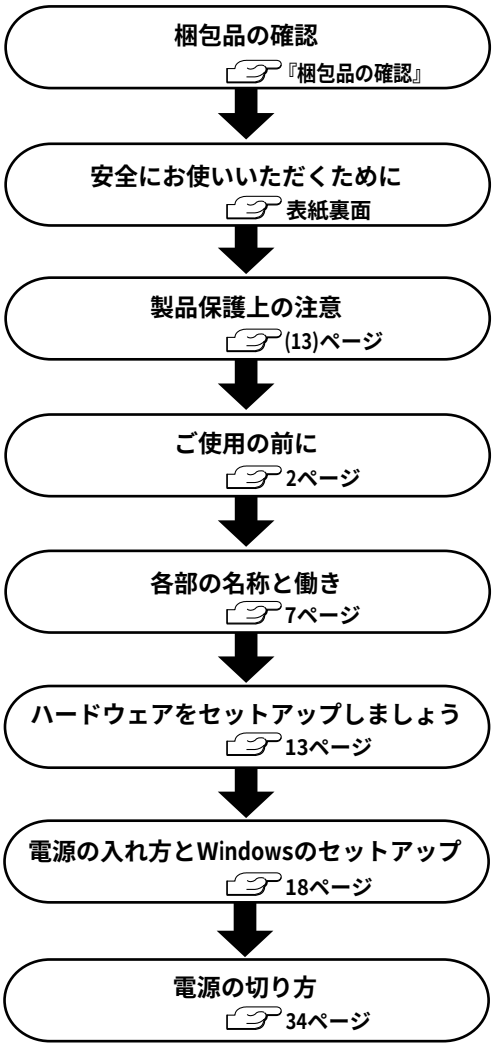
# 使い始めるまでの準備

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方/切り方などについて説明します。

# ご使用の前に

## コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。




まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。

正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。必ずお読みください。

正しく取り扱っていただくための情報を確認します。必ずお読みください。

本機を使用する前に必要な情報を確認します。

本機の、各部の名称と働きを確認します。

各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。

電源を入れ、Windowsを初めて起動したときに実行されるWindowsのセットアップを行います。

Windowsを終了し、本機の電源を切ります。

# ご使用の前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

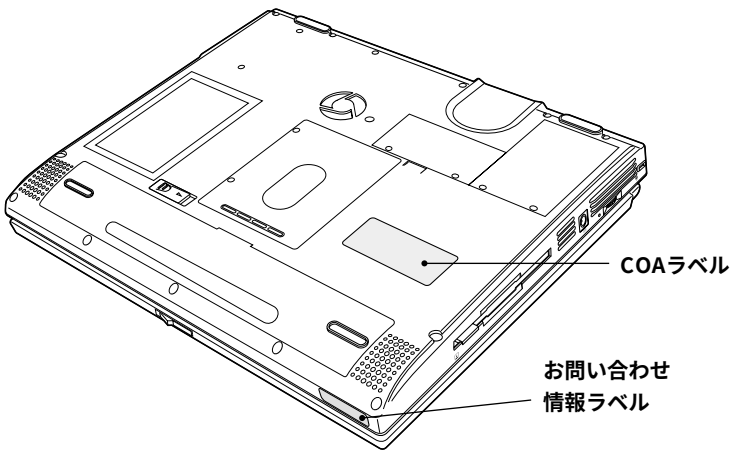
- **お問い合わせ情報ラベル**

  お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

  製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

- **COAラベル**

  COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）」は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。絶対にはがさないでください。

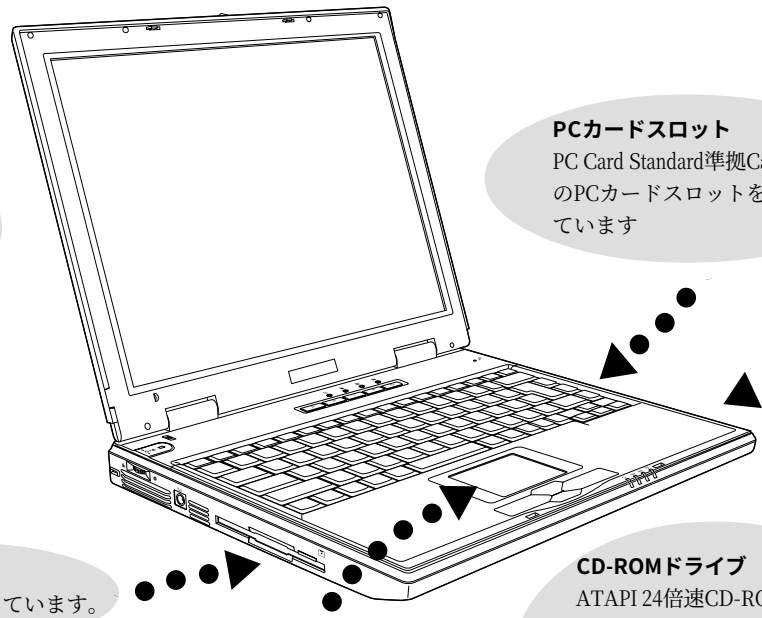


# 本機の特長

**メモリ容量**
DDR対応のSDRAMを装着して、最大1GBまで増設が可能です。

**CPU性能**
モバイルインテルPentium 4 プロセッサ-MまたはモバイルインテルCeleronプロセッサを搭載しています。

**表示装置**
14.1型TFTまたは15型TFT 液晶ディスプレイを搭載しています。CRTディスプレイやテレビにも接続できます。



**電源**
ＡＣアダプタ、またはバッテリパックを使用します。

**PCカードスロット**
PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを2本装備しています

**FDD**
3.5型FDDを内蔵しています。

**ポインティングデバイス**
スクロールボタン付きタッチパッドを搭載しています。

**CD-ROMドライブ**
ATAPI 24倍速CD-ROMドライブを装備しています。
CD-ROMドライブのかわりにCD-R/RWドライブまたはコンボドライブが装備されたモデルもあります。

**そのほか**
・光デジタルオーディオ出力を装備しています。
・モデム機能を搭載しています。
・ネットワーク機能を搭載しています。

**オペレーティングシステム**
Windows2000、またはWindowsXPをインストール済みです。

# 添付ソフトウェアの概要

本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時のシステム構成によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。

**記号の見方**

：**内蔵HDDにインストールされています。**

：**インストールされていません。必要に応じてWindowsのセットアップ後にインストールしてください。**

×：**添付されていません。**

## リカバリCDに登録されているソフトウェア

| ソフトウェア | インストール状態 | |
|---|---|---|
| | Windows2000 インストールモデル | WindowsXP インストールモデル |
| ● **Windows**<br>Windowsは最新のものがインストールされています。 | | |
| ● **インテル845MPチップセット用ドライバ**<br>メインボード上のデバイスが正常に使用できるようにするデバイスドライバです。 | | |
| ● **タッチパッドユーティリティ**<br>タッチパッドの各種設定を行うためのユーティリティです。 | | |
| ● **ディスプレイドライバ**<br>Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。 | | |
| ● **サウンドドライバ**<br>音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。 | | |
| ● **FAXモデムドライバ**<br>FAXモデム機能を使用するためのデバイスドライバです。 | | |
| ● **ネットワークドライバ**<br>ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。 | | |
| ● **スピードステップユーティリティ（Pentium4搭載モデルのみ）**<br>使用電源をチェックして、CPUの最適速度でコンピュータを動作させるためのユーティリティです。 | | ×＊ |
| ● **Power Gear（パワーギア）ユーティリティ**<br>CPU速度やLCD輝度を調整して消費電力を抑えるためのユーティリティです。 | | |
| ● **インスタントキードライバ**<br>インスタントキーを使用するためのデバイスドライバです。 | | |
| ● **メールユーティリティ**<br>メールLEDを機能させるためのユーティリティです。 | | |

＊　ユーティリティはインストールされていませんが、WindowsXPが標準で機能を持っています。

## ユーティリティCDに登録されているソフトウェア

| ソフトウェア | インストール状態 | |
|---|---|---|
| | Windows2000 インストールモデル | WindowsXP インストールモデル |
| ●VirusScan for Windows<br>最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。 | | |
| ●Adobe Acrobat Reader<br>様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。 | | |

## DV Symphomovie CD-ROMに登録されているソフトウェア

| ソフトウェア | インストール状態 | |
|---|---|---|
| | Windows2000 インストールモデル | WindowsXP インストールモデル |
| ●DV Symphomovie<br>ビデオ編集のためのソフトウェアです。 | | |

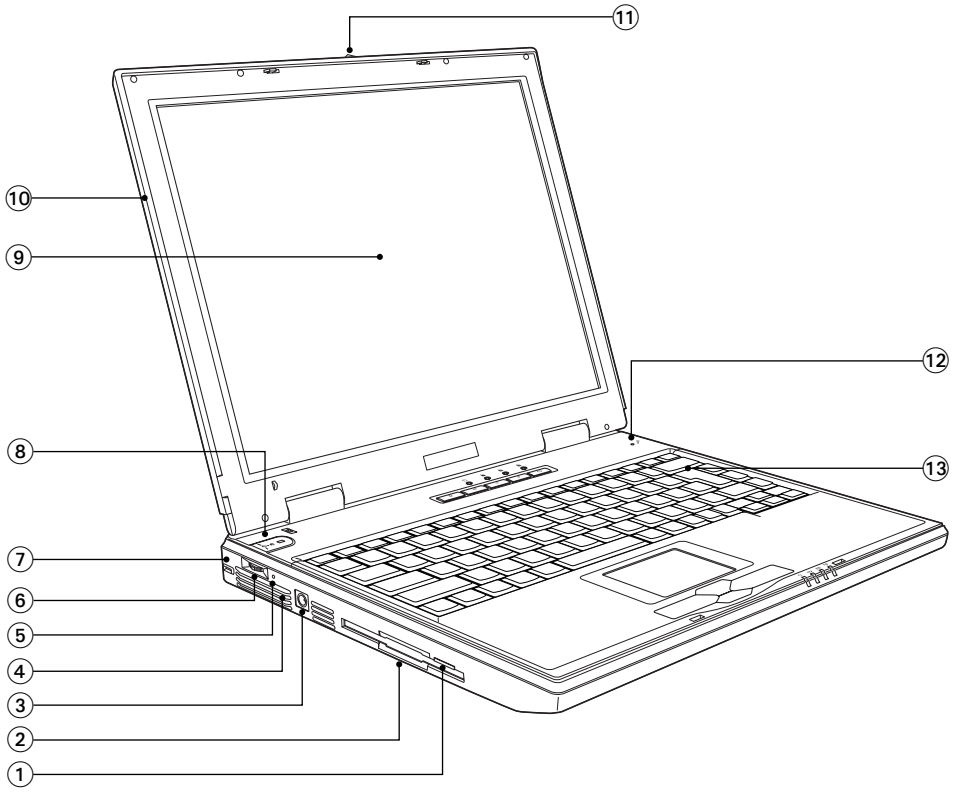
## バックアップディスクを作成するソフトウェア

| ソフトウェア | インストール状態 | |
|---|---|---|
| | Windows2000 インストールモデル | WindowsXP インストールモデル |
| ●ユーザーズマニュアル(PDFファイル)<br>「ユーザーズマニュアルファイル」(本書)が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。 | | |

# 各部の名称と働き



## 正面・左側面




① **FDDイジェクトボタン**
FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

② **3.5型FDD**
3.5型FDDの読み出し、書き込みを行います。

③ **ACアダプタコネクタ** DC IN
付属のACアダプタを接続します。

④ **通風孔**
コンピュータ内部で発生する熱を逃がしたり、冷したりします。

⑤ **リセットホール**
コンピュータのリセットを行います。

⑥ **ボリューム調節ダイヤル**
スピーカの音量を調節します。

⑦ **セキュリティロックスロット**
市販の盗難防止用ケーブル(ワイヤー)を接続します。(ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています。)

⑧ **ミュートLED**
スピーカのONとOFFの状態を示します。

| | |
|---|---|
| 緑点灯 | スピーカOFF |
| 消　灯 | スピーカON |

⑨ **LCD画面**
入力した文字や、作業内容を表示します。

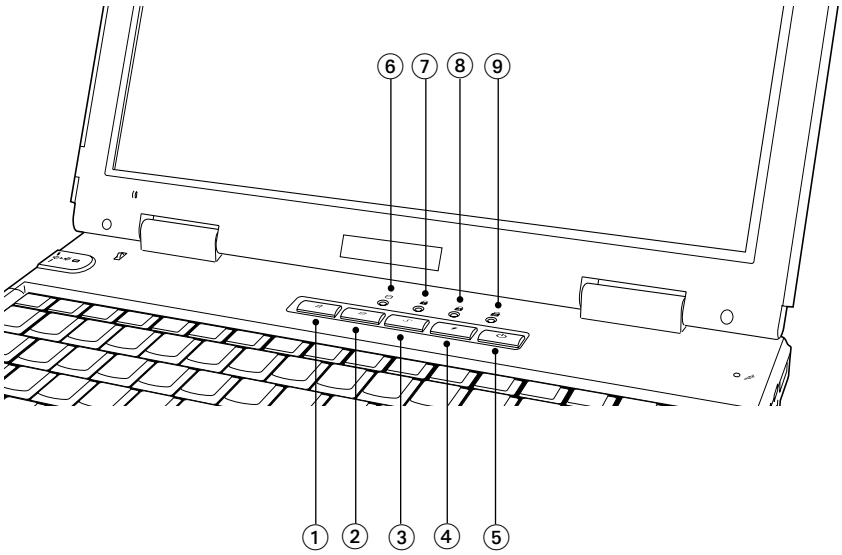
⑩ **LCDユニット**
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

⑪ **LCDラッチ**
LCDユニットを開くときにスライドします。

⑫ **内蔵マイク**
音声をコンピュータに取り込むときに使用します。

⑬ **キーボード**
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

## インスタントキー
## ステータスLED




① **Power Gearキー**
CPU速度やLCD輝度を抑えることで消費電力を低減します(Celeron搭載モデルではLCD輝度の調整のみ行います)。使用するにはユーティリティのインストールが必要です。

② **メールキー**
「Outlook Express」を起動します。

③ **インターネットキー**
「Internet Explorer」を起動します。

④ **アプリケーションキー**
「マイドキュメント」を開きます。

⑤ **電源スイッチ**
本機の電源の入/切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用できます。

⑥ **アクセスLED**
HDDアクセス中に緑色に点灯します。

⑦ **NumLock LED**
NumLockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

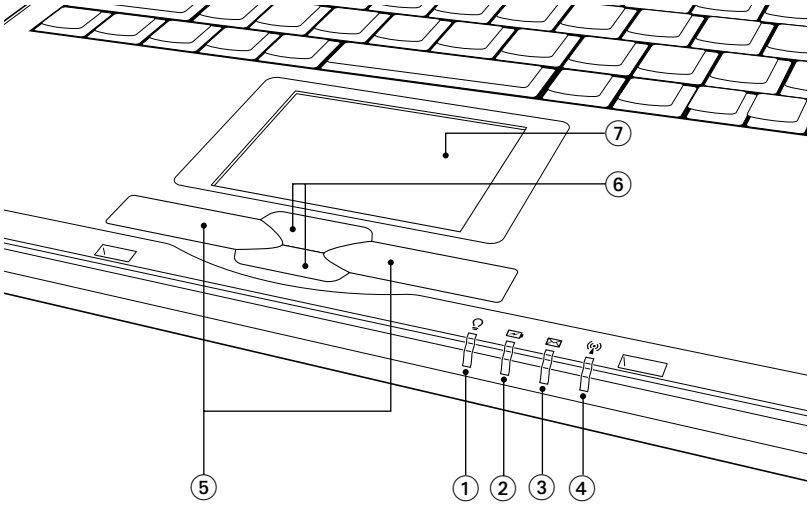
⑧ **Caps Lock LED**
Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、Shiftキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

⑨ **Scroll Lock LED**
Scroll Lockキーの設定状態を表示します。

**制限**

**アクセスLEDが点灯しているときに電源を切ったり、コンピュータをリセットしないでください。データが破壊されるおそれがあります。**

## タッチパッド ステータスLED




**① 電源LED**
電源状態を示します。

| | |
|---|---|
| 緑点灯 | 通常モード |
| 緑点滅 | スタンバイモード |
| 消　灯 | 電源切断時または休止状態 |

**② バッテリ充電LED**
バッテリの充電状態を示します。

| | |
|---|---|
| 橙点灯 | 充電中 |
| 消　灯 | 満充電 |

**③ メールLED**
「Outlook Express」または「Outlook」使用時に未開封メールがあると青色に点灯します。使用するにはメールユーティリティのインストールが必要です。

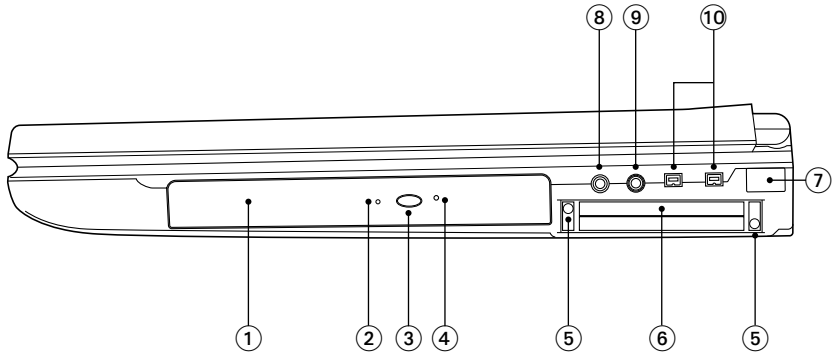
**④ 使用しません。**

**⑤ クリックボタン**
マウスの左右ボタンに相当します。

**⑥ スクロールボタン**
「画面をスクロールさせる」など、特定の機能を実行します。

**⑦ タッチパッド**
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

# 右側面




① **CD-ROMドライブ（CD-ROMドライブモデルの場合）**
CD-ROMの読み出しを行います。

② **CD-ROMアクセスランプ**
データのアクセス中やオーディオCD再生中に点灯します。

③ **CD-ROMイジェクトボタン**
ディスクトレイの開閉を行います。

④ **CD-ROMイジェクトホール**
ディスクトレイが開かなくなったときに使用します。

⑤ **PCカードイジェクトボタン**
PCカードを取り出すときに押します。

⑥ **PCカードスロット**
PC Card Standard 規格準拠のPCカードをセットして使用します。

⑦ **赤外線ポート**
赤外線通信を行うときに赤外線の送受信を行います。

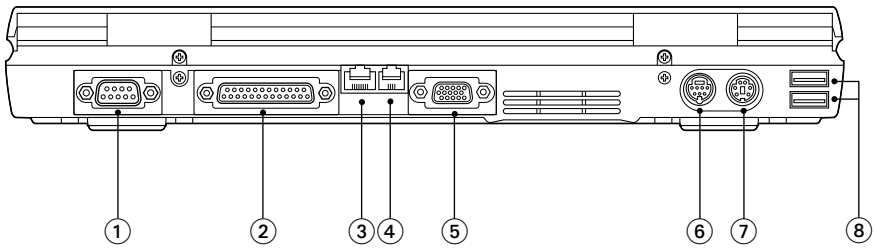
⑧ **ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力（S/PDIF）コネクタ**
スピーカ、ヘッドホンなどを接続するほかにMDデッキなどのデジタルオーディオ機器を接続します。

⑨ **マイク入力コネクタ**
マイクを接続します。

⑩ **IEEE1394コネクタ** *1394*
IEEE1394機器を接続します（4ピン）。

*①②③④の名称および位置はお使いのモデルによって異なります。
各モデルに添付のマニュアルをご覧ください。

# 背面




① **シリアルコネクタ**
モデムなどのRS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

② **パラレルコネクタ**
プリンタやスキャナなどを接続します。

③ **LANコネクタ**
ネットワークを接続します。

④ **モデムコネクタ**
電話回線と接続します。

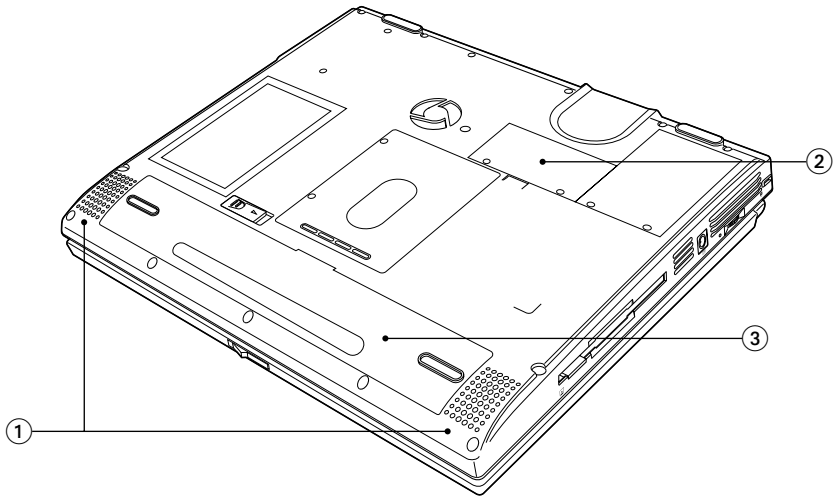
⑤ **VGAコネクタ**
CRTディスプレイなど外付けディスプレイ(アナログタイプ)を接続します。

⑥ **ビデオ出力ジャック**
テレビのS端子と接続します。

⑦ **キーボード／マウスコネクタ**
PS/2の外付けキーボードやマウスを接続します。

⑧ **USBコネクタ**
USB対応機器を接続します。

# 底面




① **内蔵ステレオスピーカ**
警告音や音声などを鳴らします。

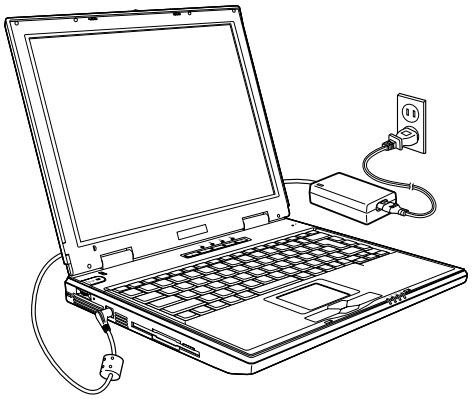
② **メモリスロット**
メモリスロットカバーを開け、メモリを増設することができます。

③ **バッテリパック**
バッテリパックが装着されています。

# ハードウェアをセットアップしましょう



本機を、基本的なシステム構成でセットアップする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合はWindowsのセットアップ終了後に周辺機器のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。



**設置における注意**

注意

- **本機の底面は熱くなるため、ひざの上に置いて長時間使用しないでください。熱による火傷の危険があります。**
- **不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。**
- **本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。**
  - **・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。**
  - **・じゅうたんや布団の上には設置しない。**
  - **・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。**

**各種コードやバッテリパック装着時の注意**

警告

- **ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。**
- **電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。**
- **電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。**
  - **・ 電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。**
  - **・ 電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。**

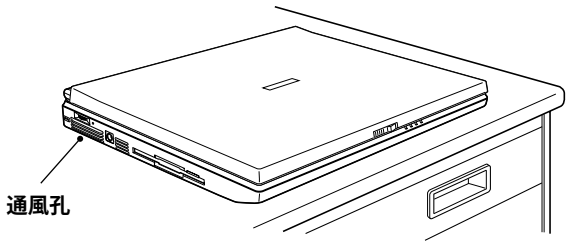
注意

**各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。**

## 設置する

### 1 本機を設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。

左側の通風孔をふさがないようにしてください。

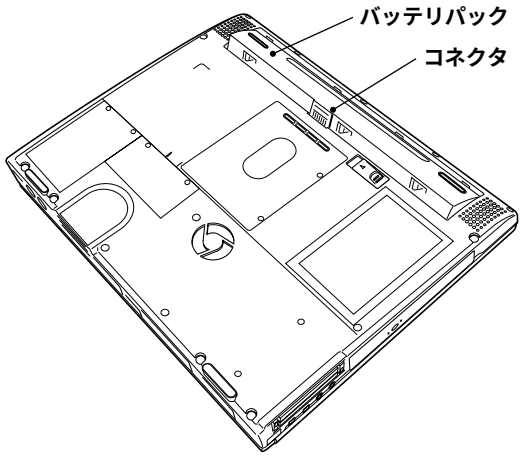



## バッテリパックを装着する

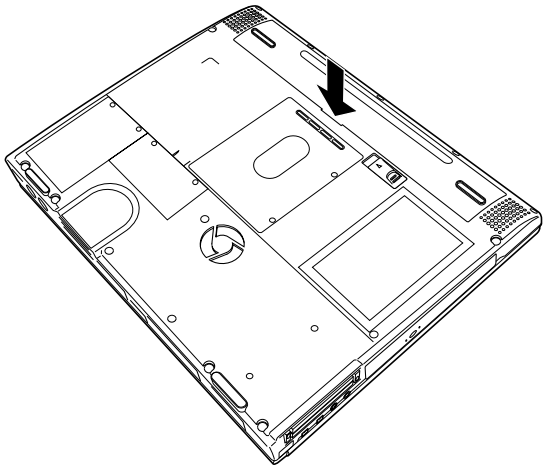
### 2 バッテリパックを装着します。

❶ コンピュータの底面部を上にして置きます。

❷ 下図のとおりバッテリパックをコンピュータに合わせます。



❸ **コネクタ側をカチッと音がするまで押し込みます。バッテリが固定されます。**



本機はバッテリパックだけで使用できます。ただし、出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

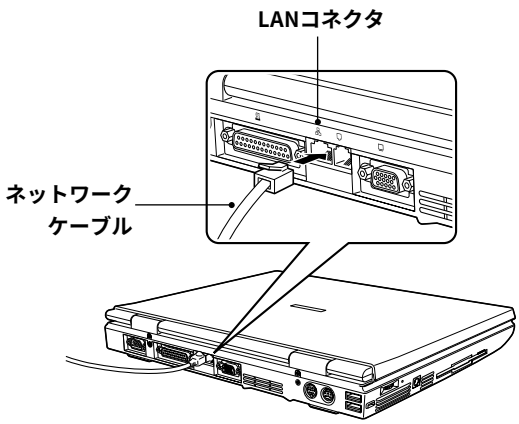
☞ p.40「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

**ネットワークへの接続をする**

## 3 ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークケーブルでネットワークと接続します。

**ネットワークコネクタがカチッと音がするまで差し込みます。**

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



## 電話回線への接続をする

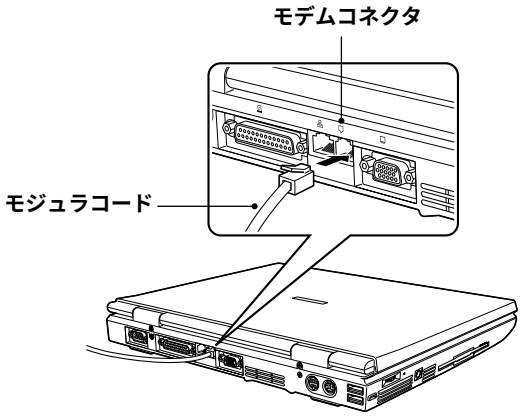
注意

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

### 4 FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線への接続を行います。

- 付属のモジュラコードをモデムコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。
- モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。

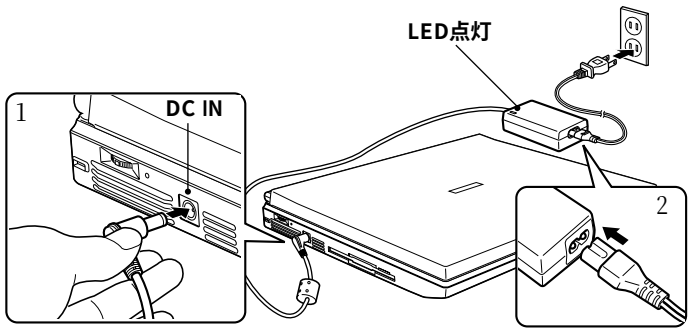


## ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

### 5 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

1 **ACアダプタのプラグ部を本体左側面のACアダプタコネクタ(DC IN)に接続します。**
2 **電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。**

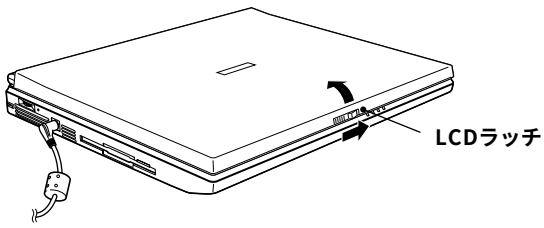



制限 **ACアダプタを接続して使うときも、必ずバッテリパックをセットした状態で使ってください。**

## LCDユニットを開ける

### 6 前面のLCDラッチを矢印方向にスライドさせて、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。



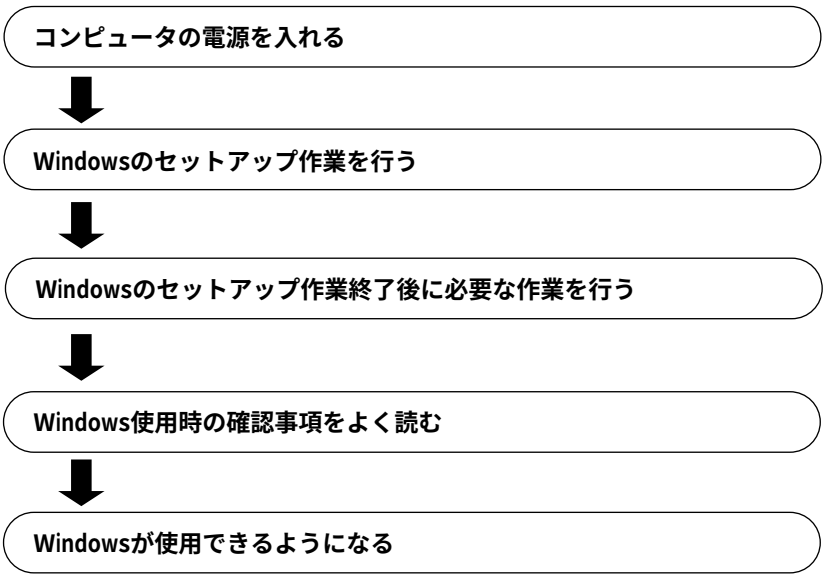

**これでハードウェアのセットアップは終了です。**

# 電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

## Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



# 電源を入れる前に

**Windowsのセットアップ**

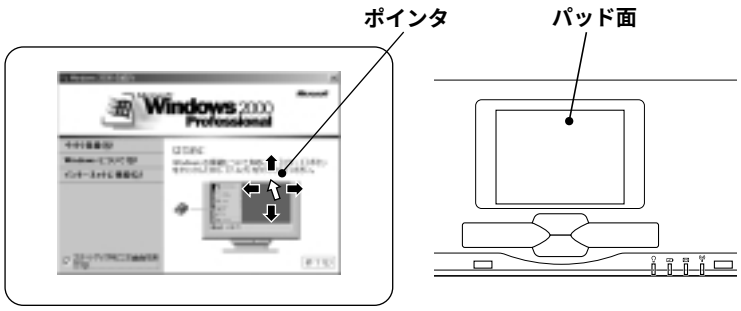
「Windowsセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

**タッチパッドの使い方**

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

**■ ポインタを動かす**

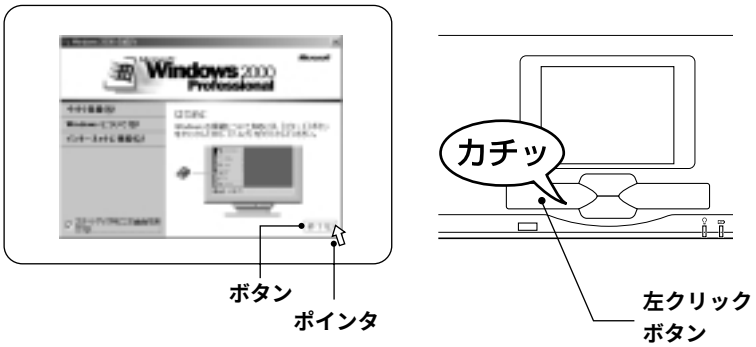
**人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。**




**■ ボタンをクリックする**

**❶ 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。**

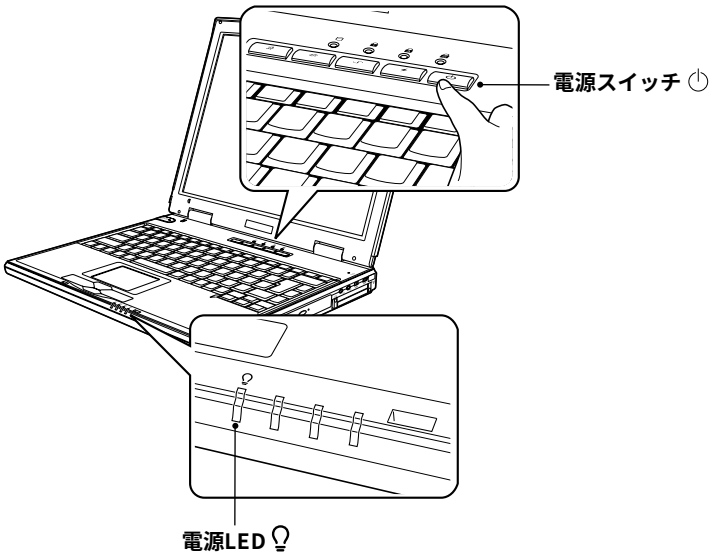
**❷ 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。**
**この動作を「クリック」と言います。**
**ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。**



# 電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は次のとおりです。

**1** **電源スイッチを押して、本機の電源を入れます。電源LEDが点灯します。**
電源を入れたときに電源LEDが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認し、正しく接続し直してください。




**2** **画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**

**続いてWindowsのセットアップを行います。**


- Windows2000インストールモデル☞ p.21
- WindowsXPインストールモデル☞ p.23


次の調節をして画面を見やすくします。

- 角度　　LCDパネルを前後に動かします。
- 画面の明るさ　Fn + F6：明るくなります。
  Fn + F5：暗くなります。

# Windowsのセットアップ

**Windows2000インストールモデル**

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

**1** **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

**Windows2000セットアップウィザードの開始**

↓

**ライセンス契約**

↓

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

**ソフトウェアの個人用設定**

↓

ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
※ 名前を入力後Tabを押すと組織名の欄にポインタが移動します。

**コンピュータ名とAdministratorのパスワード**

↓

「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

**日付と時刻の設定**

↓

「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

**Windows2000セットアップウィザードの完了**

Windowsが正常にインストールされました。[再起動]をクリックするとコンピュータが再起動します。

**2** **Windows２０００が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows２０００セットアップ」は終了です。**

続けてp.25「セットアップ終了後の作業」に移ります。

**WindowsXP インストール モデル**

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

**1** **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsXPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

**Microsoft Windowsへようこそ**

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

**使用許諾契約**

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

**コンピュータ名**

↓ 「このコンピュータの名前」を入力します。このコンピュータをネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

**パスワードの設定**

↓ WindowsXP Professionalをお使いの場合は、パスワードを管理者の指示に従って入力します。

**インターネットへの接続**

↓ ここでは接続を行いませんので[省略]をクリックします。

**ユーザー登録**

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択します。

**コンピュータを使用するユーザーの指定**

このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

**インストールの完了**

WindowsXPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

**2** **WindowsXPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「WindowsXPセットアップ」は終了です。**

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、WindowsXPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

続けてp.25「セットアップ終了後の作業」に移ります。

# セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。



## バックアップディスクの作成

- **バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。**
- **バックアップディスクを作成しないと、ドライバやソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。**

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。「バックアップFD作成ユーティリティ」では、購入時にHDDにインストールされていても、「リカバリCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成します。

- **本機のユーザーズマニュアルのPDFファイル**
- **添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版**
- **添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ**

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。バックアップFD作成ユーティリティ画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みの FD が必要です。

### バックアップディスクの作成

**■ 起動方法**

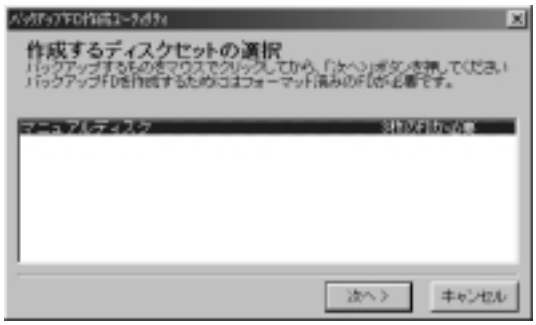
次の方法で、バックアップ FD 作成ユーティリティを起動します。

- **Windows2000 インストールモデルの場合**
  ［スタート］－「プログラム」－「バックアップ FD 作成ユーティリティ」を実行します。
- **WindowsXP インストールモデルの場合**
  ［スタート］－「すべてのプログラム」－「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

■ 作成方法

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

**1** **「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。**




**2** **画面に表示されているディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。**

**3** **画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。**

**4** **同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。**
**作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。**
☞ p.62「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

## セットアップブートディスクの作成(Windows2000のみ)

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成してください。

＊ 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。

セットアップブートディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを4枚用意してください。

☞ p.61「FDのフォーマット」

**1** **[スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。**

**2** **「コマンドプロンプト」が「C:\>」と表示されたら、次のとおり入力して[↵]を押します。**

**CD□\BOOTDISK** （□は、スペースを意味します。）

「C:\>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:\>」とします。

**❶ 次のとおり入力して[↵]を押します。**

**C:**

**❷ 次のとおり入力して[↵]を押します。**

**CD□** （□は、スペースを意味します。）

**3** **コマンドプロンプトが「C:\BOOTDISK>」と表示されたら、次のとおり入力して[↵]を押します。**

**MAKEBT32**

**4** **「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら[A]を押します。**

**5** **画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。**

**6** **画面の指示に従い4枚目まで作成します。**
**作成したディスクは、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。**
☞ p.62「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

## ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

## FAXモデムの設定

FAXモデム機能を使用してインターネットへの接続を行う場合はFAXモデムの設定を行います。
☞ p.89「インターネットに接続するには」

## メールユーティリティのインストール

メールユーティリティをインストールすると、「Outlook Express」または「Outlook」を起動している間、未開封メールがあるとメールLED(✉)が点灯します。
購入時にはメールユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。
☞ p.105「メールユーティリティを使う」

## Power Gear(パワーギア)ユーティリティのインストール

Power Gearユーティリティをインストールすると、CPU速度やLCD輝度を制限する4段階のモードが設定されます（Celeron搭載モデルはLCD輝度の調整のみ）。このモードをPower Gearキーで切り替えることで、消費電力を抑えることができます。
Power Gearユーティリティは購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。
☞ p.112「Power Gear機能」

## 赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は、機能を有効に設定する必要があります。

☞ p.71「赤外線通信を使う」

## VirusScan for Windowsのインストール

購入時には、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

☞『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

## S/P DIFの設定（Windows２０００のみ）

Windows2000で、MDデッキや5.1チャンネルサラウンドスピーカシステムなどを、光デジタルオーディオ出力コネクタに接続して、音声を録音・再生する場合は、S/P DIFの設定が必要です。

☞ p.86「S/P DIFの設定」

# Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項の確認を行ってください。
Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド（ファーストステップガイド）』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

## 2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータの電源を入れるときには、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**
  省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。
  ☞ p. 106「省電力機能を使う」
- **電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。**
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**
  コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

## 音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

**●ボリューム調節ダイヤル**

手前側に押すと音量が小さくなります。
奥に押すと音量が大きくなります。
真横に押すとミュートになり、ミュートLEDが点灯します。もう一度押すとミュートが解除されます。

**●ファンクションキー**

Fn +F10を押すとミュートになり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn +F11を押すと音量が小さくなります。
Fn +F12を押すと音量が大きくなります。

## 省電力機能

本機では、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、キーボードの操作でもとに戻ります。
☞ p.106「省電力機能を使う」

## デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

**Windows2000インストールモデル ： C:\I386**（Iはアルファベット）
**WindowsXPインストールモデル　： C:\WINDOWS\I386**（Iはアルファベット）

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。
これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

## インタラクティブトレーニング（WindowsXPのみ）

WindowsXPには「ステップバイステップインタラクティブ」がインストールされています。ステップバイステップインタラクティブはWindowsXPの使い方を画面上で分かりやすく説明します。
「ステップバイステップインタラクティブ」を実行するには、［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「Microsoftインタラクティブトレーニング」－「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

## デスクトップクリーンアップ（WindowsXPのみ）

WindowsXPの場合、セットアップを実行してから7日目以降にWindowsXPを起動すると、次のメッセージが表示される場合があります。

**使用していないアイコンがデスクトップにあります。･･･**

このメッセージはデスクトップ上に未使用のアイコンがあると表示されます。この場合はメッセージをクリックして「デスクトップクリーンアップウィザード」を起動してください。画面のメッセージに従って実行すると、不要なアイコンを選択してデスクトップ上から削除することができます。

**「デスクトップクリーンアップウィザード」は、デスクトップ上で右クリックして「アイコンの整理」を選べば、いつでも実行できます。**

## JAVA VMのインストール（WindowsXPのみ）

インターネットサイトを閲覧する場合に、サイトによっては「JAVA VMをインストールしてください。」といったメッセージが表示されることがあります。このようなサイトを閲覧するためにはJAVA VMが必要です。次の手順でインストールを行ってください。

**1** 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。

**2** [スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

**3** 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:\JAVAVM\MSJAVX86
（CD-ROMドライブがDドライブの場合）

**4** 「Microsoft VMをインストールしますか」と表示されたら、[はい]をクリックします。

**5** 「次の使用許諾契約をお読みください。・・・・・」と表示されたら、内容を確認し[はい]をクリックします。

**6** 「インストールを完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。

**7** 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。・・・」と表示されたら、[はい]をクリックします。
Windowsが再起動するとJAVA VMのインストールは終了です。

JAVA VMの設定は、「Internet Explorer」を起動して次の場所で確認できます。
「ツール」－「インターネットオプション」－「詳細設定」タブの「Microsoft VM」項目

# 電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。

- **電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。**
- **アクセスLED点灯中に電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。**
- **本機は電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり、コンセントに接続されていると、コンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。**

## Windows2000の終了と電源の切り方

必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

1. **[スタート]－「シャットダウン」をクリックします。**
2. **「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。**
   Windows2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
3. **接続している周辺機器の電源を切ります。**

## WindowsXPの終了と電源の切り方

必ずWindowsXPを終了させてから電源を切ります。

**1** **［スタート］－「終了オプション」をクリックします。**

**2** **「コンピュータの電源を切る」画面で［電源を切る］をクリックします。**
WindowsXPが終了し、自動的に電源が切れます。

**3** **接続している周辺機器の電源を切ります。**

**WindowsXP終了時の注意**

WindowsXPを複数のユーザーが使用している場合に、［終了オプション］－［電源を切る］を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

## リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には「**リセット**」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

### Windowsのリセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

- Windows2000：[スタート]－「シャットダウン」－「再起動」を選択
- WindowsXP　：[スタート]－[終了オプション]－[再起動]をクリック

### リセットできないときは

プログラムがハングアップしてしまい、リセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

**Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする**

⬇ コンピュータをリセットできないときは…

**コンピュータの電源スイッチを押す**

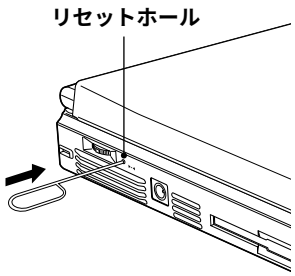
⬇ コンピュータの電源が切れないときは…

**コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける**

これでコンピュータの電源が切れます。

**リセットホールでのリセット**

本体左側面にあるリセットホール(▷◁)に丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
リセットホールはプログラムがハングアップして Ctrl + Alt + Delete を押してもリセットできないときに使用してください。



# コンピュータの基本操作

本機の各部の名称や使い方について説明します。

# ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックを使って使用することができます。

- **ACアダプタや、バッテリパックを分解しないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。**
- **バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。**
- **バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。**

- **連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **ACアダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。**
- **ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。**
- **破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。**
- **ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリパックの熱で本体底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。**
- **バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。破損すると、火傷や化学物質による被害の原因となります。**

- **ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着して本機を使用してください。**
- **バッテリパックを使用しているときは、電源が入っている状態でACアダプタを抜き差しすることができますが、動作中はなるべくACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。**
- **ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。**

ACアダプタの接続方法は、p.17「ハードウェアをセットアップしましょう 手順5」をご覧ください。

# バッテリパックを使う

バッテリパック（以降バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリを使用すれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用します。

## 使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

| | | |
|---|---|---|
| 使用可能時間（満充電の場合） | 連続約2時間 | 当社独自測定方法 |
| | 連続約3時間 | JEITA測定方法* |

*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法に基づいています。

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力機能の使用やCPU速度の調整で消費電力を抑えると使用可能時間を延ばすことができます。

☞ p.106「省電力機能を使う」
☞ p.111「スピードステップ機能」/「Power Gear機能」

## バッテリ使用時の注意

- 省電力モードのまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力モードに入っているときも電力が消費されています。☞ p.106「省電力機能を使う」
- バッテリは本機の電源を切っていても自然放電によって電力が消費されています。長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリは温度が10～30℃の環境で使用すると使用時間や寿命を延ばすことができます。10℃以下の場所に放置していたバッテリは性能が低下しています。10～30℃の温度範囲の場所でしばらく慣らしてから使用することをおすすめします。
- バッテリの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。バッテリが急に終わって困らないようにバッテリ使用後は常に充電をすることをおすすめします。

## バッテリ残量の確認

制限

**バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。**

☞ p.46「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

本機では残量の確認を次の方法で行うことができます。

● タスクバーの「バッテリ」アイコンの上にマウスポインタをあわせる。

**バッテリアイコン**

● プロパティ画面を開いて確認する。

**Windows2000の場合：[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ**

**WindowsXPの場合　：[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ**

**〈Windows2000の場合〉**

# バッテリ残量が少なくなったら

**低バッテリの通知**

残量が少なくなると、本機は次のように通知(警告)します。直ちに下記の対処を行ってください。完全放電してシャットダウン(電源切断)してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリ残量が約10%*になるとバッテリ低下メッセージが表示されます。

**〈Windows2000の場合〉**

そのまま放置すると、残量約3%*でスタンバイモードに入ります。スタンバイモード中も電力を消費しています。

* **この設定は、次ページの「バッテリアラームの設定」で変更することができます。**

**対処方法**

バッテリ残量の低下が通知されたら、直ちに次のいずれかの処置を行ってください。

- **ACアダプタを接続する**

  電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電LED()が点灯します。

- **電源を切る**

  作業中のデータをHDDやFDに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
  交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

制限

**ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。**

**バッテリアラームの設定**

バッテリ残量が低下したときの通知方法を次のプロパティ画面から変更できます。

**Windows2000の場合：[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「アラーム」タブ**

**WindowsXPの場合　：[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「アラーム」タブ**

**バッテリ低下を通知するバッテリ残量を設定します。**

**クリックすると「バッテリ低下アラームの動作」画面が表示されます。**

**バッテリ切れを通知するバッテリ残量を設定します。**

**クリックすると下記の「バッテリ切れのアラームの動作」画面が表示されます。**

**クリックして、警告後のコンピュータ動作を選択します。**

☞ p.106「省電力機能を使う」

**〈Windows2000の画面〉**

# バッテリの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。

バッテリ充電LED(⊡)の表示は、次のとおりです。

| 充電状態 | LEDの表示 |
|---|---|
| 充電中 | 橙点灯 |
| 満充電 | 消灯 |

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

| コンピュータの動作状態 | 充電時間 |
|---|---|
| 電源切断時 | 約3時間 |
| 電源が入っている状態 | 約3.5時間(使用状態により差があります) |

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。
温度が10～30℃の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

**充電後の処理**

バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は安全のためにACアダプタを外しておきます。

## バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。
満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下するような場合は、次の手順でバッテリのリフレッシュを行ってみてください。

**1** **ACアダプタが接続されていることを確認します。**

**2** **コンピュータの電源を入れて、[F2]を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**
p.127「BIOS Setupユーティリティの操作」

**3** **[→]を数回押して、「Power」メニュー画面を表示します。**

**4** **「Start Battery Refreshing」を選択して[↵]を押します。**
**「Battery Refresh」画面が表示され、バッテリの充電が始まります。**

**5** **満充電になると、メッセージの最終行に「Please remove AC adapter.」と表示されます。ACアダプタを抜きます。**
**バッテリ放電が始まります。完全放電して電源が切れるまでそのまま放置します。これでバッテリのリフレッシュは終了です。**

**バッテリの寿命**

バッテリは消耗品です。上記の操作を行ってもバッテリ容量がすぐに低下する場合はバッテリの寿命です。新しいバッテリに交換してください。

# バッテリの交換

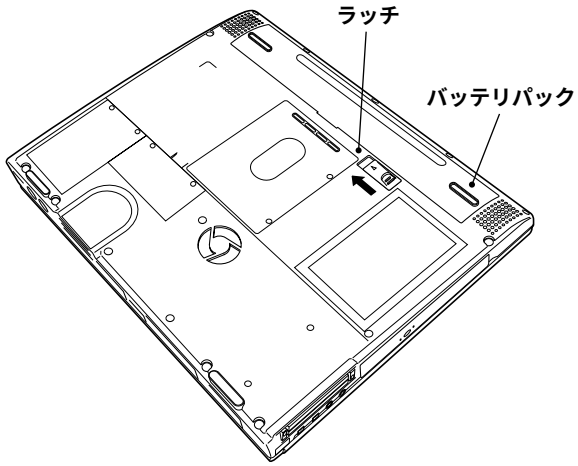
バッテリを複数使用して長時間使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。

バッテリの交換は次の手順で行います。

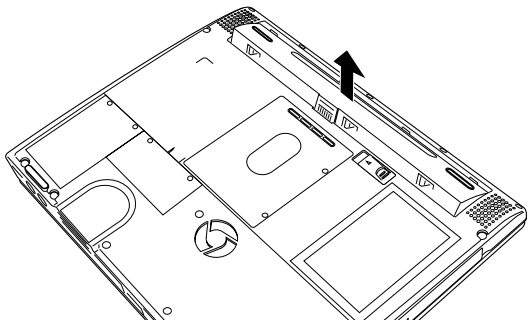
**1** **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

**2** **本機の底面部を上にして置きます。**

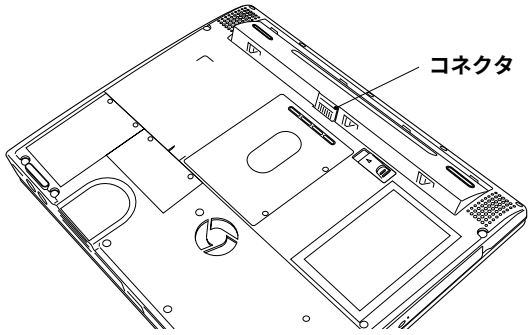
**3** **ラッチを矢印の方向にスライドさせます。**



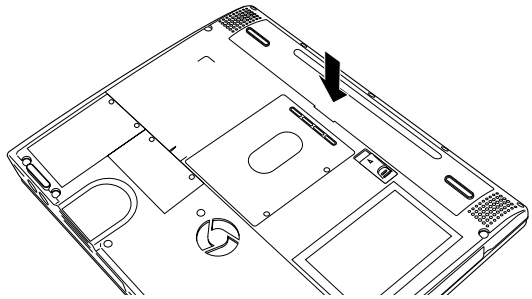

**4** **バッテリが本体から浮き上がったら、バッテリを取り外します。**



**5** 新しいバッテリを下図のとおり本体に合わせます。




**6** コネクタ側をカチッと音がするまで押し込みます。バッテリが固定されます。



## バッテリ保管上の注意

**小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。**

バッテリの保管はバッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけてください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。コンピュータを保管するときは、必ずコンピュータ本体からバッテリを取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。

## 使用済みバッテリの取り扱い

**使用済みのリチウムイオン(Li-ion)バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。**

**バッテリリサイクル時の注意**

使用済みのバッテリは、バッテリがショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

不要なバッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

# タッチパッドを使う

本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。

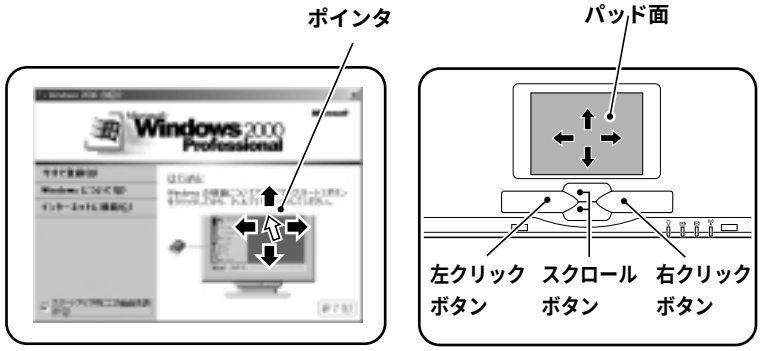
## タッチパッドの操作

タッチパッドは、パッド面とクリックボタン、スクロールボタンから構成されています。

パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、左クリックボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたくことにより左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

**ポインタの移動**

人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

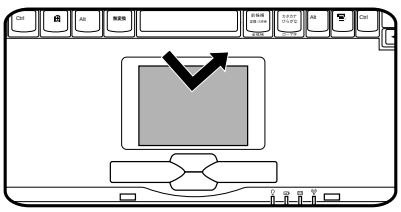



**制限**

- **パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。**
- **パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。**
- **手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。**
- **キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。**
- **起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。**
- **電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。**

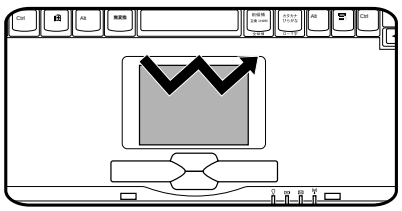
**クリック**

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。



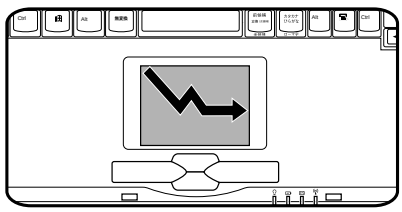
**ダブルクリック**

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。



**ドラッグアンドドロップ**

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。



**スクロール**

スクロールバーのある画面を操作しているときに、スクロールボタンを押すと、スクロールが行えます。

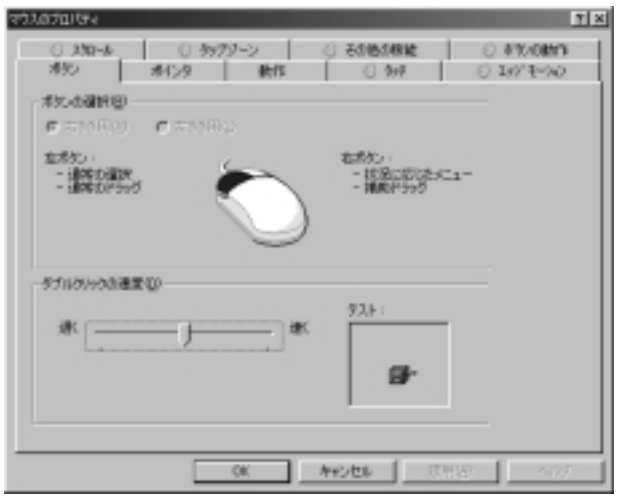
## タッチパッドユーティリティを使う

本機では、タッチパッドユーティリティでタッチパッドの各種設定を行うことができます。

タッチパッドユーティリティは次の場所から実行します。

**Windows2000の場合：［スタート］−「設定」−「コントロールパネル」−「マウス」**

**WindowsXPの場合　：［スタート］−「コントロールパネル」−「プリンタとその他のハードウェア」−「マウス」**



**〈Windows2000の場合〉**

**設定内容の概要**

「マウスのプロパティ」の主要なタブでは次のような設定ができます。

| タブ | 設定できる内容 |
|---|---|
| ボタン | ダブルクリックの速度など |
| ポインタ | ポインタのデザインなど |
| 動作<br>(ポインタオプション) | ポインタの速度や軌跡の有無など |
| タッチ | 複数回数タップの機能やタップの強さなど |
| エッジモーション | エッジモーション(エッジを押したとき)の機能や速度など |
| スクロール | スクロール機能や速度など |
| ボタンの動作 | 左右ボタン、スクロールボタンの機能など |
| その他の機能 | ポインタの動作や速度 |

各タブの設定内容は、お使いのWindowsの種類によって一部異なります。詳しい設定の方法は、タッチパッドユーティリティのオンラインヘルプをご覧ください。

## マウスの接続

**PS/2マウス**

本機背面のキーボード/マウスコネクタ(🖱/⌨)にオプションのPS/2マウスを接続できます。PS/2マウスの接続は、本機の電源が切れている状態で行ってください。詳しい使用方法はPS/2マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

本機にPS/2マウスを接続して使用する場合は、タッチパッド機能を無効にすることをおすすめします。BIOS Setupユーティリティを起動後、「Advanced」メニューの「Internal Pointing Device」を「Disabled」に変更します。

☞p.127「BIOS Setupユーティリティの操作」

**USBマウス**

本機背面のUSBコネクタ(⇔)にUSBマウスを接続できます。オプションのUSBマウスの接続は、本機の電源が入っている状態でも行うことができます。
詳しい使用方法はUSBマウスに添付のマニュアルをご覧ください。

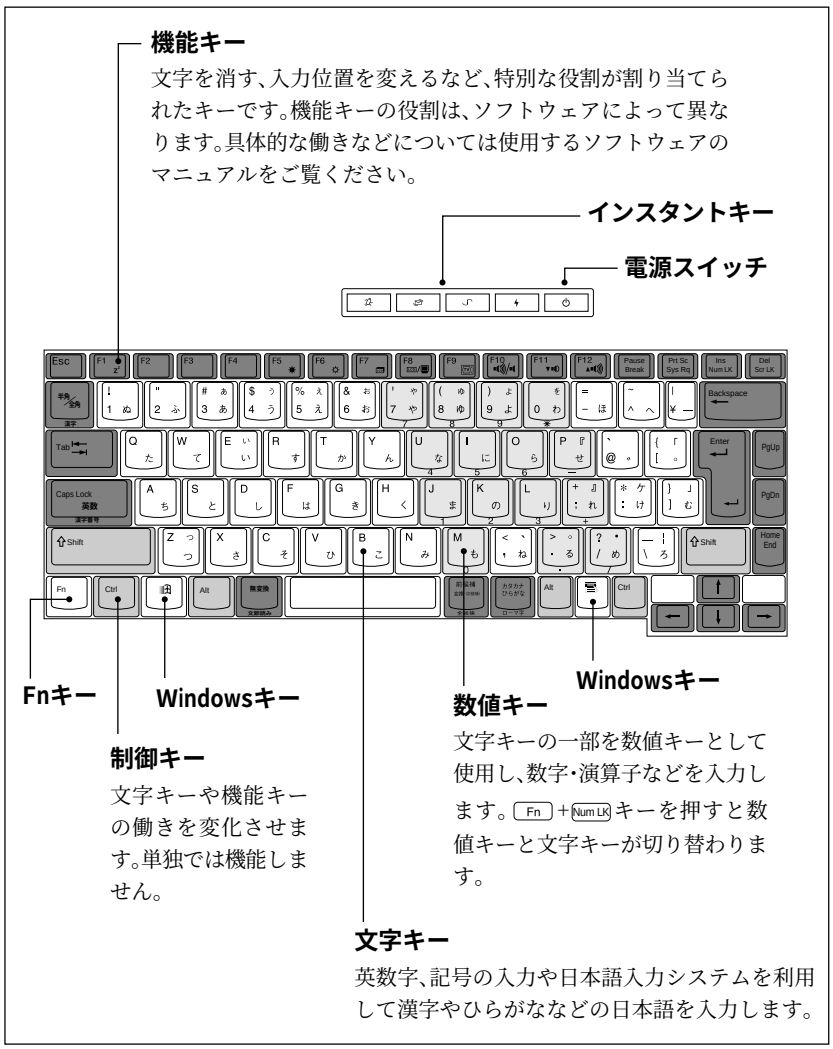
# キーボードを使う

本機のキーボードは、日本語対応90キーボードです。また、4個のインスタントキーも搭載しています。

## キーの種類と役割

### 入力キー

90個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



## 文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字が異なります。

**■直接入力モード**　：キートップのアルファベットをそのまま入力します。

**■日本語入力モード**
- **ローマ字入力**：キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- **かな入力**　：キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

**入力モードの切り替え**

直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。

Alt +半角/全角

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

## 日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

**MS-IMEの使い方**

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったりヘルプを参照します。

**<Windows2000 の場合 >**

**<WindowsXP の場合 >**

① **入力モード**
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。

② **ヘルプ**
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。

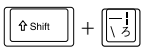
③ **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 ： ローマ字入力
ボタンが押されている状態　： かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

# 記号や数値の入力

## 記号の入力

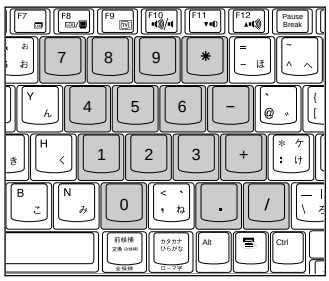
インターネットのアドレスやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、直接入力モードで次のキーを押して入力します。

| 入力記号 | 入力方法 |
|---|---|
| :(コロン) | |
| ;(セミコロン) | |
| -(ハイフン) | |
| /(スラッシュ) | |
| @(アットマーク) | |
| ~(チルダ) | |
| _(アンダーバー) |  |

## 数値キー入力モード

Fn + Num LK を押すと、NumLock LED が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。

**数値キーモード**



## アルファベット入力モード

Shift + Caps Lock を押すと、CapsLock LED が点灯して、アルファベットが大文字で入力できます。小文字で入力するには Shift を押しながら入力します。

## Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは[Fn]キーと組み合わせて実行します。

| キーの組み合わせ | 機　能 |
|---|---|
| [Fn] + [F1] $z^z$ | 省電力モードに移行します。購入時の状態では、スタンバイモードに移行します。☞ p.109「実行方法」 |
| [Fn] + [F5] ☀ | LCD画面を暗くします。☞ p.75「明るさの調整」 |
| [Fn] + [F6] ☼ | LCD画面を明るくします。☞ p.75「明るさの調整」 |
| [Fn] + [F7] LCD | LCD画面のバックライトのON/OFFを切り替えます。☞ p.76「バックライトの消灯」 |
| [Fn] + [F8] LCD/■ | 表示装置を切り替えます。キーを押すたびにLDC、CRT、TVまたはそれらの組み合わせで表示装置が切り替わります。☞ p.78「表示の切り替え方法」 |
| [Fn] + [F10] 🔊/🔇 | スピーカのミュートのON/OFFを切り替えます。☞ p.84「音量の調整」 |
| [Fn] + [F11] ▼🔊 | スピーカ音声のボリュームを小さくします。☞ p.84「音量の調整」 |
| [Fn] + [F12] ▲🔊 | スピーカ音声のボリュームを大きくします。☞ p.84「音量の調整」 |
| [Fn] + [Num LK] | 数値キー入力モードに切り替えます。☞ p.56「数値キー入力モード」 |
| [Fn] + [ScrLk] | ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。 |
| [Fn] + [End] | 行の最後に移動します。 |

# Windowsキー

## Windowsキーの種類と機能

Windowsキーには2種類あり、それぞれのキーは次の働きをします。

| Windowsキー | 機　能 |
|---|---|
| ⊞ | 画面左下の［スタート］ボタンをクリックするのと同じ働きをします。 |
| ▤ | 右クリックと同じ働きをします。 |

## Windowsキーと組み合わせて使うキー

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

| キーの組み合わせ | 機　能 |
|---|---|
| ⊞+F1 | Windowsのヘルプが表示されます。 |
| ⊞+E | エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。 |
| ⊞+F | 「検索：条件＝すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。 |
| ⊞+Ctrl+F | 「検索：コンピュータ」ウィンドウが表示されます。 |
| ⊞+M | 表示されているウィンドウをすべて最小化します。 |
| Shift+⊞+M | 最小化されているウィンドウをすべて元のサイズに戻します。 |
| ⊞+R | 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。 |
| ⊞+Tab | タスクバーに表示されているボタン（アプリケーションやファイル）の選択を切り替えます。 |

## インスタントキー

本機には、4個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーには、Internet Explorerを起動するなどの機能が割り付けられています。インスタントキーを押すとキーに割り付けられた機能を実行します。

各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

| インスタントキー | 機　能 |
|---|---|
| アプリケーションキー | 「マイドキュメント」を開きます。 |
| インターネットキー | Internet Explorerを起動します。 |
| メールキー | Outlook Expressを起動します。 |
| Power Gearキー | CPU速度や、LCD輝度を4段階で切り替え消費電力を低減します(Celeron搭載モデルはLCD輝度のみ)。購入時はこの機能は無効に設定されています。<br>p.112「Power Gear機能」 |

これらのキーに割り当てられた機能を変更することはできません。

## 外付けキーボードの接続

本機背面のキーボード/マウスコネクタ(/)に、PS/2互換のキーボードを接続することができます。接続は、電源を切って行ってください。

# FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

本機の左側面には、FDDが内蔵されています。
FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは次のFDを使用できます。

- 3.5型2HD　　：1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD　　：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

制限

**FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。**

## FDのセットと取り出し

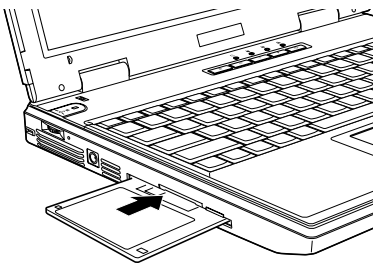
制限

- **FDにアクセス中にFDを取り出したり、リセットしないでください。データが破壊されるおそれがあります。**
- **電源を切る場合や再起動する場合は、必ずFDを取り出してください。**

### セット方法

**1** ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。

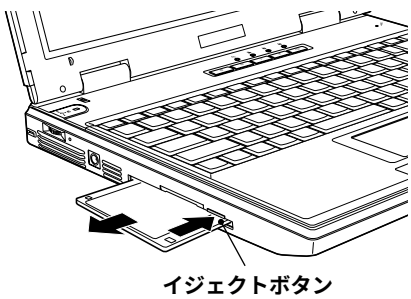
**2** 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



### 取り出し方法

**1** FDへアクセスしていない状態で、イジェクトボタンを押します。

**2** FDが押し出されたら、静かに引き抜きます。



# FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。

- **FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。**
- **WindowsXPでは720KBのFDをフォーマットできません。**

**フォーマット方法**

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

**Windows2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。**

1. **「マイコンピュータ」をダブルクリックします。（WindowsXPでは、[スタート]－「マイコンピュータ」をクリックします。）**
2. **「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。**
3. **フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は[OK]をクリックします。**
4. **「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。**
   続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4をくり返します。
5. **[閉じる]をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。**

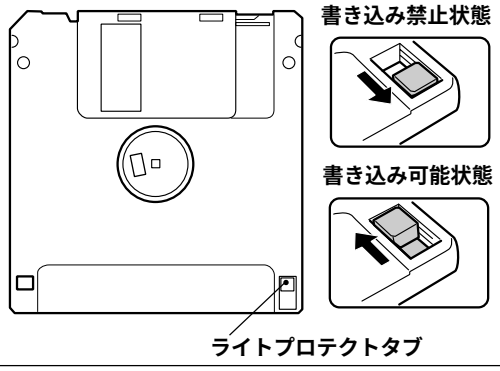
## データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

## ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくと安心です。

- **窓が開いているとライトプロテクト状態です。**
- **窓が閉じているとデータを書き込むことができます。**




## コンピュータ持ち運び時の注意

本機を持ち運ぶときはFDを取り出してください。
FDがFDDにセットされているとイジェクトボタンが本体よりも突き出ています。この状態のまま、本機をバッグなどに入れて持ち運ぶと、イジェクトボタンに無理な力がかかり、破損するおそれがあります。

# HDD(ハードディスクドライブ)を使う

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。

**●誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。**

**・HDDを分解しないでください。**

**・HDDアクセスランプ点灯中に、電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。**

**● HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。**

**● 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、ショックから守るようにしてください。**

## データのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

- 重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。
- 専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。

## 購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

| インストールモデル | ドライブ | ファイルシステム |
|---|---|---|
| Windows2000 | すべての領域　(C ドライブ) | FAT 32 |
| WindowsXP | すべての領域　(C ドライブ) | NTFS |

# CD-ROMドライブを使う

本機の右側面にはCD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブはデータの入ったデータCDのほかに音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

- **本機に装着されているCD-ROMドライブは、メディアの認識に時間がかかることがありますが、故障ではありません。**
- **メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。**

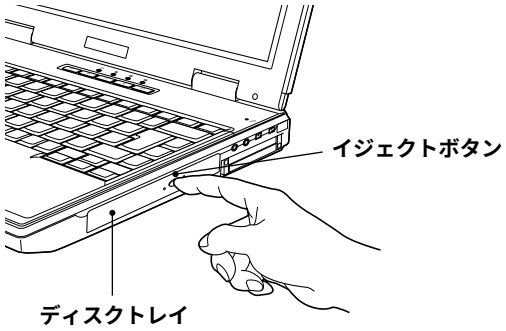
本機にはCD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブまたはコンボドライブが装着されているモデルがあります。メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法はCD-ROMドライブと同じです。詳しい使用方法は、各ドライブ装置に添付のマニュアルをご覧ください。

## CD-ROMのセットと取り出し

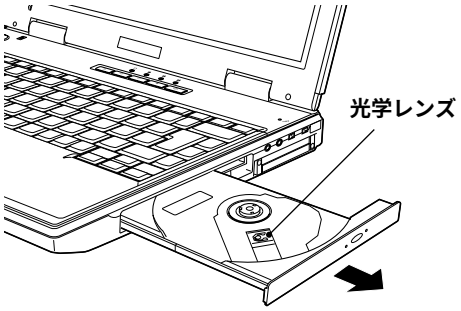
- **CD-ROMドライブアクセス中（CD-ROMアクセスランプ点滅・点灯中）にメディアを取り出したり、リセットしないでください。**
- **ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。**
- **必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。**

セット方法

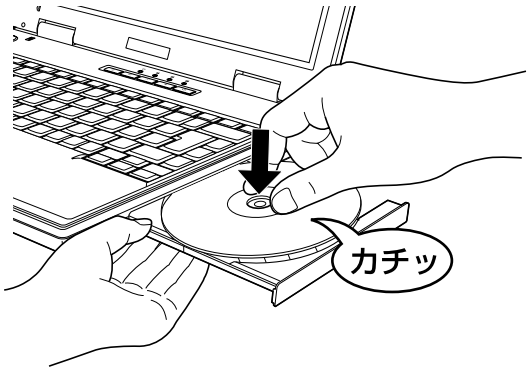
**1** イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。




**2** ディスクトレイを静かに引き出します。




**3** 印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。




**4** ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

**取り出し方法**

**1** **イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。**

**2** **メディアをディスクトレイから取り出します。**

**3** **ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。**

## 強制的なメディアの取り出し

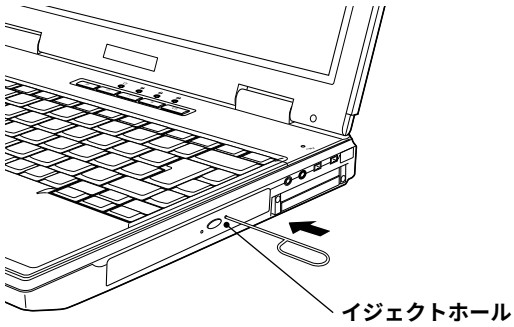
次のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

- CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合
- CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

**1** **本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。**

p.34「電源の切り方」

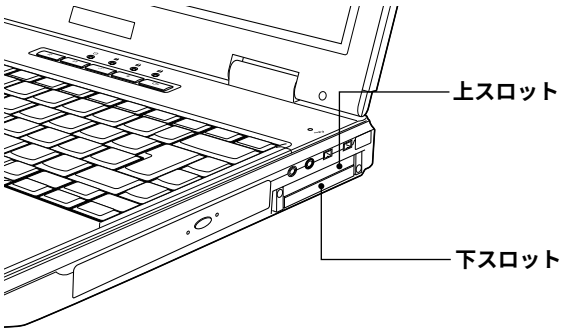
**2** **イジェクトホールに丈夫な先の細いもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。**




**3** **ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。**

# PCカードを使う

本機の右側面には、PCカードスロットが、2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したTypeIIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、TypeII ×2枚またはTypeIII ×1枚です。各スロットの仕様は次のとおりです。




| スロット | 装着可能なサイズ | 仕様 |
|---|---|---|
| 上スロット | TypeII | CardBus対応 |
| 下スロット | TypeIIまたはTypeIII | CardBus対応 |

制限

- **PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。**
- **FAXモデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に、電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力機能を無効にしてください。**
  ☞ p.106「省電力機能を使う」
- **PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴りません。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。**

## PCカードのセットと取り外し

制限

- **PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。**
- **PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時はPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。**

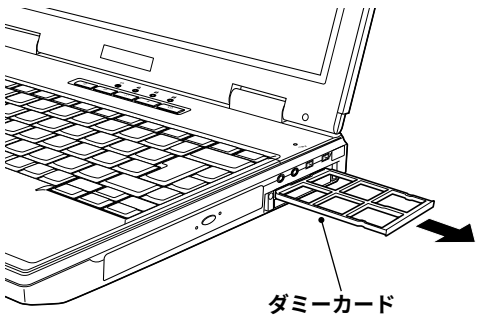
### PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

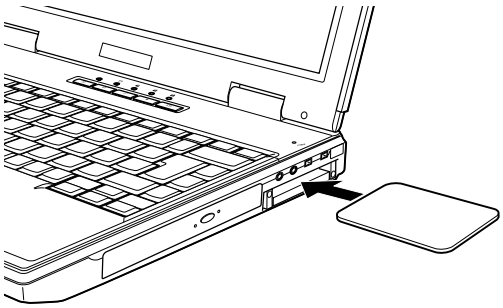
**1** **使用するPCカードが、どのスロットで使用可能か確認します。**

**2** **使用するスロットにダミーカードがセットされている場合は、p.70「PCカードの取り外し」を参照してダミーカードを取り外します。**

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。



**3** **PCカードをPCカードスロットに挿入します。**
**PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。**



**4** **コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。**

**5** **認識されるとPCカードが使用できます。**
**正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、タスクバーに「PCカード」アイコンが表示されます。**
**「PCカード」アイコンをダブルクリックすると、PCカードの内容を確認できます。**

**＜Windows2000＞**

**＜WindowsXP＞**

PCカードによっては「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中にWindowsのCDを要求された場合は、次のフォルダを指定してください。

Windows2000の場合　**C:\I386（Iはアルファベット）**
WindowsXPの場合　**C:\WINDOWS\I386（Iはアルファベット）**
いずれも、上記フォルダがCドライブに登録されている場合

## PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

制限

**本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。火傷に注意して取り外してください。**

**1** **「PCカードの終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。**

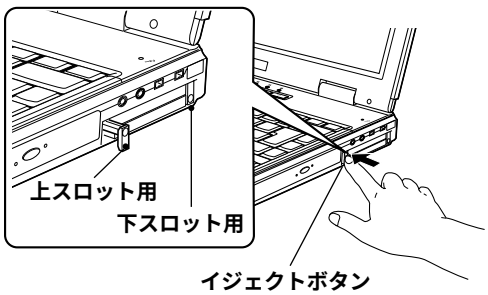
**●PCカード終了処理**

1 タスクバーの**「PCカード」**アイコンをダブルクリックします。

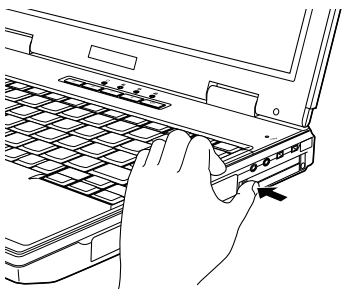
2 取り外すPCカードを選択して**[停止]**をクリックします。

3 画面の指示にしたがいます。**「安全に取り外すことができます。」**と表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

**2** **取り外すPCカードスロットのイジェクトボタンを押すと、イジェクトボタンが出ます。**




**3** **再びイジェクトボタンを押します。**



**4** **PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

PCカードをセットしない場合はダミーカードをセットしておきます。

# 赤外線通信を使う

本機の右側面には赤外線通信ポートが装備されています。本機の赤外線通信ポートと赤外線通信機能を持つ機器の間で、データのやり取りができます。
赤外線通信はケーブルの接続をせずに、簡単にデータの通信を行うことができます。赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが別途必要です。また通信を行うコンピュータ同士では、お互いに同じソフトウェアを使用する必要があります。

本機の赤外線通信機能は、次の仕様に対応しています。

| 仕様（通信モード） | 特長 | 使用するソフトウェア例 |
|---|---|---|
| FIR (Fast InfraRed) | 通信速度4Mbps | ワイヤレスリンク |
| SIR (Serial InfraRed) | 通信速度115.2Kbps | |

赤外線通信を行うためには次の設定が必要です。

**通信モードを設定する**

↓

**赤外線デバイスを設定する**

## 通信モードの設定

赤外線通信を行うときは、使用する通信モードに合わせて設定を変更します。
通信モードの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Advancedメニュー画面」－「I/O Device Configuration」－「IR Port」－「IR Mode」で行います。

☞ p.134「Advancedメニュー画面」

| 通信モード | IR Modeの設定 |
|---|---|
| FIR | FIR　（初期値） |
| SIR | SIR |

## 赤外線デバイスの設定

### Windows2000の場合

Windows2000で赤外線通信を行う場合は、次の設定が必要です。この設定は、購入時には設定されていません。

1. [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「システム」をダブルクリックします。
2. 「ハードウェア」タブ－[デバイスマネージャ]をクリックします。
3. 「赤外線デバイス」－「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
4. 「詳細設定」タブをクリックします。
5. 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

### WindowsXPの場合

WindowsXPで赤外線通信を行う場合は、次の設定が必要です。この設定は、購入時には設定されていません。

1. [スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。
2. 「ハードウェア」タブ－[デバイスマネージャ]をクリックします。
3. 「赤外線デバイス」－「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
4. 「詳細設定」タブをクリックします。
5. 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

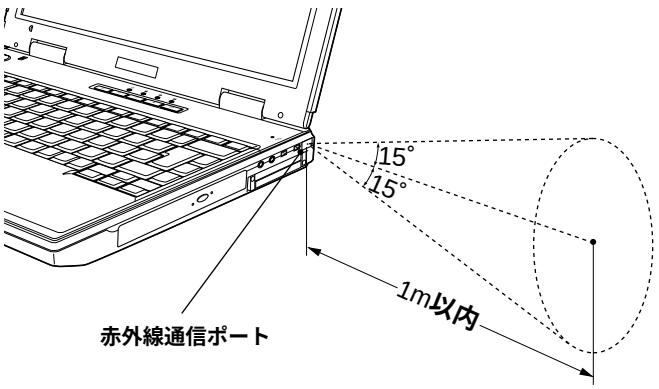
# 赤外線通信の実行

**通信時の注意**

- 赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。
- 赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。
- 直射日光や蛍光灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。
- オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けないでください。誤動作をすることがあります。

**通信可能な距離**

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。



**赤外線通信の実行**

Windowsの「ワイヤレスリンク」を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

**1** **2台の赤外線通信ポートを通信可能範囲に設置します。**

**2** **赤外線ポートを検出すると、デスクトップに「ワイヤレスリンク」アイコンが表示されます。（WindowsXPの場合はタスクバーに表示されます。）**

**3** **送信側の「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。**

**4** **送信するファイルを指定して[送信]をクリックします。**

**5** **受信側に、「このファイルを受信しますか？」と表示されたら[はい]をクリックします。**

**6** **「・・・受信が完了しました。」と表示されたら[はい]（WindowsXPでは[閉じる]）をクリックします。**
受信されたファイルは、デスクトップ上に保存されます。

# 表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で表示可能な表示装置は次のとおりです。

- LCDユニット（本体）
- CRTディスプレイ（アナログタイプ外付けディスプレイ）
- テレビ（S端子が搭載されていないテレビでは表示できません。）



## LCDユニット

本機には次のいずれかのLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

・14.1型　XGA　最大解像度　1024×768ドット
・15型　SXGA+　最大解像度　1400×1050ドット
・15型　UXGA　最大解像度　1600×1200ドット

**LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので故障ではありません。**

- **液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。**
- **色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。**
- **Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。**

### 明るさの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

| キー操作 | 状態 |
|---|---|
| Fn + F6 ☼ | 明るくなる |
| Fn + F5 ✱ | 暗くなる |

**バックライトの消灯**

本機を使用していない間､バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます｡バックライトの消灯は次の方法で行います。

- Fn ＋ F7 を押す：もう一度押すとバックライトが点灯します。
- **LCDユニットを閉じる**　：再びLCDユニットを開くとバックライトが点灯します｡本機ではLCDユニットを閉じたときの動作を設定できます。

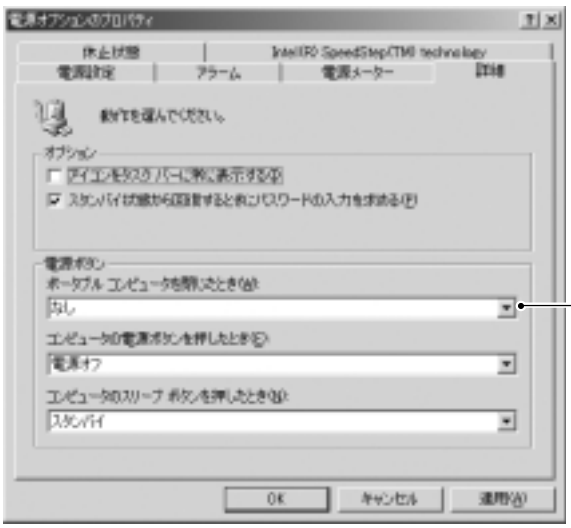
**ＬＣＤユニットを閉じたときの動作**

LCDユニットを閉じたときにスタンバイモードや休止状態に移るなどの動作を設定できます｡初期値は「バックライトを消す」です。

設定は次のプロパティ画面から行います。

**Windows2000の場合　：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「詳細」タブ**

**WindowsXPの場合　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「詳細設定」タブ**




**LCDユニットを閉じたときの動作を設定します。「なし」はバックライトを消します。**

**<Windows2000の場合>**

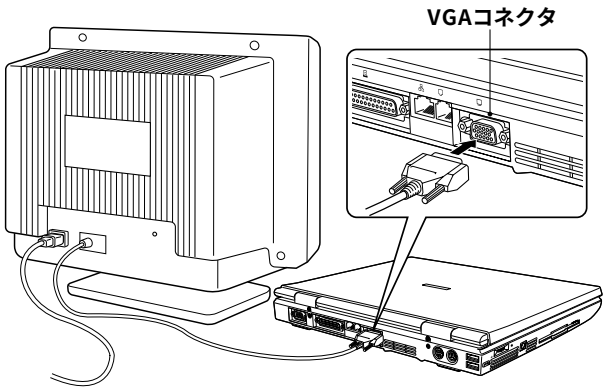
# CRTディスプレイ

**ディスプレイの接続**

本機では、CRTディスプレイ（アナログタイプ外付けディスプレイ）を接続して使用できます。ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

**1** **本機とディスプレイの電源を切ります。**

**2** **デイスプレイの接続コードを本機背面のＶＧＡコネクタ（▭）に接続します。**




**3** **ディスプレイと本機の電源を入れます。**

**表示の切り替え方法**

Fn ＋ F8 (LCD/■)を押すたびに表示装置が切り替わります。表示は次の組み合わせで行うことができますが、接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。

**表示装置の組み合わせ**

- LCD Only(LCDのみに表示)
- CRT Only(CRTのみに表示)
- CRT + LCD(CRTとLCDに表示)
- TV Only(テレビのみに表示)
- LCD + TV(LCDとテレビに表示)
- CRT + TV(CRTとテレビに表示)
- LCD +TV + CRT(LCDとテレビとCRTに表示)

- **ビデオプロジェクタとの接続**

  ビデオプロジェクタを本機のVGAコネクタに接続するとCRTディスプレイ同様に表示できます。

- **セーフモードでの起動**

  接続しているディスプレイと異なったディスプレイを選択すると、解像度によってはWindowsの画面が正常に表示されないことがあります。このようなときにはセーフモードで起動して、正しく設定し直してください。このモードはWindowsを基本的な設定で起動するモードです。

  ☞ p.148「LCDの不具合」

**デュアル ディスプレイ機能 （WindowsXPのみ）**

デュアルディスプレイ機能を使用すると、2つのアプリケーションを別々の画面で同時に使用したり、CRTとLCDを上下左右に仮想的に並べた表示ができます。設定は次の場所で行います。

**[スタート]－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「解像度を変更する」**

**分割した画面を表示するディスプレイの位置関係を示しています。通常は「１」がＬＣＤ、「２」がCRTです。この設定ではLCDの右側をＣＲＴが表示します。「２」をドラッグして位置を変更します。**

**<WindowsXPの場合>**

**デュアルディスプレイ機能を有効にする**
**「ディスプレイ」で2を選択してチェックマークを付けるとデュアルディスプレイ機能が有効になります。設定後は[適用]をクリックします。**

**デュアルディスプレイ機能を無効にするには**

「Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」のチェックマークを外して[適用]をクリック(このとき画面が乱れる場合があります)します。画面表示がLCD ONLYに切り替わります。

**制限**

**使用するディスプレイの仕様によっては、デュアルディスプレイ機能は使用できません。**

# テレビ

S端子ケーブルを使用してテレビと接続、表示できます。S端子ケーブルは市販のものをご利用ください。

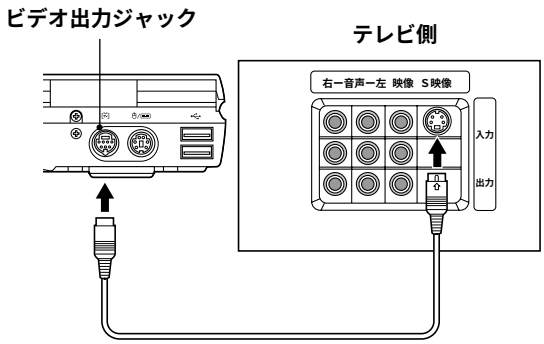
制限

- **ビデオ出力ジャックから出力される信号は、一般のテレビで表示可能に変換したNTSC信号です。NTSC信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログRGB信号ほどきめ細かい表示を行うことはできません。**
- **LCDの解像度が1280×1024ドット以上に設定されている場合、テレビ表示は仮想スクリーンになります。**

## 接続

**1** **テレビと本機の電源を切ります。**

**2** **市販のS端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ(S端子)と、本機のビデオ出力ジャック(TV)を接続します。**




**3** **テレビと本機の電源を入れます。**

## 表示の切り替え方法

Fn + F8 (LCD/■)を押すたびに表示装置の組み合わせが切り替わります。接続している表示装置を自動的に認識するため、テレビが接続されている場合にはテレビに表示できます。テレビは次の表示装置の組み合わせで表示できます。

・TV Only(テレビのみに表示)
・LCD + TV(LCDとテレビに表示)
・CRT* + TV(CRTとテレビに表示)
・LCD +TV + CRT*(LCDとテレビとCRTに表示)
*CRTが接続されている場合のみ

# 解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には、Windowsのヘルプも参照してください。

参考

**セーフモードでの起動**

本機のディスプレイ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

☞ p.148「LCDの不具合」

## 解像度や表示色の変更方法

**Windows2000の場合**

**1** **[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」アイコンをダブルクリックします。**

**2** **「設定」タブをクリックします。**

**3** **「画面の領域」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。**

**4** **項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。**

**WindowsXP の場合**

**1** **[スタート]－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。**

**2** **「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。**

**3** **項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。**

# 表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。
LCD画面とCRT画面の両方に表示する場合の解像度は、LCD画面に合わせて表示されます。
デュアルディスプレイ機能使用時はCRT画面の解像度を独自に設定できます。
☞ p.79「デュアルディスプレイ機能」

- **下記以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。**
- **外付けディスプレイの解像度と表示色は、使用するディスプレイの仕様によって表示できない場合があります。**
- **解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。**

**Windows2000の場合**

| LCDサイズ | 表示色 / 解像度 | 256色 | HighColor（16ビット） | TrueColor（32ビット） |
|---|---|---|---|---|
| 14.1型 | 640×480ドット | ○ | ○ | ○ |
| | 800×600ドット | ○ | ○ | ○ |
| | 1024×768ドット | ○ | ○ | ○ |
| 15型 LCD/ CRTディスプレイ | 1280×1024ドット | ○ | ○ | ○ |
| | 1400×1050ドット | ○ | ○ | ○ |
| | 1600×1200ドット | ○* | ○* | ○* |

*15型SXGA+は仮想スクリーン表示

**WindowsXPの場合**

| LCDサイズ | 表示色 / 解像度 | 中（16ビット） | 最高（32ビット） |
|---|---|---|---|
| 14.1型 | 640×480ドット | ○ | ○ |
| | 800×600ドット | ○ | ○ |
| | 1024×768ドット | ○ | ○ |
| 15型 LCD/ CRTディスプレイ | 1280×1024ドット | ○ | ○ |
| | 1400×1050ドット | ○ | ○ |
| | 1600×1200ドット | ○* | ○* |

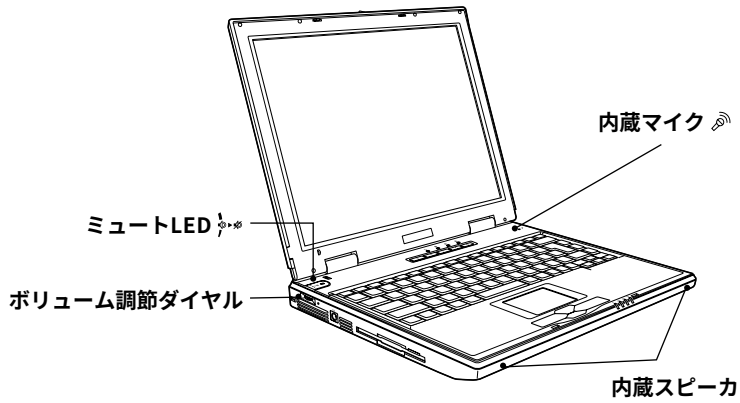
*15型SXGA+は仮想スクリーン表示

# サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

注意

**ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。**
**ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。**




**内蔵マイク**

本機のLCDユニットの画面下には、マイク(モノラル)が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。

**内蔵スピーカ**

本機の前面には、ステレオスピーカが内蔵されています。この内蔵スピーカを使って、音源からの音声を出力することができます。

**音量の調節**

スピーカの音量の調節は次の方法で行います。

- **ボリューム調節ダイヤル**

  手前側に押すと音量が小さくなります。
  奥に押すと音量が大きくなります。
  真横に押すとミュートになり、ミュートLEDが点灯します。もう一度押すと、ミュートが解除されます。

- **ファンクションキー**

  Fn + F10 (🔇/🔈)を押すとミュートになり、もう一度押すとミュートが解除されます。
  Fn + F11 (🔉)を押すと音量が小さくなります。
  Fn + F12 (🔊)を押すと音量が大きくなります。

制限

- **ボリューム調節ダイヤルによる音量の調節と、ファンクションキーによる音量の調節は連動していません。**
- **PCカードや、アプリケーションによっては前述の方法では音量調節ができないものがあります。詳しくはPCカードや、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。**

**音を鳴らしたり、録音したりするには**

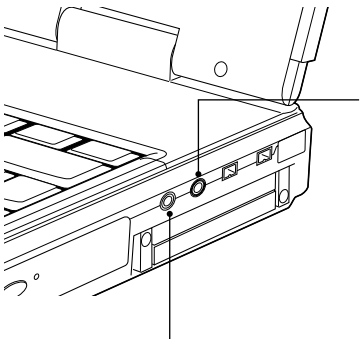
Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。
サウンドユーティリティは[スタート]ー「(すべての)プログラム」ー「アクセサリ」ー「エンターテイメント」フォルダに登録されています。

## 外部オーディオ機器などの接続

本機の右側には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

参考

**スピーカ、マイクの接続**
スピーカやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。



**マイク入力コネクタ**
マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

**ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力(S/P DIF)コネクタ**
ヘッドフォンやスピーカを接続した場合はヘッドフォンコネクタとして機能します。MDデッキなどデジタルオーディオ機器と接続した場合は光デジタルオーディオ出力コネクタとして機能します。

### 光デジタルオーディオ機器との接続

光デジタルオーディオ出力コネクタには、デジタルオーディオ機器のデジタル入力端子を接続します。本機からの音声をMDに録音したり、WinDVDで再生したDVD VIDEOの音声を5.1チャンネルサラウンドスピーカシステムで出力したりすることができます。
デジタルオーディオ機器との接続には市販の「光デジタル接続ケーブル(丸型)」を使用します。

**本機から出力されるサンプリングレートは48KHz固有のため、サンプリングレート変換機能が搭載されていないデジタルオーディオ機器では、本機から出力される音声データを録音できません。**

### S/P DIFの設定（Windows2000）

Windows2000で光デジタルオーディオ出力コネクタを使用して、音声を再生・録音を行う場合は、次の設定を行ってください。

1. **[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「システム」をダブルクリックします。**
2. **「ハードウェア」タブ－[デバイスマネージャ]をクリックします。**
3. **「CD-ROMドライブ」項目をダブルクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックします。**
   デバイス名は使用しているモデルにより異なります。
4. **「プロパティ」タブをクリックします。**
5. **「デジタルCD再生」の「このCD-ROMデバイスで、デジタル音楽CDを使用可能にする」にチェックを付けます。**
6. **[OK]をクリックします。**
7. **「…今コンピュータを再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。Windowsが再起動すると、S/P DIFの設定は終了です。**

# FAXモデムを使う

本機には56Kbps(V.90/K56flex対応)の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されています。

注意

**FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。**
- **構内交換機（PBX）**
- **2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）**
- **ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック**

## お使いになる前に

**使用回線について**

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。
ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線（パルス）：回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線（トーン）：押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

**特殊な電話機・回線での使用**

**● PBXやホームテレホン回線への接続**

本機のFAXモデムは、構内交換機（PBX）やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。

**● キャッチホンサービスについて**

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。
なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

**通信速度の制限**

本機のモデム機能は、V.90*1およびK56flex*2通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は、56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、33600bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。

*1 V.90　：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
*2 K56flex：Lucent Technologies社とRockwell International社が提唱する通信規格

**通信を行う**

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

**ATコマンドについて**

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の次のCDの「MODEM」－「ATコマンドリファレンス.pdf」（英文）をご覧ください。

Windows2000の場合：「リカバリCD Disc2」
WindowsXPの場合　：「リカバリCD Disc3」

# インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する場合の作業の流れは次のとおりです。

**電話回線の接続**

本機のFAXモデムコネクタに電話回線を接続します。

☞ p.16「電話回線への接続」

⬇

**ダイヤルするための準備**

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

☞ p.92「ダイヤル情報の設定」

⬇

**プロバイダとの契約とアカウントの登録**

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。

契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

**❶オンラインで契約する。**

**電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐにインターネットを使えますが、支払いについてはクレジットカード決済になります。**

**❷ハガキや電話で申し込み、契約する。**

**プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。**

☞ p.92「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

⬇

**回線接続前の設定（WindowsXPのみ）**

WindowsXPで使用する場合に必要な設定をします。

☞ p.97「回線接続前の設定」

**接続**

インターネットに接続します。ブラウジング（インターネット閲覧）や、メール交換が可能になります。

本書はブラウジングソフトとして「Internet Explorer」、メールソフトとして「Outlook Express」を使用することを前提に記載しています。

☞ p.99「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」

参考

**モデムを使わずにインターネットに接続する**

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

- **ISDN回線を利用する**
  FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法はTAの取扱説明書をご覧ください。
- **ネットワークを利用する**
  インターネットに接続されたLANなどに接続します。ネットワーク管理者の指示に従ってください。
- **ケーブルテレビの回線を利用する**
  詳しくはCATV会社にお問い合わせください。
- **ADSLを利用する**
  詳しくはADSLサービス会社にお問い合わせください。

**プロバイダの選択**

プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点はプロバイダにご確認ください。

**インターネットにかかる費用**

インターネットを利用する場合に発生する費用は以下のとおりです。

- 初期費用：プロバイダへ契約時に支払います。
  入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。
- 基本料金：月または年ごとにプロバイダへ支払います。
  通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。

- 追加課金：基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらという追加料金が加算されます。
- 通話料金：プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。

  アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合もあります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

**インターネットを使う上での注意**

インターネットや電子メールを利用すると、簡単に情報が得られたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないこともあります。次の点に気をつけて使用してください。

- メールは途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。
- メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。
- インターネット上の情報は、すべてが正しいとは限りません。正しい情報であることを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。

  ☞『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

## ダイヤルするための準備

**ダイヤル情報の設定**

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

**1** **ダイヤル情報の設定画面を表示します。**

Windows2000の場合：[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」

WindowsXPの場合　：[スタート]－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」

**2** **「登録名」、「国名/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。**

## 手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います(ダイヤルアップ接続の設定)。

本書の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

**接続に関する用語一覧**

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

| 本書での記述 | 類似名称 |
|---|---|
| **ユーザー名** | コネクションID 、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID 番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名 |
| **パスワード** | PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード |
| **メールアカウント** | Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント |
| **メールパスワード** | Mail パスワード、パスワード、初期パスワード |
| **メールサーバ** | メールサーバ、POP メールサーバ |

## ダイヤルアップ接続の設定をする（Windows2000）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

**1** [スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「インターネット接続ウィザード」をクリックします。

**2** 「インターネット接続ウィザードの開始」が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、または・・・」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

**3** 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。

**4** 「ステップ1：インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。

**5** プロバイダからDNS（ドメイン・ネーム・サーバー）のIPアドレスを指定されている場合は[詳細設定]をクリックして次の設定を行います。

❶「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。

❷「ISPによるDNS（ドメイン ネーム サービス）アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。

❸「プライマリDNSサーバー」、「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNSのIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

**6** 「ステップ1」画面で[次へ]をクリックします。

**7** 「ステップ2：インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、[次へ]をクリックします。

**8** 「ステップ3：コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[次へ]をクリックします。

**9** 「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

**10** **プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。**

❶ **「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、[次へ]をクリックします。**

❷ **「電子メールアドレス」を入力して[次へ]をクリックします。**

❸ **「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して[次へ]をクリックします。**

❹ **「アカウント名」と「パスワード」を入力して[次へ]をクリックします。**

**11** **「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら[完了]をクリックします。**

「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動して、「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。

p.99の「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」に進みます。

## ダイヤルアップ接続の設定をする（WindowsXP）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「新しい接続ウィザード」をクリックします。

2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で［次へ］をクリックします。

4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

6 「接続名」と表示されたら、接続先の名前を入力して［次へ］をクリックします。

7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、接続先の電話番号を入力して［次へ］をクリックします。

8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して［次へ］をクリックします。

9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

10 ［スタート］－「接続」－「（手順6で設定した接続先の名前）」をクリックします。

**11** [プロパティ]をクリックします。

**12** プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。

❶「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル(TCP/IP)」の[プロパティ]をクリックします。

❷「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。

❸「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNSのIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

**13** 「全般」タブ−「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて[OK]をクリックします。

**14** [キャンセル]をクリックします。

# 回線接続前の設定（WindowsXP）

WindowsXPでは回線接続前に次の設定を行います。

**接続に関する設定**

接続に関する設定は次のとおりです。

- **使用回線の設定**
  電話回線を使用する設定をします。
- **インターネットへの自動接続・切断の設定**
  InternetExplorerを起動または終了した際に、インターネットへの接続画面または切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

**1** **［スタート］－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット接続」－「インターネットオプション」－「接続」タブをクリックします。**

**2** **「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。**
（使用回線の設定）

**3** **［設定］－［詳細設定］をクリックします。**

**4** **「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。**（自動接続、切断の設定）

**5** **「（接続先の名前）の設定」画面で［OK］をクリックします。**

**6** **「インターネットのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。**

## Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressを初めて起動した際には、メールアドレスなどいくつかの情報を入力する必要があります。オンライン契約ではこの設定が必要ない場合があります。

初期設定は、次の手順で行います。

**1** **[スタート]－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」をクリックします。**

**2** **「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して[次へ]をクリックします。**

**3** **「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得した電子メールアドレスを入力して[次へ]をクリックします。**

**4** **「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されているサーバー名を入力して[次へ]をクリックします。**

**5** **「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているアカウント名とパスワードを入力して[次へ]をクリックします。**

**6** **「設定完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。**

参考

**初期設定をあとから行う**

「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。

**「ツール」メニュー－「アカウント」－[追加]－「メール」**

# Internet Explorerと Outlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

- **Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)**
  インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。
- **Outlook Express(アウトルックエクスプレス)**
  メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

## 起動方法

起動方法は、次のとおりです。

**1** **ソフトウェアを起動します。**

- Internet Explorer
  - ［スタート］－「(すべての)プログラム」－「Internet Explorer」
  - キーを押します。
- Outlook Express
  - ［スタート］－「(すべての)プログラム」－「Outlook Express」
  - キーを押します。

Outlook Expressでは、「オンラインに切り替えますか？」と表示されます。インターネットに接続する場合は、［はい］をクリックします。

WindowsXPで初期設定を行っていない場合は、初期設定を行います。

p.98「Outlook Expressの初期設定」

**2** **「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。**

自動的に入力されている項目もあります。

**3** 入力内容を確認して[接続]をクリックします。

[接続]をクリックすると接続状態が表示されます

**4** 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。

参考

- **ダイヤルアップネットワークから接続する**

  インターネットへの接続は次の方法でも行えます。

  Windows2000：［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」－「（接続先の名前）」をダブルクリック

  WindowsXP　：［スタート］－「接続」－「（接続先の名前）」をクリック

  この場合は、接続完了後にソフトウェアを起動します。

- **メールソフトウェア使用時のインターネット接続**

  インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。



## 終了方法

### Internet Explorerの場合

Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。

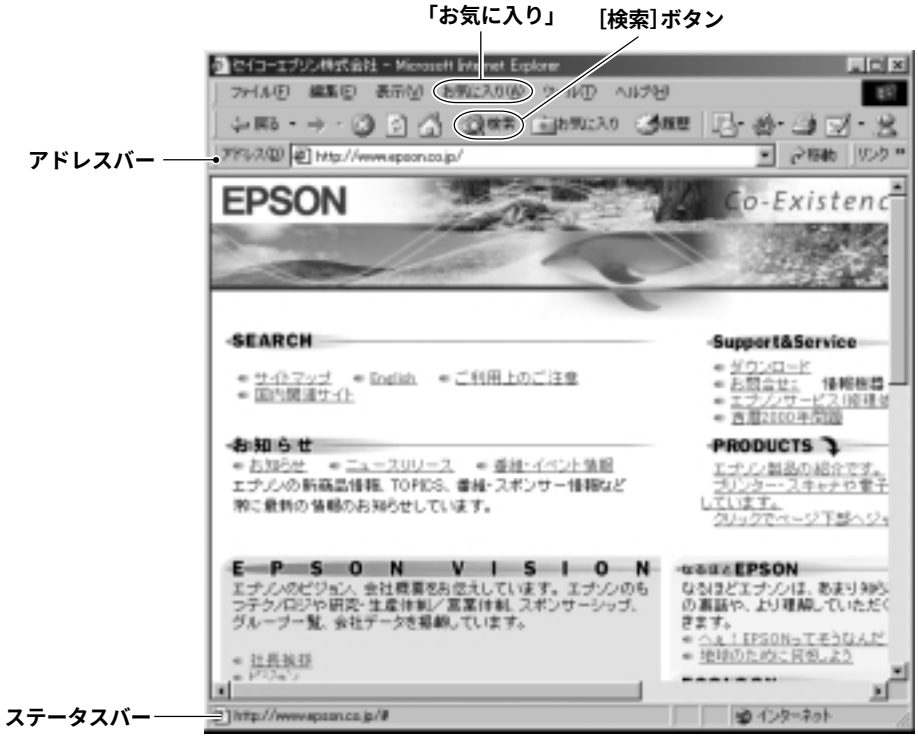
1. **画面右上の×をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。**
2. **「自動切断」画面が表示されます。［今すぐ切断する］をクリックします。**

### Outlook Expressの場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。

1. **インターネットに接続している場合は、「ファイル」－「オフライン作業」をクリックします。**
2. **「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか」と表示されたら［はい］をクリックします。**
3. **画面右上の×をクリックして、「Outlook Express」を終了します。**

# Internet Explorerの使い方




※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

● **見たいホームページを開くには**

・アドレスバーにアドレス(URL)を入力して [↵] を押します。

・キーワードを使って検索します。

［検索］ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

● **「お気に入り」にページを登録する**

よく見るページは「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。

・ 登録:「お気に入り」ー「お気に入りの追加」をクリックして登録します。

・ 登録したお気に入りにアクセスする:「お気に入り」をクリックすると、一覧が表示されます。

● **リンクしているページにジャンプする**

ホームページの画面上でマウスポインタが から に変わる場所があります。そこでクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

参考

**JAVA VMのインストール（WindowsXPのみ）**

ページによっては「JAVA VMをインストールしてください。」といったメッセージが表示されることがあります。このようなページを閲覧するためにはJAVA VMが必要です。p.33「JAVA VMのインストール」を参照してインストールを行ってください。



## Outlook Expressの使い方

**使い方**

参考

**メールの作成とインターネット接続**

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときはインターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」―「オフライン作業」をクリックします。

**メールを送信する（オンラインの場合）**

**1** **[新しいメール]（WindowsXPでは[メールの作成]）をクリックしてメール作成画面を表示します。**

**2** **必要事項　「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。**

**3** **[送信]ボタンをクリックします。**

**メールを送信する(オフラインの場合)**

**1** **上記手順「メールを送信する（オンラインの場合）」1、2を参照して、メールを作成します。**

**2** **[送信]をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。**
複数のメールを作成し、一度に送信することができます。

**3** **[送受信]をクリックして、「…オンラインに切り換えますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。**

**4** **「ダイヤルアップ接続」画面で[接続]をクリックします。**
接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

**メールを受信する**

**1** **「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。**
インターネットに接続されていない場合は、[送受信]をクリックすると接続作業が行われます。

**2** **受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。**
**「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。**

**アドレス帳を作る**

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

**1** **[アドレス]をクリックします。**

**2** **[新規作成]をクリックして、「新しい連絡先」をクリックします。**

3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

## メールユーティリティを使う

「メールユーティリティ」をインストールすると「Outlook Express」または「Outlook」を起動している間、未開封メールがあるとメールLED(✉)が点灯します。
「メールユーティリティ」は、購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

### メールユーティリティのインストール

「メールユーティリティ」のインストールは、次の手順で行います。

1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
Windows2000は「リカバリCD Disc2」
WindowsXPは「リカバリCD Disc3」

2 [スタート]ー「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:\CHKMAIL\SETUP
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)

4 「Welcome」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。

5 「Choose Destination Location」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。

6 「Select Program Folder」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。

7 「Setup Complete」画面が表示されたら、[Finish]をクリックします。

8 [スタート]からWindowsを再起動します。これでメールユーティリティのインストールは終了です。

# 省電力機能を使う

省電力機能を使うと消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで使用可能時間を延ばすことができます。

本章ではWindowsの省電力機能について説明していますが、本機ではこのほかに「スピードステップ機能」、「Power Gear機能」を使用することができます。これらの機能を使用するとCPU速度やLCD輝度を調整して、消費電力を抑えます（Celeron搭載モデルはLCD輝度の調整のみ）。

☞ p.111「CPU速度を調整する」

## 省電力機能の種類

省電力機能には、次のモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- **HDD/ディスプレイの電源を切る**
  HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。
- **スタンバイ**
  作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。
- **休止状態**
  作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

### ローバッテリ省電力機能

本機はローバッテリ省電力機能により、バッテリ残量が低下したときに上記の省電力モードに移行します。

初期値は、次のとおり設定されています。

| | |
|---|---|
| バッテリ残量低下を通知するバッテリ残量 | 10% |
| バッテリ切れを通知するバッテリ残量 | 3% |
| バッテリ切れのコンピュータの動作 | スタンバイモードに移行する |

バッテリ残量低下時の通知方法や、通知する残量の設定を変更することができます。

☞ p.44「バッテリアラームの設定」

**電源ランプの表示**　省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

| 動作状態 | 電源ランプの表示 |
|---|---|
| 通常モード | 緑点灯 |
| HDD/ ディスプレイの電源を切る | 緑点灯 |
| スタンバイ | 緑点滅 |
| 休止状態 | 消　灯 |
| 電源切断時 | 消　灯 |

## 省電力機能使用時の制限

省電力機能を使用する際には、次のような制限事項があります。省電力機能を使用する前に、必ず確認してください。

- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  - 再起動する。
  - 省電力モードを無効にする。
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)は保存しておいてください。
- 赤外線通信やFAXモデム、ネットワークなどのPCカードを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- サウンド機能を使って録音・再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 省電力モードに移行中にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

## 実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書など）は保存しておいてください。

① **時間経過で実行**

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

② **直ちに実行**

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

**Windows2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」**
**WindowsXP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」**

**時間経過で実行**

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。

〈Windows2000の場合〉

**直ちに実行**

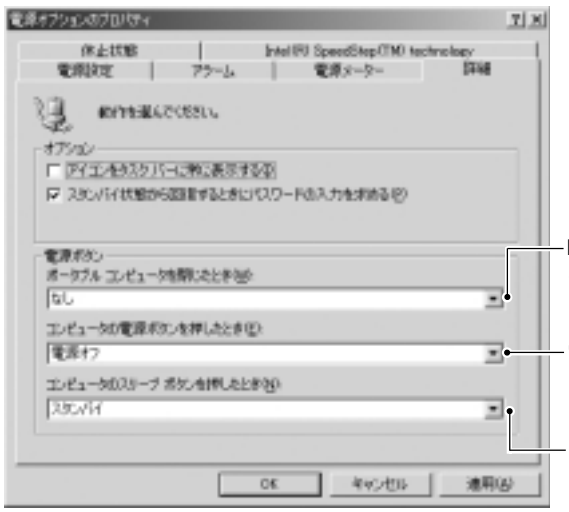
次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

- ［スタート］－「シャットダウン」または「終了オプション」から選択、実行する。
- LCDユニットを閉じる。
- 電源スイッチを押す。
- Fn +F1 (z²)を押す。

「LCDユニットを閉じる」、「電源スイッチを押す」、「Fn +F1 を押す」方法で、どのモードに移行するかの設定は、詳細(設定)タブで行います。

購入時の設定は、次のとおりです。

・ LCDユニットを閉じる ： なし(バックライトの消灯)
・ 電源スイッチを押す　： シャットダウン
・ Fn +F1 を押す　： スタンバイ




〈Windows2000の場合〉

## 復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

| 省電力モード | 電源ランプ | 復帰方法 |
|---|---|---|
| HDD、モニタの電源が切れている状態 | 緑点灯 | ● タッチパッド、キーボードを操作する（誤って電源スイッチを押さないでください）。 |
| スタンバイ | 緑点滅 | ● 電源スイッチを押す。<br>● キーボードを操作する。 |
| 休止状態 | 消　灯 | ● 電源スイッチを押す。 |

# CPU速度を調整する

本機には、CPU速度などを調整して消費電力を抑える2つの機能があります。この機能を使用すると、バッテリ使用時に使用可能時間を延ばしたりすることができます。

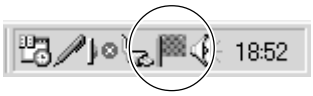
制限

**Celeron搭載モデルではPower Gear機能のLCD輝度調整のみ行えます。CPU速度の調整は行えません。**

## スピードステップ機能（Pentium4搭載モデルのみ）

スピードステップ機能は使用電源にあわせて、自動的にCPU速度を調整します。バッテリパック使用時はCPU速度を抑えて、使用時間を延ばします。また、ACアダプタ使用時は、CPU速度を速くして、複雑な処理を短時間でこなすことができます。

Windows2000では、タスクバーに「スピードステップ」アイコンが表示されていると、スピードステップ機能がCPU速度を調整しています。スピードステップ機能の設定を行うには「スピードステップ」アイコンをダブルクリックします。




WindowsXPでは、自動的にCPU速度が調整されます。現在のCPU速度を確認するには［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックして、「システムのプロパティ」画面を開きます。

# Power Gear(パワーギア)機能

Power Gear機能は、CPU速度とLCD輝度を調整してパフォーマンス(処理速度)の違いによる4段階のモードを設定します。ただしCeleron搭載モデルではLCD輝度の調整のみ行います。各モードへの切り替えはインスタントキーのPower Gearキー( )で行います。

Power Gear 機能を有効にするためのPower Gearユーティリティは購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

## モードの種類と切り替え

Power Gearのモードは次のとおりです。

| モード | 使用電源 | パフォーマンス | 消費電力 |
|---|---|---|---|
| | ACアダプタ | ■■■■ | ■■■■ |
| | ACアダプタ/バッテリ | ■■■ | ■■■ |
| | バッテリ | ■■ | ■■ |
| | バッテリ | ■ | ■ |

＊パフォーマンスと消費電力は使用環境によって異なります。

Power Gearキー( )を押すごとにモードが切り替わります。現在のモードはタスクバーにアイコンで表示されます。アイコンが表示されていない場合は、Power Gearユーティリティは起動していません。[スタート]－「(すべての)プログラム」－「Power Gear」－「Power Gear」を選択してください。

参考

**省電力モードへの移行**

Power Gearユーティリティをインストールすると、Windows電源管理のプロパティの「電源設定」タブの「電源設定」に「Power 4 Gear」が設定されます。Power Gearのモードに合わせて省電力モードへの移行時間を設定します。この設定はタスクバーの「Power Gear」アイコンを右クリックして「Configuration」でも表示できます。

☞ p.108「時間経過で実行」

## Power Gear ユーティリティのインストール

Power Gearユーティリティのインストールは次のとおりです。

**1** リカバリCDをCD-ROMドライブにセットします。
Windows2000の場合　「リカバリCD Disc2」
WindowsXPの場合　「リカバリCD Disc3」

**2** [スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

**3** 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
D:\POWERGEAR\SETUP
（CD-ROMドライブがDドライブの場合）

**4** 「Welcome」画面が表示されたら[Next]をクリックします。

**5** 「Choose Destination Location」画面が表示されたら[Next]をクリックします。

**6** 「Select Program Folder」画面が表示されたら[Next]をクリックします。

**7** 「Setup Complete」画面が表示されたら、[Finish]をクリックします。

**8** [スタート]からWindowsを再起動します。これでPower Gearユーティリティのインストールは終了です。

# そのほかの機能

## ネットワーク機能を使う

ネットワーク機能内蔵モデルでは、背面のネットワークコネクタを使用してネットワークに接続できます。
ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- **NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。**
  **このような場合は次のいずれかの方法をとってください。**
  **・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)**
  **・再起動する。**
  **・省電力モードを無効にする。**
- **ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。**

## パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、BIOS Setupユーティリティで変更してください。
☞ p.134「Advancedメニュー画面」

## シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスやTA（ターミナルアダプタ）FAXモデムなどを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスやIRQ番号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

☞ p.134「Advancedメニュー画面」

## USBコネクタを使う

本機背面にはUSBコネクタが2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。2個のコネクタは同じ機能ですので、どちらのコネクタを使用してもかまいません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

**接続と取り外し**

USB機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。
ただし、タスクバーにアイコン（「PCカード」アイコンなど）が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

## IEEE1394コネクタを使う

本機右側面にはIEEE1394コネクタ(4ピン)が2個用意されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。本機には4ピン－4ピン仕様のIEEE1394ケーブルが添付されています。

**接続と取り外し**

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。
ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

**ビデオ編集をする**

本機にはビデオ編集のためのソフトウェア「Symphomovie」がインストールされています。デジタルビデオからの画像の取り込み、編集を行うことができます。デジタルビデオとの接続や、編集方法などSymphomovieの詳しい使用方法は、『Symphomovieユーザーズマニュアル』をご覧ください。

## コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。購入時には「VirusScan for Windows」はインストールされていませんので、『VirusScan for Windowsをご使用の前に』を参照して、インストールを行ってください。

**データファイルのアップデート**

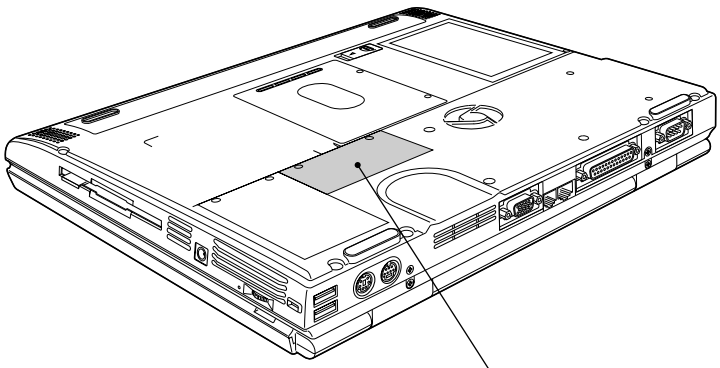
次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新(アップデート)が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付の「ユーティリティCD」に登録されています。

# システムの拡張

メモリの増設やコンピュータに接続できる装置について説明します。

# 拡張できる装置

本機内部には、次の装置を増設・交換して、機能を拡張することができます。



■ **メモリモジュール**

本機にはメモリスロットが2本用意されていますが、拡張可能なスロットは本機底面の1本です。1本のメモリスロットに最大512MBのメモリを搭載できます。

☞ p.119「メモリモジュールの増設」

参考

**メモリモジュールの増設**

メモリモジュールの増設作業はコンピュータ内部の精密部品に触れる可能性があるので十分に注意して作業を行ってください。サービスセンターまたは修理センターでは、お客様に代わってメモリモジュールの増設作業を行います(有償)。サービスセンターまたは修理センターまでご相談ください。

# メモリモジュールの増設

本機には2本のメモリスロットが用意されていて、1本のメモリスロットにはメモリ（SODIMM）を追加または交換することができます。購入時にはもう1本のメモリスロット（拡張不可）にメモリが装着されています。
本機に搭載可能な最大メモリ容量は1024MB（1GB）です。ただし、購入時のシステム構成により、実際に搭載可能な容量は異なります。

本機で使用可能なメモリの仕様は次のとおりです。

- 200ピンSODIMM（Single Outline Dual Inline Memory Module）
- 3.3V DDR SDRAM
- メモリ容量 128MB／256MB／512MB

上記仕様と一致するメモリを弊社のオプションより選択してください。



## 作業時の注意

メモリを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。

**警告**

- **電源コンセントに電源プラグを接続したまま、あるいはバッテリパックをセットしたままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。**
- **マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。**

**注意**

- **メモリの増設・交換は本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。**
- **不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。**

制限

- **本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外し、バッテリを抜いてください。**
- **作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。**
- **メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。**
- **装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。**
- **メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。**
- **メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。**

## メモリの増設

メモリの増設は、次の手順で行います。
メモリに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

### メモリの取り付け

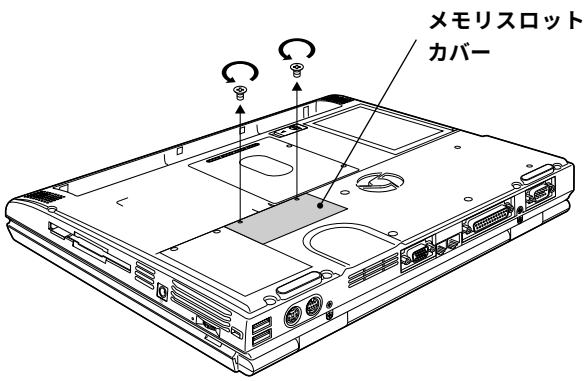
**1** **本機の電源を切ります。**

**2** **接続しているすべてのケーブルを外します。**

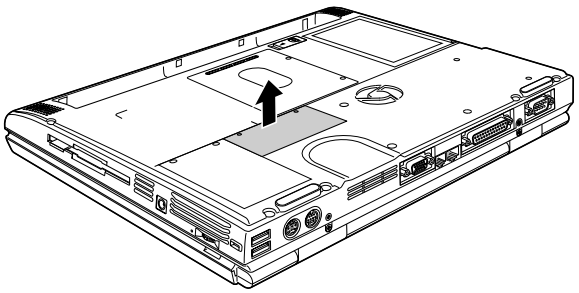
**3** **本機底面を上にして置きます。**

**4** **バッテリを取り外します。**
必ず取り外して下さい。
☞ p.47「バッテリの交換」

**5** **メモリスロットカバーのネジ（2本）を外します。**

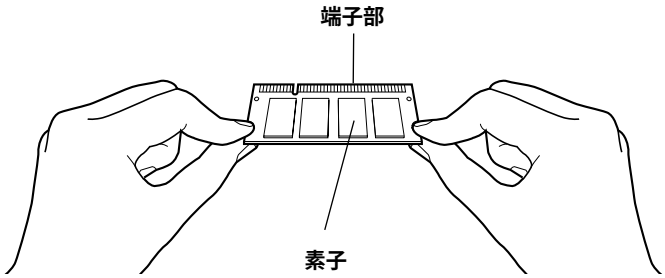



**6** **メモリスロットカバーを取り外します。**



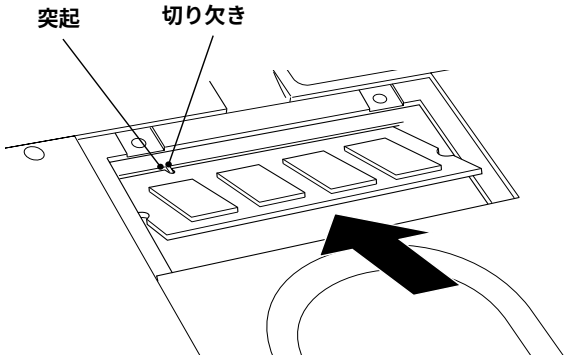
**7** **メモリを梱包から取り外します。**

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

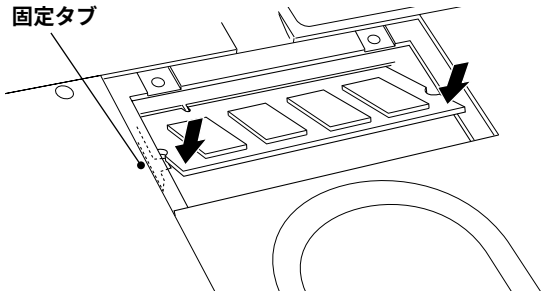


**8** **メモリを差し込みます。**

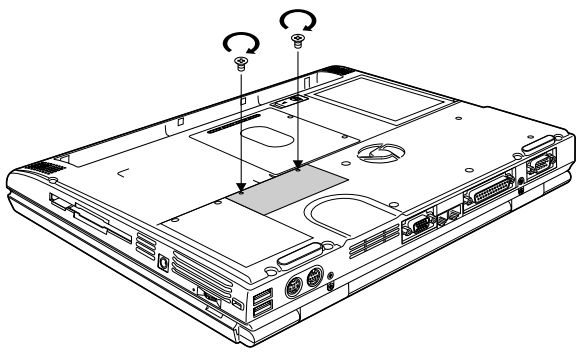
切り欠きを突起に合わせ、メモリを約45度の角度でメモリソケットに差し込みます。




**9** **固定タブがカチッと音がするまでメモリを静かに倒します。**




**10** **メモリスロットカバーを取り付け、ネジ（2本）で固定します。**



**10** **取り外したバッテリとケーブル類をもとに戻します。**

☞ p.48「バッテリの交換」手順5

**11** **「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。**

**❶ コンピュータの電源を入れて、F2を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

☞ p.127「BIOS Setupユーティリティの起動」

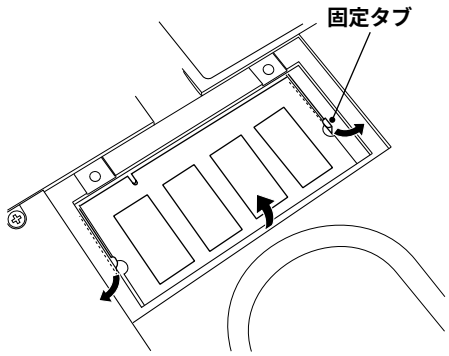
**❷ 「Mainメニュー画面」ー「Installed Memory」で総メモリ容量を確認します。**

装着した容量だけ、メモリ容量が増えていれば作業は完了です。「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

容量が増えていない場合は、メモリが正しく装着されていないことが考えられます。電源を切ってからメモリを装着し直してください。

## SODIMMの取り外し

**1** **ソケット両側の固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。**



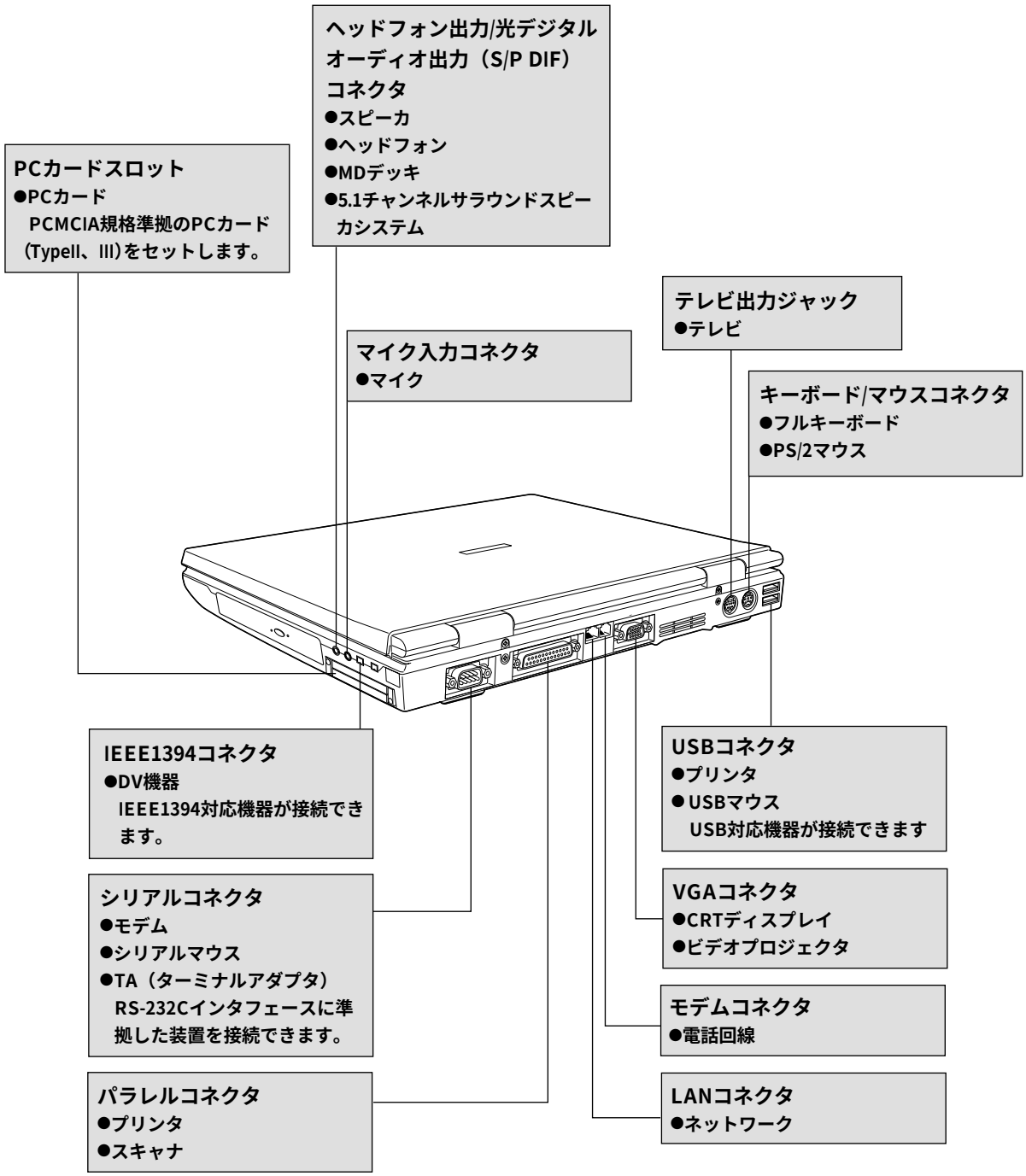

**2** **起き上がったSODIMMの両端を持って静かに引き抜きます。**

メモリは端子部や素子に触れないように持ってください。

取り外したメモリは、静電防止袋に入れて保管してください。

# 外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



# BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

# BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- マウスを使う場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。

参考

**リチウム電池の寿命**

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

制限

- **設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。**
  ☞ p.139「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- **設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）または「Discard Changes」（前回保存した設定値に戻す）を実行することでもとの値に戻すことができます。**
  ☞ p.130「設定値をもとに戻すには」
- **弊社製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。弊社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。**

# BIOS Setupユーティリティの操作

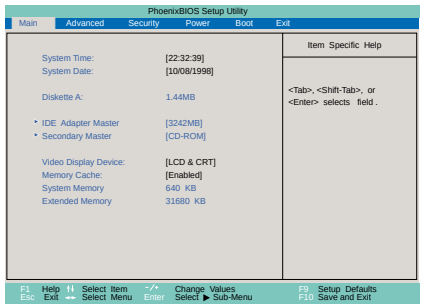
## BIOS Setupユーティリティの起動

**1** コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。

**2** 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの F2 を押します。

**Press F2 to enter SETUP**
このメッセージが表示されている間に F2 を押さないとWindowsが起動します。

「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。




BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ）

**仕様が前回と異なるとき**

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には次のメッセージが表示されます。

**Press F1 to continue, F2 to enter SETUP**

このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

☞ p.131「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

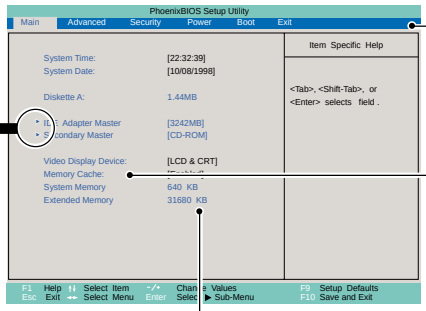
# BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。
操作は、次の順番で行います。

①「処理メニュー」を選択 → ②「設定項目」を選択 → ③「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。なお、各設定項目の説明は、p.132をご覧ください。

＜メニュー画面＞




① 「処理メニュー」を選択

→ ← で変更します。

起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 「設定項目」を選択

↑ ↓ で変更します。

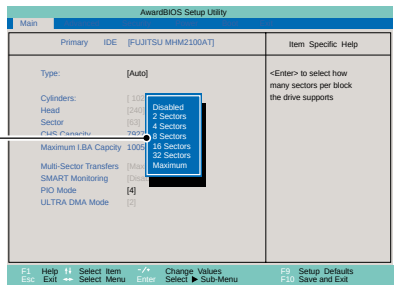
③ 「設定値」を選択

黒字表示されていると、設定変更可能です。

Fn + ＋ / Fn + － を押すと値が変わります。

↵ を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

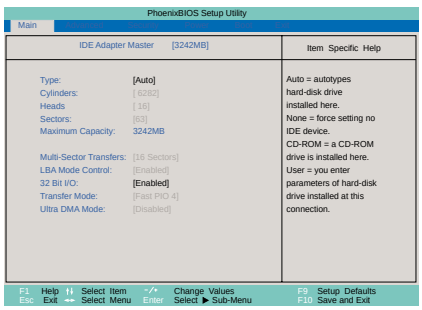
＜選択ウィンドウ＞




選択ウィンドウ内の設定値を ↑ ↓ で変更し、↵ で設定します。

▶マークの付いている設定項目を選択して ↵ を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

＜サブメニュー画面＞




「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。

Esc を押すと＜メニュー画面＞に戻ります。

## キー操作一覧

| キー | 操作できる内容 |
|---|---|
| F1 , Alt + H | ヘルプを表示します。 |
| Esc | 「Exit」画面を表示します。<br>サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。 |
| ↑ , ↓ | 設定を変更する項目を選択します。 |
| ← , → | 処理メニューを選択します。 |
| Fn + - ,<br>Fn + + | 項目の値を変更します。 |
| ↵ | ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。<br>・選択項目の選択ウィンドウを表示します。<br>・設定値を選択します。 |
| F9 | 全設定項目の値を初期値に戻します。 |
| F10 | 変更した設定値を保存して終了します。 |
| Page Up , Home | 表示されているメニューの中の最初の項目に移動します。 |
| Page Down , Fn + End | 表示されているメニュー画面の中の最後の項目に移動します。 |

## 設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を戻すことができます。

### 初期値に戻す（Load Setup Defaults）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

**1** **F9を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

| Setup confirmation |
| --- |
| Load default configuration now ?<br>［Yes］　　［No］ |

**2** **BIOSの設定を変更する場合は、[Yes]を選択して ↵ を押します。**
**変更しない場合は[No]を選択して ↵ を押します。**

### 前回保存した設定値に戻す（Discard Changes）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

**1** **「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

| Setup confirmation |
| --- |
| Load previous configuration now ?<br>［Yes］　　［No］ |

**2** **BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して ↵ を押します。**

# BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

**変更した内容を保存し、終了する(Exit Saving Changes)**

**1** Esc を押す、または → ← を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

**2** 「Exit Saving Changes」を選択し ↵ を押します。次のメッセージが表示されます。

| Setup confirmation |
|---|
| Save configuration changes and exit now ? |
| [Yes] [No] |

**3** 変更した設定値を保存して終了する場合は[Yes]を選択し、↵ を押します。

**変更した内容を破棄し、終了する(Exit Discarding Changes)**

**1** Esc を押す、または → ← を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

**2** 「Exit Discarding Changes」を選択し、↵ を押します。
設定値が変更されていなければ、そのままBIOS Setupユーティリティが終了し、システムが起動します。

**3** 設定値が変更されている場合は次のメッセージが表示されます。

| Setup confirmation |
|---|
| Discard configuration changes and exit now? |
| [Yes] [No] |

変更した設定値を保存せずに終了する場合は[Yes]を選択し、↵ を押します。

# BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Securityメニュー画面
- Bootメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Powerメニュー画面
- Exitメニュー画面

## Mainメニュー画面

**「Main」メニュー画面**では、次の設定を行います。

- 日付と時刻の設定
- IDE装置の仕様(転送モードやパラメータ)の設定
- テレビの仕様

設定項目と詳細は、次のとおりです。

※は表示のみ
は初期値

| | | |
|---|---|---|
| System Time (hh:mm:ss)時間の設定 | | 時刻を設定します。 |
| System Date(mm:dd:yy)日付の設定 | | 日付を設定します。 |
| Primary Master<br>Secondary Master<br>(IDE装置の設定) | | 接続しているIDE装置の機種を表示します。<br>表示される項目や選択できる値はIDE装置やTypeの値によって異なります。 |
| | Type | IDE装置の仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で自動的に仕様が設定されない古いHDDを使用する場合には[User Type HDD]を選択して各項目を設定します。<br>None :IDE装置を接続しない場合に選択します。<br>Auto :BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。<br>User Type HDD :HDDに関する仕様を個別に設定することができます。 |
| | Translation Method | HDDの記憶容量のモードを設定します。<br>Normal :容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。<br>LBA :容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。<br>LARGE :容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。<br>Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。<br>Manual :「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。 |
| | Cylinders | HDDのシリンダ数を設定します。 |
| | Head | HDDのヘッド数を設定します。 |
| | Sector | HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。 |
| | CHS Capacity※ | HDDの最大容量(CHS)を表示します。 |

| | | |
|---|---|---|
| | Maximum LBA Capacity※ | HDDの最大容量(LBA)を表示します。 |
| | Multi-Sector Transfers | 一度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。<br>Disabled :複数のセクタを転送しません。<br>Maximum :HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。<br>2 4 8 16 32 Sectors :転送セクタを設定します。 |
| | SMART Monitoring | 初期設定[Disabled]のまま使用します。 |
| | PIO Mode | IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。<br>0 1 2 3 4 :転送モードを設定します。 |
| | ULTRA DMA Mode | Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。<br>Disabled :使用しません。<br>0 1 2 3 4 5 : 転送モードを設定します。 |
| TV Display Type | | 接続するTVの規格を設定します。<br>NTSC-J : 一部の製品で、日本国内専用として使用している規格です。<br>NTSC : 日本、米国などで、使用されている規格です。 |
| Installed Memory※ | | メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。 |
| CPU Speed※ | | 搭載しているCPUの周波数を自動的に表示します。 |

# Advancedメニュー画面

「**Advanced**」**メニュー画面**では、周辺デバイス(シリアルポート、赤外線ポート、パラレルポート)のアドレス設定を行います。

設定項目と詳細は、次のとおりです。

| | | | |
|---|---|---|---|
| I/O Device Configuration | | | 周辺デバイスのアドレス設定を行います。 |
| | Onboard Serial Port 1<br>(シリアルポートの設定) | | シリアルポート(COM1)で使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。<br>3F8H/IRQ4　3E8H/IRQ4　2F8H/IRQ3　2E8H/IRQ10<br>Disabled　:シリアルポートを使用しません。 |
| | IR Port<br>(赤外線ポートの設定) | | 赤外線ポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。<br>3F8H/IRQ4　3E8H/IRQ4　2F8H/IRQ3　2E8H/IRQ10<br>Disabled　:赤外線ポートを使用しません。 |
| | | IR Mode<br>(通信モードの設定) | IR Port 項目で[Disabled]以外に設定したときに表示されます。<br>赤外線ポートの通信モードを設定します。<br>FIR　SIR |
| | | DMA Channel<br>(DMAの設定) | Mode項目で[FIR]に設定したときに表示されます。<br>赤外線ポートで使用するDMAチャネルを設定します。<br>1　3 |
| | On board Parallel Port<br>(パラレルポートの設定) | | パラレルポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。<br>378H/IRQ7　278H/IRQ5　3BCH/IRQ7<br>Disabled　:パラレルポートを使用しません。 |
| | | Parallel Port Mode<br>(動作モードの設定) | パラレルポートの動作モードを設定します。本機に接続する周辺デバイスで設定指示がある場合は、指示にしたがって設定します。<br>Normal　:標準の設定です。<br>EPP　:EPPモードに設定します。<br>ECP　:ECPモードに設定します。<br>ECP+EPP　:ECP+EPPモードに設定します。 |
| | | ECP DMA Select<br>(DMAの設定) | 動作モードにECP、ECP+EPPを選択した場合に表示されます。<br>パラレルポートで使用するDMAチャネルを設定します。<br>1　3 |
| Internal Pointing Device | | | 本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。<br>PS/2マウスを使用する場合は、[Disabled]を選択します。<br>Disabled :タッチパッドを使用しません。<br>Enabled　:タッチパッドを使用します。 |

# Securityメニュー画面

**「Security」メニュー画面**は、システム起動時やBIOS Setupユーティリティ起動時などのパスワードを設定する場合に使用します。
パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。パスワードを設定すると、システム起動時またはBIOS Setupユーティリティ起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。

設定項目と詳細は、次のとおりです。

| | |
|---|---|
| Supervisor Password<br>User Password<br>（パスワードの設定） | BIOS Setupユーティリティ起動時やシステム起動時のパスワードを設定します。<br>[↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。 |
| HDD Password<br>（HDDパスワードの設定） | HDDを認識するためのパスワードを設定します。システム起動時またはBIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。<br>[↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。 |

「Supervisor Password（管理者パスワード）」と「User Password（ユーザーパスワード）」の入力のタイミングと変更可能なBIOS項目の詳細は以下のとおりです。

| | パスワード項目 | 設定値 | BIOS Setup ユーティリティ起動時 | Windows 起動時 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Supervisor Password | Enabled | ○（全項目*1変更可能） | ○ |
| | User Password | Enabled | ○（一部項目*2のみ変更可能） | ○ |
| 2 | Supervisor Password | Enabled | ○（全項目*1変更可能） | × |
| | User Password | Disabled | × | × |
| 3 | Supervisor Password | Disabled | × | × |
| | User Password | Enabled | ○（一部項目*2のみ変更可能） | ○ |

○: パスワード要求あり　×: パスワード要求なし
*1 : BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。
*2 : 次の項目を指します。
- 「Main メニュー画面」－「System Time」,「System Date」,「User Password」
- 「Exit メニュー画面」－「Exit Saving Changes」,「Exit Discarding Changes」

### パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

**1** **「Supervisor Password」または、「User Password」、「HDD Password」を選択して [↵] を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter Password:
```

**2** **パスワードを入力し、[↵] を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

**3** **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、[↵] を押します。**

同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。

```
Confirm Password:
```

**4** **パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変わります。**

**登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。**
**万一、パスワードを忘れた場合は、本製品を購入した販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。**

### パスワード入力時の注意

パスワード設定時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

**管理者パスワードの削除**

**1** 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して [↵] を押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Enter Password:
```

**2** 何も入力せずに [↵] を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に変わります。これでパスワードが削除されます。

**HDDパスワードの削除**

**1** 「HDD Password」を選択して [↵] を押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Enter password:
```

**2** 何も入力せずに [↵] を押します。次のメッセージが表示されます。

```
Old HDD password:
```

**3** HDDパスワードを入力し、[↵] を押すと「HDD Password」の値が「Disabled」に変わります。これでパスワードが削除されます。



## Powerメニュー画面

**「Power」メニュー画面**では、バッテリ放電を行います。

| | |
|---|---|
| Start Battery Refreshing<br>（バッテリ放電の実行） | バッテリ放電を行う場合に実行します。<br>☞ p.46「バッテリ残量が正しく表示されないときは」 |

## Bootメニュー画面

「**Boot**」**メニュー画面**では、システムを起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが[1.…]のドライブから順番にシステムを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。初期設定は、[1.Removable Device]、[2. IDE Hard Drive]、[3.ATAPI CD-ROM]です。

順番を上げたいドライブを選択して(スペース)を押すとそのドライブの順番が1つ上がります。

| | |
|---|---|
| Removable Device | FDDから起動します。 |
| IDE Hard Drive | HDDから起動します。 |
| ATAPI CD-ROM | ATAPI CD-ROM ドライブから起動します。 |

## Exitメニュー画面

**「Exit」メニュー画面**は、BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

| | |
|---|---|
| Exit Saving Changes | 変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。 |
| Exit Discarding Changes | 変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。 |
| Load Setup Defaults | BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。 |
| Discard Changes | BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。 |
| Save Changes | 変更した内容(設定値)をBIOS Setupユーティリティを終了させずに保存します。 |

# BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupプログラムで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

### Mainメニュー画面

| 項目 | 購入時の設定 | | 変更内容 | |
|---|---|---|---|---|
| | Primary Master | Secondary Master | Primary Master | Secondary Master |
| Type | | | | |
| Translation Method | | | | |
| Cylinders | | | | |
| Head | | | | |
| Sector | | | | |
| Multi-Sector Transfers | | | | |
| PIO Mode | | | | |
| ULTRA DMA Mode | | | | |
| TV Display Type | J-NTSC | NTSC | J-NTSC | NTSC |

### Advancedメニュー画面

| 項目 | 購入時の設定 | | 変更内容 | |
|---|---|---|---|---|
| Internal Pointing Device | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |

### I/O Device Configurationサブメニュー画面

| 項目 | 購入時の設定 | 変更内容 |
|---|---|---|
| Onboard Serial Port1 | 3F8H/IRQ4 3E8H/IRQ4<br>2F8H/IRQ3 2E8H/IRQ10 Disabled | 3F8H/IRQ4 3E8H/IRQ4<br>2F8H/IRQ3 2E8H/IRQ10 Disabled |
| IR Port | 3F8H/IRQ4 3E8H/IRQ4<br>2F8H/IRQ3 2E8H/IRQ10 Disabled | 3F8H/IRQ4 3E8H/IRQ4<br>2F8H/IRQ3 2E8H/IRQ10 Disabled |
| IR Mode | FIR SIR | FIR SIR |
| DMA Channel | 1 3 | 1 3 |
| Onboard Parallel Port | 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7 Disabled | 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7 Disabled |
| Parallel Port Mode | Normal EPP ECP ECP+EPP | Normal EPP ECP ECP+EPP |
| ECP DMA Select | 1 3 | 1 3 |

### Bootメニュー画面

| 項目 | 購入時の設定 | 変更内容 |
|---|---|---|
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |

# こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法について説明します。

# 困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

## コンピュータ本体の不具合

**電源を切ってからもう一度入れ直す場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。**

**現象**　**起動時に電源ランプが点灯しない。**

**確認と対処**

- バッテリだけで使用している場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。
- バッテリ、ACアダプタが正しく接続されているか確認します。
  ☞ p.13「ハードウェアをセットアップしましょう」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品の電源コードを電源コンセントに接続して確認してください。
- バッテリ、ACアダプタ、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

**現象**　**起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。**

**確認と対処**

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。
- 起動時の自己診断テスト終了後(Windowsの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
  ☞ p.160「警告メッセージが表示されたら」
- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。
  ☞ p.130「設定値をもとに戻すには」
- ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
- コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

  **Press F1 to continue, F2 to enter SETUP**

  F2を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
  ☞ p. 127「BIOS Setupユーティリティの操作」
  F1を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

**現象**　**起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。**

```
Enter Password:
```

**確認と対処**

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。
  ☞ p.135「Securityメニュー画面」
- パスワードを正しく入力しているか確認します。Num LKの状態により一部のキーが数値キーとして働きます。
  ☞ p.54「キーボードを使う」
- パスワードを忘れてしまった場合には、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

**現象**　**起動時に次のようなメッセージが表示されて、Windowsが起動しない。**

- **Operating System not found**
- **DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER**
- **Invalid system disk Replace the disk, and then press any key**

**確認と対処**

- システムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。
  ☞ p.152「HDDの不具合」
- システムが登録されていないFDがFDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

**現象**　**ハングアップしてしまい、何も反応しない。**

**確認と対処**

- Ctrl+Alt+Deleteを押してリセットします。
- リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。
  ☞ p.34「電源の切り方」

**現象**　**「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。**

**確認と対処**

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

## 省電力機能に関する不具合

**現象**　**正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない**

**確認と対処**

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- バッテリ残量が少なくなり、ローバッテリ省電力モードに入った場合は、ACアダプタを接続してから復帰させてみてください。
- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Deleteを押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 省電力モード時にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl＋Alt＋Deleteを押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。

## バッテリパック使用時の不具合

**現象**　**充電されない**

**確認と対処**

- バッテリパックが正しく装着されているか確認します。
- 充電時にバッテリ充電LEDが橙色に点灯しているか確認します。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているかを確認します。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してみます。
- 電源コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたはコンピュータに問題があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。
- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
☞ p.46「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

**現象**　**すぐにバッテリが終ってしまう。バッテリでの使用時間が短い。**

**確認と対処**

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
☞ p.46「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
☞ p.49「使用済みバッテリの取り扱い」

## キーボードの不具合

**現象**　**どのキーを押しても応答がない。**

**確認と対処**

- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。
  ☞ p.36「リセット」

**現象**　**キートップにある文字や記号が入力できない。**

**確認と対処**

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。
  ☞ p.55「文字を入力するには」
- Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認します。
  **101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード**

  確認方法は、次のとおりです。
  Windows2000の場合：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「キーボード」アイコンをダブルクリック
  WindowsXPの場合　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「キーボード」をクリック

## タッチパッドの不具合

**現象**　**ポインタの動きが悪い。**

**確認と対処**

- 手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。
- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れ直してください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。
  ☞ p.50「タッチパッドユーティリティを使う」

## LCDの不具合

**現象**　**LCD画面に何も表示されない。**

**確認と対処**

- 画面の明るさを調節してください。Fn +F5 / Fn +F6 で調節できます。
  ☞ p.75「表示装置を使う」
- バックライトが消灯していないか確認します。Fn +F7 を押してみてください。
- 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  ☞ p.110「復帰方法」
- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してもそのまま放置すると、スタンバイモードに移行します(購入時の設定)。ＡＣアダプタを接続してください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

- 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ビープ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

**現象**　**画面がちらつく。**

**確認と対処**

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生する場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

**現象**　**画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。**

**確認と対処**

- 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直し、解像度を正しく選択してください。

**■Windows2000の場合**

Windows2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows2000を基本的な設定で起動するモードです。

**1** コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。

**2** 画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に F8 を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。

**3** 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。

**■WindowsXPの場合**

WindowsXPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、WindowsXPを基本的な設定で起動するモードです。

**1** コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。

**2** 電源を入れた直後に、F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。

**3** 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。

**4** 「オペレーティングシステムの選択」の画面が表示されたら、↵ を押します。

**5** 「ようこそ」画面が表示されます。ログオンするとセーフモードでWindowsが起動します。

## FDDの不具合

**現象**　**FDに正常にアクセスできない。**

**確認と対処**

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

> **A:\にアクセスできません。**
> **デバイスの準備ができていません。**
> **［再試行］　［キャンセル］**

> **ディスクの挿入**
> **A:ドライブにディスクを挿入してください。**
> **［キャンセル］**

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

> **ドライブAのディスクはフォーマットされていません。**
> **今すぐフォーマットしますか？**
> **［はい］　［いいえ］**

- 使用しているFDが本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。
- 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、読み書きできないFDに異常があることが考えられます。
- システムが登録されたFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

**現象**　**FDに書き込みできない。**

**確認と対処**
- ライトプロテクトされていないか確認します。
☞ p.62「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

**現象**　**FDDから異常な音がする。**

**確認と対処**
- 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

## HDDの不具合

**現象**　**それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。**

**確認と対処**
- HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
☞ p.132「Mainメニュー画面」

**現象**　**特定のファイルのみ読み書きできなくなった。**

**確認と対処**
- ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

## CD-ROMドライブの不具合

**現象**　**セットしたCDにアクセスできない。**

**確認と対処**

- CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。
- 別のCD-ROM(データが登録されているもの)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。
- セットしたCDが、書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。
- CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windows には音楽CDを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player(CDプレーヤー)」が標準で添付されています。

**現象**　**CDをセットすると画面が開いてしまう。**

**確認と対処**　セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や☒をクリックして、画面を閉じます。その後「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。

**現象**　**音楽用CDの音が聞こえない。**

**確認と対処**

- スピーカの音量が小さくなっているまたはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
☞ p.84「サウンド機能を使う」

## アプリケーションソフトの不具合

**現象**　**アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。**

**確認と対処**

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやホコリ、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

**現象**　**アプリケーションソフトが起動しない。**

**確認と対処**

- アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
- アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。
- アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

## メモリの不具合

**現象**　**メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。**

**確認と対処**

- Windows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを実行し、「Mainメニュー画面」－「Installed Memory」でメモリ容量を確認してください。
  p.127「BIOS Setupユーティリティの操作」
- メモリモジュールを増設または交換した場合は、メモリモジュールのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## PCカードの不具合

**現象**　**PCカードを装着しても、使用できない。**

**確認と対処**

- PCカードスロットがPCカードの仕様に対応しているか確認してください。
- PCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。
  p.67「PCカードを使う」
- PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

## プリンタの不具合

**現象**　**印刷できない。**

**確認と対処**

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。
- プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

## 内蔵スピーカの不具合

**現象**　**システムは正常に動作しているのに音がしない。**

**確認と対処**

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  ☞ p.84「サウンド機能を使う」
- 内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## インストール時の不具合

**現象**　**インストール中に「WindowsCD」を要求されたので、「リカバリCD」をセットしたが、「ファイルが見つかりません」と表示されインストール作業が進まない。**

**確認と対処**

- 「リカバリCD」は、リカバリ専用に作成されているため、リカバリCDから1つ1つのファイルを直接読み込むことはできません。「ファイルのコピー元」に次のフォルダを指定してください。
  **Windows2000の場合　：C:￥I386**（Iはアルファベット）
  **WindowsXPの場合　：C:\WINDOWS￥I386**（Iはアルファベット）

**現象**　**インストールがマニュアルどおりにできない。**

**確認と対処**

- 本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。
  CD-ROMドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。

- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

## FAXモデムの不具合

**現象**　**「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。**

**確認と対処**

- 「モデムのプロパティ」で［詳細情報］または［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。
  - **Windows2000の場合**
    **［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。**
  - **WindowsXPの場合**
    **［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。**

**現象**　**インターネットへ接続できない**

**確認と対処**

- モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。
- 次の場所で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。
  - **Windows2000の場合**
    **［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］**
  - **WindowsXPの場合**
    **［スタート］－「接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］**
- 次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。
  - **Windows2000の場合**
    **［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「全般」タブ－「ダイヤルの管理」項目－「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。**
  - **WindowsXPの場合**
    **［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「モデム」タブ－「ダイヤルの管理」項目－「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。**

- ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
  - 大文字と小文字をきちんと区別しているか。
  - 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0 とアルファベットの O など。
  - ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
  - パスワードとメールパスワードを混同していないか。
- ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

  次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

  - **Windows2000の場合**
    **❶［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ」－「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。**
    **❷「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル」－［プロパティ］でDNSサーバアドレスを確認します。**
  - **WindowsXPの場合**
    **❶［スタート］－「接続」－「接続名(任意の名前)」－［プロパティ］をクリックします。**
    **❷「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル(TCP/IP)」－［プロパティ］でDNSサーバーのアドレスを確認します。**
- 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。
- 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。
- 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。
  - 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
  - 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
  - プロバイダのサーバが停止している。

**現象**　**V.90、K56flex通信方式で通信できない。**

**確認と対処**

- 回線状況によって、V.90、K56flex通信方式で接続できない場合があります。V.90、K56flex通信方式のほかにはx2 方式がありますが、x2 方式のモデムとは、V.34 通信方式（33600bps ）以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1 度だけ行われる場合にのみ、V.90、K56flex通信方式で接続することができます。
- PBX 回線では、V.90、K56flex通信方式では接続できません。V.34 通信方式（33600bps）以下で接続します。

**現象**　**V.90、K56flexV.34 通信方式で通信中に、通信速度が下がる。**

**確認と対処**

- V.90、K56flexV.34 通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

# 警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

| 警告メッセージ | 説明 |
|---|---|
| System CMOS checksum bad - configuration used | CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。BIOS Setupユーティリティを起動して値を再設定してください。 |
| Diskette drive A error | FDDが正しく接続されていないか、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。 |
| Failure Fixed Disk | HDDが動作していないか、正しく認識されていません。HDDが正しく装着されているかを確認し、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。 |
| Keyboard error | キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。 |
| Keyboard controller Failed | キーボードコントローラにエラーが発生しました。外付けキーボードが正しく接続されているか確認し、電源を入れ直します。外付けキーボードを取り外しても問題が解決しない場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。 |
| Operating system not found | オペレーティングシステムが見つかりません。HDDから起動する場合は、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。FDDから起動する場合は、挿入したフロッピーディスクがシステムディスクではない可能性があります。 |
| System RAM Failed at offset | システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。 |
| Shadow RAM Failed at offset | シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。 |
| Extended RAM Failed at address line | 拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。BIOS Setupユーティリティを起動してメモリを再検出します。 |
| Previous boot incomplete - Default configuration used | 前回の自己診断テストでのエラーがそのままです。セットアップには前回の値を使用するため、値が不正確な場合、このまま起動しても再度エラーになります。BIOS Setupユーティリティを起動して設定値を確認します。間違いがあれば訂正します。 |
| System cache error - Cache disabled | キャッシュメモリにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。 |
| System timer error | システムタイマーでエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。 |
| Real time clock error | 内蔵クロックにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。 |

# 付　録

お手入れ方法やHDDを購入時の状態に戻す方法、仕様などについて説明しています。

# お手入れ

## 本機のお手入れ

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

**ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。**

**LCDパネルのお手入れ**

LCDパネルは乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

# リチウム電池の交換

BIOS セットアップユーティリティで設定した情報は、本体内部のリチウム電池によって保持されています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
販売店、サービスセンターまたは修理センターへご連絡ください。

# ATコマンドの使用

## ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

本機で使えるATコマンドの一覧（ATコマンドリファレンス）は添付の次のCDの「MODEM」フォルダに登録されています。（英文）

- Windows2000の場合　「リカバリCD Disc2」
- WindowsXPの場合　「リカバリCD Disc3」

## ATコマンドの使用

通信ソフトウェアでモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

Windows2000の場合

［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「詳細」タブの「追加設定」

WindowsXPの場合

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「詳細」タブの「追加設定」

| 現　象 | ATコマンド |
|---|---|
| ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。 | 「ATM0」 |
| ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。 | 「ATL0」 |
| 「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。 | 「ATX3」 |
| モデムの設定を工場出荷時の状態にする。 | 「AT&F」 |
| ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。 | 「ATP」 |
| プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。 | 「ATT」 |
| 「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。 | 「AT+MS=V34」（V.34）、「AT+MS=V.90」（V.90）「AT+MS=K56FLEX」（K56flex）<br>使用したい通信方式に応じて設定。 |
| 接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう) | |
| パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。 | |

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例：ATM0X3 （ATM0+ATX3）

# HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因でWindowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなった場合などに、HDDを購入時の状態に戻すことで問題が解決することがあります。

**HDDを購入時の状態に戻したあとは、バックアップディスクを作成することができません。購入時の状態に戻す前に、必ずバックアップディスクを作成してください。**

☞ p. 25「セットアップ終了後の作業」

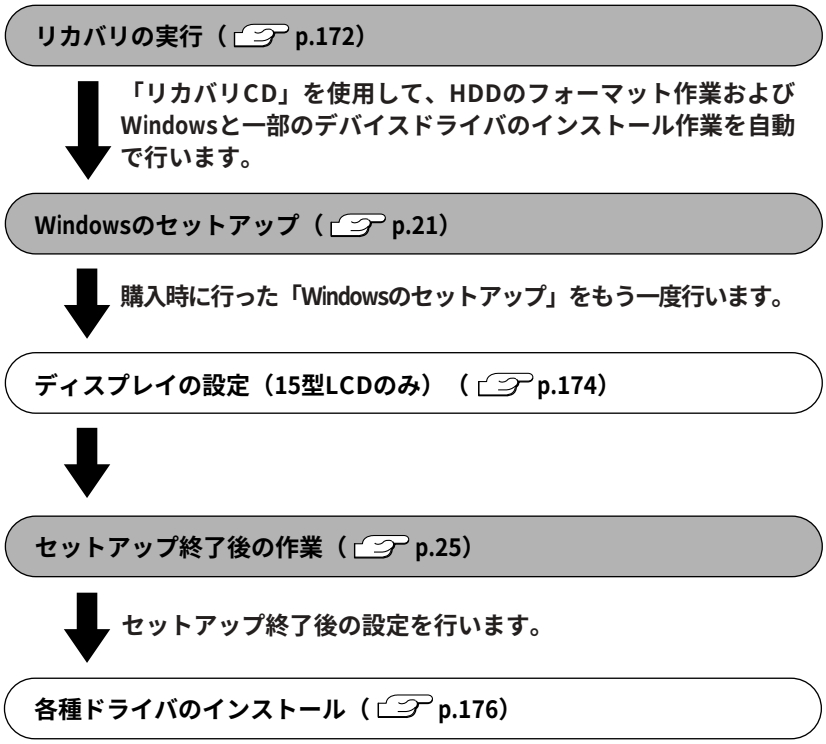
## 必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のCD-ROMなどが必要です。

- **リカバリCD**
  Windowsと各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。
  Windows2000用は、Disc1とDisc2の2枚組になっています。
  WindowsXP用は、Disc1、Disc2、Disc3の3枚組になっています。
- **ユーティリティCD**
  「VirusScan for Windows」と「Adobe Acrobat Reader」が登録されているCD-ROMです。
- **使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク**
  必要なドライバディスクは、お使いになるOSおよびシステム構成によって異なります。

# HDDを購入時の状態に戻す順番

次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。



# HDDを購入時の状態に戻す場合の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の事項を確認してから作業を始めてください。

- **本機で使用している「リカバリCD」は、Windowsとドライバ類を同時にインストールします。Windowsのみをインストールすることはできません。**
- **弊社製以外のBIOSを使用すると、リカバリの実行ができなくなります。**
  **弊社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。**

**インストール全般**

- 本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機購入後に周辺機器を取り付けた場合、BIOSの設定を変更した場合は、購入時のシステム構成に戻してからリカバリを実行することをおすすめします。
- インストール作業はACアダプタを接続して行うことをおすすめします。

**ドライブ名**

- 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。
  Aドライブ　：FDD
  Cドライブ　：HDD（基本MS-DOS領域）
  Dドライブ　：CD-ROMドライブ
- 本章の説明では、本機に装着されているスリムドライブを「CD-ROMドライブ」として記載しています。
  CD-R/RWドライブなどのドライブが装着されている場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

**リカバリの実行**

- リカバリを実行すると、バックアップディスクを作成することができなくなります。バックアップディスクを作成していない場合は、リカバリ実行前に、バックアップディスクを作成してください。
  ☞ p. 25「セットアップ終了後の作業」
- リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。

- HDDにCドライブのほかにDドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にDドライブ以降の重要なデータもFDなどにバックアップを取っておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。

- 「リカバリCD」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。

- リカバリ実行中は、「リカバリCD」を抜かないでください。

- リカバリCDは、次のファイルシステムを使用してHDDを購入時の状態に戻します。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると同じファイルシステムでWindowsがインストールされます。

  Windows2000　：FAT32ファイルシステム
  WindowsXP　：NTFS

**デバイスドライバのインストール**

- デバイスドライバのインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。このような場合には、「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

  Windows2000　：C:\I386（Iはアルファベット）
  WindowsXP　：C:\WINDOWS\I386（Iはアルファベット）

**セットアップ終了後の作業**

「セットアップ終了後の作業」の次の作業は、必要に応じて行ってください。これらの作業は、購入後電源を初めて入れたときに行う「Windowsのセットアップ」後に一度行っているため、通常は必要ありません。

Windows2000　：セットアップブートディスクの作成、バックアップディスクの作成
WindowsXP　：バックアップディスクの作成

# リカバリの実行

リカバリの実行は、次の手順で行います。

**1** **「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、CD-ROMの起動順位を1番に変更します。**

❶ **コンピュータの電源を入れて、[F2]を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

☞ p.127「BIOS Setupユーティリティの起動」

❷ **[→]を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。**

❸ **[↓]を押して「ATAPI CD-ROM」を選択し、[Fn]+[+]を数回押し、「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。**

**2** **「リカバリCD Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。**

**3** **「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。**

❶ **[→]を押して、「Exitメニュー画面」に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で[↵]を押します。**

❷ **「Setup Confirmation」画面が表示されたら、[Yes]が選択されている状態で[↵]を押します。**

**4** **コンピュータが起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[続ける]をクリックします。**

**5** **「警告」画面が表示されます。[はい]をクリックします。**

**6** **ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、10分程かかります。**

画面の指示に従って「リカバリCD Disc2」または「リカバリCD Disc3」をセットし、リカバリの実行を続行します。

**7** **「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD」を抜いて[再起動]をクリックし、コンピュータを再起動します。**

WindowsXPで再起動画面が表示されずに、コマンドプロンプト(P:¥>)が表示された場合はリカバリCDを抜き、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を押して再起動してください。

**8** **コンピュータの再起動時に「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、手順1で変更した「ATAPI CD-ROM」の起動順位をもとに戻します。**

**9** **「Exit」メニュー画面ー「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。**

**10** **コンピュータが起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。**

続けてWindowsのセットアップに移ります。

- プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合に「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「新しいハードウェアの検索ウィザード」画面が表示されたら、［キャンセル］をクリックします。HDDを購入時の状態に戻してから周辺機器に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行ってください。
- 再起動の画面が表示された場合は再起動します。

## ディスプレイの設定

**Windows2000の場合**

LCDサイズが15型の場合はディスプレイの設定を行います。14.1型LCDの場合はこの作業は必要ありません。

次の方法で15型LCDの設定を行います。

**1** **[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」をダブルクリックします。**

**2** **「画面のプロパティ」－「設定」タブ－[詳細]－「モニタ」タブをクリックします。**

**3** **「モニタの種類」の2番目(Digtal Flat Panel(1024×768))を選択して[プロパティ]をクリックします。**

**4** **「ドライバ」タブ－[ドライバの更新]をクリックします。**

**5** **「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で[次へ]をクリックします。**

**6** **「このデバイスの既知のドライバを表示して…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。**

**7** **「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」にチェックを付けます。**

**8** **一覧から次のディスプレイを選択して[次へ]をクリックします。**
**製造元:「標準モニタの種類」**
**モデル:「Digital Flat Panel(1600×1200)」**

**9** **「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールします。」と表示されたら、[次へ]をクリックします。**

**10** **「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されます。[完了]をクリックします。**

**11** **画面のプロパティを閉じます。これでディスプレイの設定は終了です。**
Windows2000インストール後の解像度は1024×768に設定されています。必要に応じて「画面のプロパティ」で設定を変更してください。

**WindowsXPの場合**

次の方法で15型LCDの設定を行います。

**1** **[スタート]－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。**

**2** **[詳細設定]－「モニタ」タブ－[プロパティ]をクリックします。**

**3** **「ドライバ」タブ－[ドライバの更新]をクリックします。**

**4** **「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で「一覧または特定の場所から…」を選択して[次へ]をクリックします。**

**5** **「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択して[次へ]をクリックします。**

**6** **「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外します。**

**7** **一覧から次のディスプレイを選択して[次へ]をクリックします。**
**製造元:「標準モニタの種類」**
**モデル:「Digital Flat Panel(1600×1200)」**

**8** **「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールが完了しました」と表示されたら、[完了]をクリックします。**

**9** **画面のプロパティを閉じます。これでディスプレイの設定は終了です。**
Windowsインストール後の解像度は1024×768に設定されています。必要に応じて「画面のプロパティ」で設定を変更してください。

# 各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。

参考

**インストールが必要なドライバの例**

お使いのシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合　：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　：プリンタに添付のドライバ

## ユーザーズマニュアルのインストール

『ユーザーズマニュアル』（本書）のPDFファイルをインストールします。

**1** **「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。**

**2** **［スタート］－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

**3** **「名前」に次のとおり入力して［OK］をクリックします。**

**A:\SETUP**

**4** **以降は画面の指示に従います。**

セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

**SBSIのインストール（WindowsXPのみ）**

WindowsXPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ（SBSI）」をインストールします。
「ステップバイステップインタラクティブ」のインストールは、次の手順で行います。

**1** 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。

**2** [スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

**3** 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:\SBSI\SETUP\SETUP

**4** 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

**5** 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。

**6** 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。

**7** 入力した「名前」と「会社名」の確認の画面が表示されます。入力した情報が正しければ、[はい]をクリックします。インストールが開始されます。

**8** 「セットアップが完了しました・・・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。

**9** [スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

**10** 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:\QFE\Q307460

**11** コマンドプロンプト画面が一瞬表示されて閉じます。これで「ステップバイステップインタラクティブ」のインストールは終了です。

# HDD領域の変更

## MS-DOS領域の種類

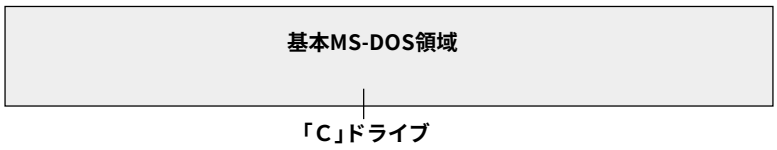
MS-DOS領域には、**「基本MS-DOS領域」**と**「拡張MS-DOS領域」**の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合に必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は**「C」**ドライブや**「D」**ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

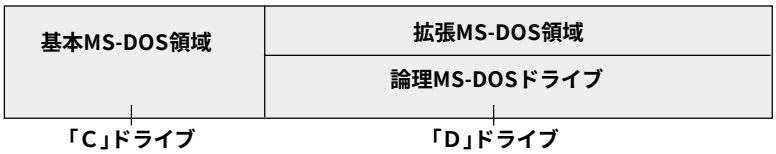
基本MS-DOS領域は、必ず**「C」**ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて**「C」**ドライブとなります。これに対して、**「C」「D」「E」**ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして区分けされ、**「D」「E」**などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

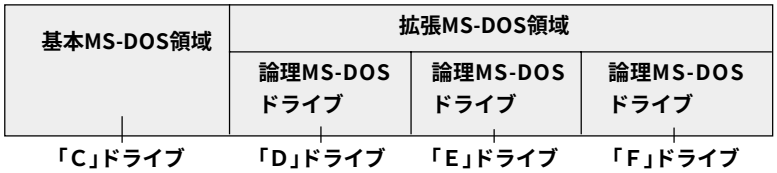
**基本MS-DOS領域のみを作成した場合**




**基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合**




**基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合**



**Windows XPの場合**

WindowsXPインストールモデルの購入時のHDD領域はNTFSでフォーマットしているため**「非MS-DOS領域」**になります。
非MS-DOS領域は、Windowsの「ディスクの管理」で変更できます。「ディスクの管理」では、プライマリパーティションと拡張パーティションが作成できます。1つのHDDに作成できるパーティションは、プライマリパーティションを4つ、またはプライマリパーティションを3つと拡張パーティションを1つまでです。プライマリパーティションは1つのドライブとして使用し、拡張パーティションには論理ドライブを作成します。論理ドライブはいくつでも作成することができます。「ディスクの管理」に関する詳しい説明は「Windowsのヘルプ」をご覧ください。
本機でHDD領域の設定を変更する場合は、いったんFDISKコマンドでFAT32の領域を作成する必要があります。詳しくはp.189「基本MS-DOS領域の作成」をご覧ください。

## HDD領域変更の手順

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を確保しなくてはなりません。
HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。

**領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。**

**Windows2000インストールモデルの場合**

**MS-DOS領域の削除**

最初に既存の領域を削除します。HDD領域の削除は**「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」→「拡張MS-DOS領域」→「基本MS-DOS領域」**の順番で行います。

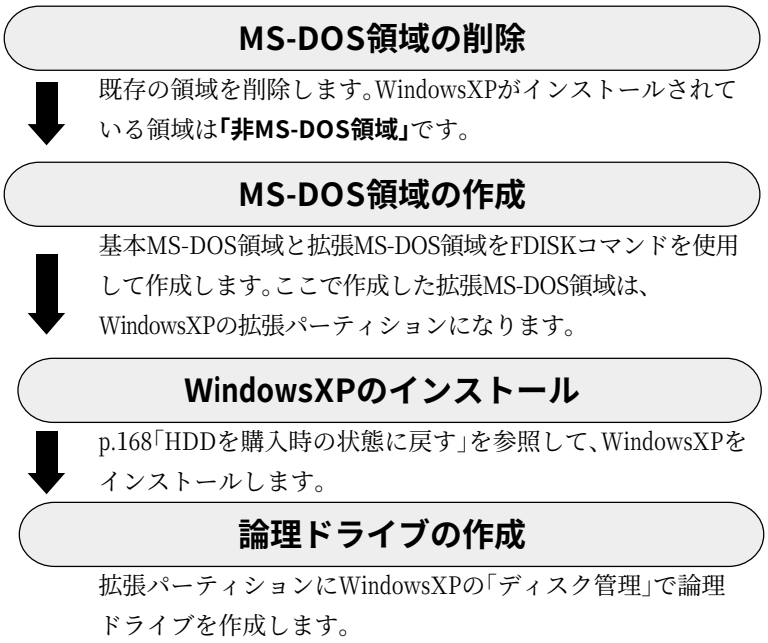
**MS-DOS領域の作成**

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は**「基本MS-DOS領域」→「拡張MS-DOS領域」→「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」**の順番で作成します。

**MS-DOS領域のフォーマット**

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

**WindowsXP インストールモデルの場合**




WindowsXPをインストールする領域は、領域作成時にFAT32ファイルシステムに設定されていますが、WindowsXPをインストールするときにNTFSに再設定されます。

# FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは「リカバリ CD Disc1」に登録されています。

## 大容量ディスクサポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。

FAT32ファイルシステムでは、どんな容量のHDD領域でも1つのHDD領域として使用できます。

Windows2000インストールモデルの購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムに設定してあります。ファイルシステムを変更してもリカバリを実行すると、FAT32ファイルシステムに設定されます。

WindowsXPインストールモデルの購入時のHDDは、NTFSに設定してあります。NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。ファイルシステムを変更してもリカバリを実行すると、NTFSに設定されます。

## 領域をアクティブにする

FDISKコマンドを使用して、1台のHDDに基本MS-DOS領域(Cドライブ)と拡張MS-DOS領域(Dドライブ以降)を作成する場合は、必ずCドライブ(Windowsをインストールする領域)をアクティブに設定します。アクティブ領域に設定しないとWindowsをインストールすることができません。

アクティブ領域の設定は、「基本MS-DOS領域の作成」手順に従って行ってください。

☞ p.184「基本MS-DOS領域の作成」

## コンピュータの起動

次の手順でコンピュータを起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

**1** **「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、CD-ROMドライブの起動順位を1番に変更します。**

❶ **コンピュータの電源を入れて、[F2]を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

p.127「BIOS Setupユーティリティの起動」

❷ **[→]を数回押して、「Bootメニュー画面」を表示します。**

❸ **[↓]を押して「ATAPI CD-ROM」を選択し、[Fn]+[+]を数回押し、「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。**

**2** **「リカバリCD Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。**

**3** **「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。**

❶ **[→]を押して、「Exitメニュー画面」に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で[↵]を押します。**

❷ **「Setup Confirmation」画面が表示されたら、[Yes]が選択されている状態で[↵]を押します。**

**4** **コンピュータが起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[キャンセル]をクリックします。**

**5** **画面左上にコマンドプロンプトが次のように表示されます。**

・Windows2000の場合　**A:\>**

・WindowsXPの場合　**P:\>**

作業が終了したら、忘れずに「BIOS Setupユーティリティ」でCD-ROMの起動順位をもとに戻しておいてください。

# HDD領域の変更（Windows2000）

**既存領域の削除**　次の手順でMS-DOS領域を削除します。

**1** **「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。**
☞ p.182「コンピュータの起動」

**2** **コマンドプロンプト（A:\＞）が表示されたら、次のとおり入力して［↵］を押します。**
**FDISK**

**3** **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y / N）」と表示されます。［N］または［Y］を押して［↵］を押します。**
通常は、「Y」を選択します。

**4** **処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。［3］を押してから［↵］を押します。**

**5** **「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。**
基本MS-DOS 領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。**「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」→「拡張MS-DOS 領域」→「基本MS-DOS 領域」**の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS 領域を削除する手順を説明します。（基本MS-DOS領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。）
［1］を押してから［↵］を押します。

**6** **削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して［↵］を押します。**

**7** **削除する領域のボリュームラベルを入力し、［↵］を押します。**
画面上部に表示されている領域の情報から「ボリュームラベル」を確認してください。「ボリュームラベル」が空白の場合は何も入力せずに［↵］を押します。

**8** **確認メッセージが表示されたら、［Y］を押して［↵］を押します。**
基本MS-DOS領域が削除されます。

**9** **Esc を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。**
領域を作成する場合は、p.184「基本MS-DOS領域の作成手順5」に移ります。

**10** **Esc を押してFDISKを終了します。**

**11** **コマンドプロンプト（A:\>）が表示されます。**
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

### 基本MS-DOS領域の作成

次の手順でMS-DOS領域を作成します。

**1** **「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。**
☞ p.182「コンピュータの起動」

**2** **コマンドプロンプト（A:\>）が表示されたら、次のとおり入力して ↵ を押します。**
**FDISK**

**3** **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。N または Y を押して ↵ を押します。**
通常は、「Y」を選択します。

**4** **処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。1 を押してから ↵ を押します。**

**5** **「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。1 を押してから ↵ を押します。**

**6** **「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを・・・」とメッセージが表示されます。**

**7** **Y を入力した場合と N を入力した場合で次のように作業が異なります。**

- Y を入力して ↵ を押した場合

  基本MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから Ctrl + Alt + Delete を押して、Windowsを再起動します。

  再起動後にリカバリを行います。

  p.172「リカバリの実行」

- N を入力して ↵ を押した場合

  N を押すと**「領域のサイズを･･･入力してください。」**とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを%で入力し ↵ を押します。続いて、手順8に進みます。

**8** **基本 MS-DOS 領域が作成されます。Esc を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

**基本MS-DOS領域をアクティブに設定**

**9** **処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。2 を押してから ↵ を押します。**

**10** **「アクティブにしたい･･･」とメッセージが表示されます。1 を押してから ↵ を押します。**

**11** **「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。Esc を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

拡張MS-DOS領域と論理MS-DOSドライブの作成

**12** 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。[1]を押してから[↵]を押します。

**13** 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。[2]を押してから[↵]を押します。

**14** 「領域のサイズを・・・入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま[↵]を押してください。

**15** 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。[Esc]を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。

**16** 「論理ドライブのサイズを・・・入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて３つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを%で入力し、[↵]を押します。

**17** すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、[Esc]を数回押して、FDISKを終了します。

**18** コマンドプロンプト(A:\>)が表示されます。

これでMS-DOS領域の作成は終了です。Windowsをインストールする領域(Cドライブ)以外の領域は、再起動後フォーマットを行ってください。

☞ p.187「MS-DOS領域のフォーマット」

Windowsのインストールは、p.168「HDDを購入時の状態に戻す」をご覧ください。

**MS-DOS領域のフォーマット**

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。ただし、Cドライブはリカバリ実行中にフォーマットを行うので、ここでは必要ありません。フォーマットの手順は、次のとおりです。

**1** **「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。**
☞ p.182「コンピュータの起動」

**2** **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して[↵]を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)**
**FORMAT□D:（□はスペースを意味します。）**

**3** **「フォーマットしますか(Y/N)？」と確認のメッセージが表示されたら、[Y]を押して[↵]を押します。フォーマットが開始されます。**

**4** **フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して[↵]を押します。**
必要のない場合は、そのまま[↵]を押します。コマンドプロンプト(A:\>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

## HDD領域の変更（WindowsXP）

ここではWindowsXPのインストールされている領域を削除します。WindowsXPの「ディスク管理」で作成したパーティションは「ディスク管理」で削除してください。

**既存領域の削除**

**1** **「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。**
☞ p.182「コンピュータの起動」

**2** **コマンドプロンプト(P:\>)が表示されたら、次のとおり入力して[↵]を押します。**
**FDISK**

**3** **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示されます。[Y]を押して[↵]を押します。**

**4** **「すべてのNTFSパーティションを大容量ドライブとして取り扱いますか？(Y/N)」と表示されます。[Y]を押して[↵]を押します。**

**5** **処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。[3]を押してから[↵]を押します。**

**6** **「4. 非MS-DOS 領域を削除」を選択します。[4]を押してから[↵]を押します。**

**7** **削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して[↵]を押します。**

**8** **削除する領域のボリュームラベルを入力し、[↵]を押します。**
画面上部に表示されている領域の情報で「ボリュームラベル」を確認してください。「ボリュームラベル」が空白の場合は何も入力せずに[↵]を押します。

**9** **確認メッセージが表示されたら、[Y]を押して[↵]を押します。**
WindowsXPがインストールされているNTFS領域が削除されます。

**10** **[Esc]を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。**
領域を作成する場合はp.189「基本MS-DOS領域の作成 手順4」に移ります。

**11** **[Esc]を押してFDISKを終了します。**

**12** **コマンドプロンプト(P:\>)が表示されます。**
これでWindowsXPがインストールされていた領域の削除は終了です。

## 基本MS-DOS領域の作成

ここでは、HDD 領域を分割して、WindowsXPをインストールする領域と拡張MS-DOS領域を作成する方法について説明します。

HDD領域を分割する場合は、最初にFDISK コマンドを使って、「基本MS- DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」を作成しておく必要があります。「基本MS- DOS 領域」は、WindowsXP をインストールする「プライマリパーティション」に、「拡張MS-DOS 領域」は、「拡張パーティション」になります。

「基本MS- DOS 領域」は、FAT32 ファイルシステムで作成されますが、リカバリ実行後は、NTFSに設定変更されます。

「拡張MS- DOS 領域」を作成せずに、未設定領域のままリカバリを実行すると、HDD 領域は分割されず、1パーティションとして設定されてしまいますので、注意してください。

**1** **「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。**

☞ p.182「コンピュータの起動」

**2** **コマンドプロンプト(P:\>)が表示されたら、次のとおり入力して[↵]を押します。**

**FDISK**

**3** **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。[Y]を押して[↵]を押します。**

**4** **処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。[1]を押してから[↵]を押します。**

**5** **「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。[1]を押してから[↵]を押します。**

**6** **「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを･･･」とメッセージが表示されます。**

領域を2つ以上作成する場合は[N]を選択、領域を1つ作成する場合は[Y]を選択します。

- [Y]を入力して[↵]を押した場合

  基本MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を押して、コンピュータを再起動し、Windowsのインストールを行います。

  ☞ p.168「HDDを購入時の状態に戻す」

- [N]を入力して[↵]を押した場合

**「領域のサイズを･･･入力してください。」**とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを%入力し[↵]を押します。

**7** **基本 MS-DOS 領域が作成されます。[Esc]を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

**8** **処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。[2]を押してから[↵]を押します。**

**9** **「アクティブにしたい･･･」とメッセージが表示されます。[1]を押してから[↵]を押します。**

**10** **「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。[Esc]を数回押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

**拡張MS-DOS領域の作成**

**11** **再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。[1]を押してから[↵]を押します。**

**12** **「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。[2]を押してから[↵]を押します。**

**13** **「領域のサイズを･･･入力してください。」とメッセージが表示されます。そのまま[↵]を押してください。**

**14** **拡張 MS-DOS 領域が作成されます。Esc を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。**

**15** **Esc を数回押してFDISKを終了します。**
Ctrl + Alt + Delete を押してコンピュータを再起動し、Windowsのインストールを行います。
☞ p.168「HDDを購入時の状態に戻す」
未設定の領域はWindowsのインストールを行ったあと、p.191「論理ドライブの作成」を行います。

### 論理ドライブの作成

HDD領域の変更時、拡張MS-DOS領域(拡張パーティション)を作成した場合は、論理ドライブを作成します。作業はWindowsXPのインストール後にWindowsXP上で行います。
論理ドライブの作成方法は次のとおりです。

**1** **[スタート]−「コントロールパネル」−「パフォーマンスとメンテナンス」−「管理ツール」−「コンピュータの管理」を選択します。**

**2** **画面左側の「記憶域」にある「ディスクの管理」をクリックします。**

**3** **「ディスク0」の「空き領域」を右クリックし、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」を選択します。**

**4** **ウィザードが起動するので、画面の指示に従って設定を行います。**

**5** **新しいドライブが割り当てられ、フォーマットが終了すると領域が使用できるようになります。**

**制限** **WindowsXPで作成した論理ドライブは、FDISKコマンドでは削除できません。論理ドライブを削除する場合は、必ず「ディスク管理」から実行してください。**

# 機能仕様一覧

| | | |
|---|---|---|
| CPU | | モバイルインテル Pentium 4 プロセッサ-Mまたは<br>モバイルインテルCeleronプロセッサ |
| メモリ | ROM | AWARD BIOS |
| | メインメモリ | 266MHz、DDR SDRAM |
| | | 最大1GBまで増設可能(SODIMMソケット×2) |
| ビデオ | コントローラ | ATI MOBILITY RADEON7500 |
| | バス | AGPバス |
| | ビデオメモリ | 32MB　DDR SDRAM |
| 画面表示 | 液晶タイプ | 14.1型XGAカラー液晶　1024×768ドット　True Color(32ビット)* |
| | | 15型SXGA+カラー液晶 1400×1050ドット　True Color(32ビット)* |
| | | 15型UXGAカラー液晶　1600×1200ドット　True Color(32ビット)* |
| | 外部ディスプレイ接続 | 1600×1200ドット、True Color(32ビット) |
| サウンド | コントローラ | AC'97対応 |
| | バス | PCIバス |
| キーボード | | 日本語対応90キー(Windowsキー、インスタントキー付き) |
| ポインティングデバイス | | タッチパッド(スクロールボタン付き) |
| 記憶装置 | FDD | 3.5型FDD1基内蔵 |
| | HDD | 2.5型IDE HDD1基内蔵 |
| | CD-ROMドライブ | 24倍速CD-ROMドライブ1基内蔵 |
| インタフェース | パラレル | 1(セントロニクス社準拠　D-SUB　25ピン　マルチモード双方向　ECP/EPPサポート) |
| | シリアル | 1(RS-232C準拠　D-SUB　9ピン) |
| | VGA | 1(アナログRGB　ミニD-SUB　15ピン) |
| | キーボード／マウス | 1(IBM PS/2互換　ミニDIN　6ピン) |
| | サウンド | ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵<br>ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力(S/P DIF)コネクタ×1、<br>マイク入力コネクタ×1 |
| | IrDA | IrDA1.1準拠　FIR(4Mbps)、SIR(115.2Kbps)対応 |
| | USB | 2 |
| | IEEE1394 | 2(4ピン) |
| | TV出力 | 1(S端子) |
| | FAXモデム | 1(RJ-11 K56flex V.90対応)** |
| | ネットワーク | 1(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動確認) |
| PCカードスロット | | 2スロット　TypeII ×2または TypeIII ×1<br>(PC Card Standard準拠CardBus対応) |
| カレンダ時計 | | 内蔵(内蔵電池によりバックアップ) |
| 電源 | ACアダプタ | 入力AC100V～240V±10V***、1.5A (50/60Hz)、出力19V、3.42A<br>重量240g |
| | バッテリパック | 容量 4000mAh<br>Li-ion 14.8V<br>動作時間　約2時間　　当社独自測定方法<br>　　約3時間　　JEITA測定方法 |
| 温湿度条件 | | 温度:10～35℃<br>湿度:20～80%(ただし、結露しないこと) |
| 外形寸法 | | 本体:約326(幅)× 267(奥行)× 42(高さ)mm(突起部除く) |
| 重量 | | 本体:約3.3Kg(バッテリ装着時) |
| 消費電力 | | 待機時消費電力 2.5W(最大65W) |

*　グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
**　認定番号ラベルはコンピュータの背面に貼付されています。
***　標準添付されている電源コードはAC100V用(日本仕様)です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

# 用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● **ACPI**

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● **AGP**

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

● **BIOS(バイオス)**

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

**使用例** BIOSの設定を行ってください。
＝BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

**類義語** CMOS RAM

● **BIOS Setupユーティリティ**

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

● **Boot(ブート)**

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

● **CPU**

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● **DDR SDRAM**

「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

● **DMA転送**

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

**使用例** DMA転送により高速なデータの入出力が可能です。

● **DMAチャネル**

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

**使用例** サウンドカードで使用するDMAチャネルを設定する。

● **DRAM(ディーラム)**

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。
メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● **FAT32ファイルシステム**

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を１つのドライブとして使用することができます。

● **I/Oポート(Input/Outputポート)**

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

● **IDE**

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。

**使用例** IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

● **IEEE1394**

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

● **IRQ**

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● **IRQ番号**

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

**使用例** サウンドカードではIRQ7を使用します。

● **MIDI**

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● **NTFS**

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● **OS**

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

● **PCIバス**

拡張バスの一種。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

● **RAM（Random Access Memory）**

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● **ROM（Read Only Memory）**

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● **RS232C**

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA（ターミナルアダプタ）などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● **SDRAM**

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● **SODIMM**

Single Outline Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● **S/PDIF**

Sony Philips Digital InterFaceの略です。デジタル信号に変換された音声データをやりとりするためのインタフェースのことです。

● **TA（ターミナルアダプタ）**

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● **USB**

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格。キーボードやマウス、プリンターなど、USB対応品が増えています。

● **アカウント**

ネットワーク上で利用者を識別するための名前（記号や番号）のことです。

● **アクセス**

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

**使用例** HDDにアクセスする。＝HDDのデータを読み書きします。

● **アクセスポイント**

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

● **アクセスランプ**

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

**使用例** HDDアクセスランプ

● **アップロード**

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● **アドレス**

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

**使用例** メモリアドレス、I/Oポートアドレス

● **アプリケーションソフト**

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● **インストール**

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

**使用例** サウンドドライバをインストールします。

● **インタフェース**

コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

**使用例** IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

● **オフライン**

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● **オンライン**

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● **解像度**

画面表示の細かさのことです。

**使用例** 1024×768ドットの解像度で表示します。

● **外部キャッシュメモリ**

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

**類義語** キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

● **カーソル**

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

**使用例** マウスカーソル

● **起動する**

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

**類義語** 立ち上げる。

● **キャッシュ処理、キャッシュ機能**

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

**使用例** メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

● **コマンド**

コンピュータに与える命令です。
命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

**使用例** 次のコマンドを入力してください。

● **サーバ**

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● **システム**

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

**使用例** システムを起動する。＝コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

● **ダイヤルアップ接続**

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● **ダウンロード**

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● **ディザリング**

複数の画素を組み合わせて、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

● **ディスプレイ**

表示装置のことです。

**類義語** CRTディスプレイ、モニタ

● **ドット**

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

**使用例** 1024×768ドットの解像度＝画面上に1024×768個の点を表示することができます。

● **ドライブレター**

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

● **内部キャッシュ**

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● **バス**

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

**使用例** PCIバス、AGPバス

● **パラメータ**

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

**使用例** パラメータを設定します。

● **ハングアップ**

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● **ヒートシンク**

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

● **ファイル**

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

**使用例** ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

● **物理ドライブ**

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● **ブラウザ**

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

● **プラグアンドプレイ**

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

● **プログラム**

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

**類義語** ソフトウェア、アプリケーションソフト

● **プロトコル**

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● **ポート**

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● **ボリュームラベル**

HDDやFDにつけた名称のことです。

● **メッセージ**

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● **メインメモリ**

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

**使用例** メインメモリは128MBです。

● **メモリ**

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● **メモリチェック**

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● **モデム**

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● **リソース**

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。

**類義語** システム資源

● **ログオン**

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

**類義語** ログイン／ログアウト

● **論理ドライブ**

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

# 索引


**英数字**

2HD(FDD) ..... 60
2DD(FDD) ..... 60
3.5型フロッピーディスクドライブ ..... 60

## A

ACアダプタコネクタ ..... 11
ACアダプタの接続 ..... 17
ACアダプタの使用 ..... 40
ADSL ..... 90
Adobe Acrobat Reader ..... 6
ATコマンド ..... 166

## B

BIOS Setupユーティリティ ..... 126
　設定項目 ..... 132
　パスワードの設定 ..... 135

## C

CapsLock ..... 56
CardBus ..... 67
CD-ROM ..... 64
CD-ROMイジェクトホール ..... 10
CD-ROMイジェクトボタン ..... 10
CD-ROMドライブ ..... 64
　～の不具合 ..... 153
　～アクセスランプ ..... 10
COAラベル ..... 3
CRTディスプレイ ..... 77

## D

DC-IN ..... 17
DV Symphomovie ..... 116

## F

FAT32ファイルシステム ..... 181
FAXモデム ..... 87
　～の不具合 ..... 158
　インターネットに接続する ..... 89
FD（フロッピーディスク） ..... 60
FDD（フロッピーディスクドライブ） ..... 60
　～の不具合 ..... 151
FDDイジェクトボタン ..... 7
FDISKコマンド ..... 181
FIR ..... 71
Fnキー ..... 57
FORMATコマンド（Windows2000） ..... 187

## H

HDD（ハードディスクドライブ） ..... 63
　～領域の変更 ..... 178
　～の不具合 ..... 152
HDDパスワード ..... 135

## I

IEEE1394コネクタ ..... 10,116
Internet Explorer ..... 99
IrDA ..... 71
ISDN ..... 90

## J

JAVA VM ..... 33

## L

LAN ..... 114
LCD画面 ..... 75
　～のお手入れ ..... 164
LCDユニット ..... 75
LCDの不具合 ..... 148

LCDラッチ ..... 7
LED ..... 8

## M

MS-DOS領域 ..... 178
MS-DOS領域のフォーマット ..... 187
MS-IME ..... 55

## N

NumLock ..... 56
NTFS ..... 181

## O

Outlook Express ..... 99

## P

Passwordの設定 ..... 135
PBX ..... 87
PCカード ..... 67
　～の不具合 ..... 155
PCカードスロット ..... 67
PCカードイジェクトボタン ..... 70
Power Gear ..... 112

## S

S/P DIF ..... 85
SIR ..... 71
SODIMM(メモリ) ..... 119
　～の不具合 ..... 155
SXGA+ ..... 75
S端子 ..... 80

## T

TVOUT ..... 80

## U

URL ..... 102
USBコネクタ ..... 11,115
UXGA ..... 75

## V

VGAコネクタ ..... 77
Virus Scan for Windows ..... 116

## W

Windows2000
　～のセットアップ ..... 21
　セットアップブートディスクの作成 ..... 27
WindowsXP
　～のセットアップ ..... 23
Windowsキー ..... 58

## X

XGA ..... 75

## 50音順


### あ

アイコン ..... (11)
アウトルックエクスプレス ..... 99
アクセスLED ..... 8
アプリケーションキー ..... 8

### い

インスタントキー ..... 59
インストール時の不具合 ..... 157
インターネットに接続 ..... 89
インターネットエクスプローラ ..... 99
インタラクティブトレーニング ..... 32

### う

ウィルス ..... 116

### え

液晶ディスプレイ ..... 75

### お

オーディオ機器の接続 ..... 85
お手入れ ..... 164

### か

解像度の変更 ..... 81
拡張MS-DOS領域 ..... 178

### き

キーボード ..... 54
　～の接続（外付け） ..... 59
　～の不具合 ..... 147
キーロック表示ランプ ..... 8
起動方法 ..... 182
機能キー ..... 54
機能仕様一覧 ..... 192
休止状態 ..... 106
強制取り出し(CD-ROM) ..... 66

### く

クリック ..... 51

### け

警告メッセージ ..... 160
ケンジントンロック ..... 7

### こ

コンピュータウィルス ..... 116
コンピュータ本体の不具合 ..... 142

### さ

サウンド機能 ..... 84

### し

システムの拡張 ..... 118
シリアルコネクタ ..... 10,115
仕様 ..... 192
省電力機能 ..... 106
　～に関する不具合 ..... 145
　復帰方法 ..... 110

### す

数値キー ..... 54
スクロールボタン ..... 50
スタンバイ ..... 106
ステップバイステップインタラクティブ ..... 32
　～のインストール ..... 177
ステレオスピーカ ..... 84
　スピーカの不具合 ..... 156
スピードステップ機能 ..... 111

## せ

セーフモード ..... 149
赤外線通信 ..... 71
赤外線通信ポート ..... 10
セットアップ
　Windows2000インストールモデル ..... 21
　WindowsXPインストールモデル ..... 23
セットアップブートディスクの作成 ..... 27

## そ

外付けディスク ..... 77

## た

ダイヤルアップ接続 ..... 92
大容量ディスクサポート ..... 181
タスクバー ..... (11)
タッチパッド ..... 50
　～の不具合 ..... 148
タブ ..... (11)
ダブルクリック ..... 51
ダミーカード ..... 68

## つ

通信モード ..... 71

## て

ディスプレイ ..... 75
　～の設定（LCD） ..... 174
　～の接続（CRT) ..... 77
　～の不具合(LCD) ..... 148
デスクトップ ..... (11)
デスクトップクリーンアップ ..... 32
デュアルディスプレイ機能 ..... 79
テレビへの接続 ..... 80
電源スイッチ ..... 20
電源の入れ方 ..... 20
電源の切り方 ..... 34
電源LED ..... 20
添付ソフトウェア ..... 5
電話回線への接続 ..... 16

## と

ドラッグアンドドロップ ..... 51

## な

内蔵ステレオスピーカ ..... 84
内蔵マイク ..... 7

## に

日本語入力プログラム ..... 55
入力キー ..... 54

## ね

ネットワーク ..... 114
　～に接続する ..... 15
ネットワークコネクタ ..... 11

## は

ハードディスクドライブ（HDD） ..... 63
　～のフォーマット（Windows2000） ..... 187
　～の領域の変更（Windows2000） ..... 183
　～の領域の変更（WindowsXP） ..... 186
　～の不具合 ..... 152
パスワード ..... 135
バックアップディスクの作成 ..... 25
バックライト ..... 76
バッテリ充電LED ..... 45
バッテリパック ..... 40
　～の交換 ..... 47
　～の装着 ..... 14

～の不具合 ..... 146
パラレルコネクタ ..... 11,114
パワーギア ..... 112
パワーマネージメント ..... 106
ハングアップ ..... 36

## ひ

非MS-DOS領域 ..... 179
光デジタルオーディオ（S/P DIF）出力 ..... 85
ビデオ出力ジャック ..... 80
表示色の変更 ..... 83
表示装置 ..... 75

## ふ

フォーマット（FD） ..... 61
フォーマット（HDD） ..... 186
プリンタの不具合 ..... 156
フロッピーディスクドライブ（FDD） ..... 60
～の不具合 ..... 151
フロッピーディスク（FD） ..... 60
プロバイダ ..... 89

## へ

ヘッドフォン出力コネクタ ..... 85

## ほ

ボタン ..... (11)
ボリューム調節ダイヤル ..... 84

## ま

マイク入力コネクタ ..... 85
マウスコネクタ ..... 52
マウスの接続 ..... 53
マニュアルディスク ..... 6

## み

ミュートLED ..... 84

## め

メールの送受信 ..... 104
メールLED ..... 9
メールユーティリティ ..... 105
メモリ（SODIMM） ..... 105
～の不具合 ..... 155

## も

モデム ..... 87
～の不具合 ..... 158
モデムコネクタ ..... 11

## ゆ

ユーティリティCD ..... 6

## ら

ライトプロテクト（FD） ..... 62

## り

リカバリ ..... 168
リカバリCD ..... 5
リカバリの実行 ..... 172
リセット ..... 36
リセットホール ..... 37
リチウム電池の交換 ..... 165

## ろ

ローバッテリ省電力機能 ..... 106
論理ドライブ ..... 191

## わ

ワイヤレスリンク ..... 71

## ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

## 使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

## 本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

## 電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

## 漏洩電流自主規制について

本装置は、（社）電子情報技術産業会((社）日本電子工業振興協会）のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

## 高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

## 商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
インテル、Pentiumはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
PS/2は International Business Machines の登録商標です。
VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標(地域によっては登録商標)です。
そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

© エプソン販売株式会社 2002

エプソン販売 株式会社

PRINTED WITH SOY INK 大豆油インキを使用しています。

このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。

C77202003 02.12-10.10(SO)